



令和元年度

第 59 回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和 2 年 5 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識や、県政に対してどのような関心や、期待などを持っておられるかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

平成18年度からは年2回実施しており、今回は令和元年度第2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月から12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的内容としては、「電話d e 詐欺に関する県民の意識」、「消費生活」、「医療」、「人生の最終段階における医療や療養への希望」、「食品ロス」、「食育」、「心肺蘇生法及びA E D（自動体外式除細動器）」、「I C T利活用の推進」の8項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や諸事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

結びに、この調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和2年5月

千葉県総合企画部長 鎌形 悦弘

目 次

調査の概要	1
調査の結果 調査結果の解説	9
1 電話 d e 詐欺に関する県民の意識について	9
(1) 名称の認知度	9
(2) 電話 d e 詐欺の手口に対する知識	11
(2-1) 電話 d e 詐欺への対策	13
(2-2) 電話 d e 詐欺への対策をとっていない理由	15
(2-3) 電話 d e 詐欺の手口を知った媒体	17
(3) 電話 d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体	19
2 消費生活について	22
(1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できる場所」の有無	22
(2) 消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無	24
(3) 県の消費者センターや市町村の消費生活センターの認知度	26
(4) 悪質商法に対する考え	28
(5) 消費者教育の機会に対する考え	30
(6) 生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無	32
(7) 消費生活全般の満足度	34
3 医療について	37
(1) 県内の医療の満足度	37
(1-1) 県内の医療で不満な点	39
(2) 今後、県に力を入れて欲しい医療	41
4 人生の最終段階における医療や療養への希望について	44
(1) 延命治療の希望	44
(1-1) 延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望	46
5 食品ロスについて	49
(1) 「食品ロス」が問題となっていることの認知度	49
(2) 「食品ロス」の削減の取組状況	51
(2-1) 普段の生活の中での取組	53
(2-2) 外食や宴会での取組	55
(3) 「ちば食べきりエコスタイル」の認知度	57
(3-1) 「ちば食べきりエコスタイル」を知った方法	59

6	食育について	62
(1)	食育への関心度	62
(1-1)	食育に関心を持ったきっかけ	64
(2)	健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無	66
(3)	農林漁業体験の参加状況	68
(4)	食に関わる文化の認知状況	70
(4-1)	食に関わる文化の伝承について	72
7	心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について	75
(1)	胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか	75
(1-1)	異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか	77
(1-2)	胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由	79
(1-3)	異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由	81
(2)	AEDの認知度・利用経験	83
(3)	AEDを使用できるか	85
(3-1)	異性に対してAEDを使用できるか	87
(3-2)	AEDを使用できないと思う理由	89
(3-3)	異性に対してAEDを使用できないと思う理由	91
(4)	応急手当の講習を希望する場所	93
8	ICT利活用の推進について	96
(1)	「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと	96
(2)	「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと	98
(3)	「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと	100
(4)	「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度	102
9	自由回答	105
	（付）調査票および単純集計結果	111

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

県政の主要課題

- ①電話 d e 詐欺に関する県民の意識について
- ②消費生活について
- ③医療について
- ④人生の最終段階における医療や療養への希望について
- ⑤食品ロスについて
- ⑥食育について
- ⑦心肺蘇生法及び A E D（自動体外式除細動器）について
- ⑧ I C T 利活用の推進について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)
- (6) 調査時期 令和元年11月22日～令和元年12月13日

4. 調査機関 株式会社 エスピー研

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,361件
有効回収数 (C)	1,359件
うちネット回収数	126件
無効回収数	2件
うちネット回収数	0件
回収率 (B / A)	45.37%
有効回収率 (C / A)	45.30%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人
標本数：3,000人
地点数：市部 193地点
 郡部 7地点
 計 200地点
抽出法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

1．県内を、次の11地域に分類した。

地 域 名	該 当 市 郡 名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2．各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

（注）ここでいう市とは、
平成31年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（平成31年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

〔抽出〕

- 平成27年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 - 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 - 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 - 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 市郡	市部	郡部	計
①千葉地域	1,061,456 600 40	0 0 0	1,061,456 600 40
②葛南地域	1,412,819 795 53	0 0 0	1,412,819 795 53
③東葛飾地域	1,276,897 705 47	0 0 0	1,276,897 705 47
④印旛地域	580,163 330 22	36,493 15 1	616,656 345 23
⑤香取地域	67,130 30 2	30,640 15 1	97,770 45 3
⑥海匝地域	142,542 75 5	0 0 0	142,542 75 5
⑦山武地域	139,012 75 5	41,387 30 2	180,399 105 7
⑧長生地域	77,748 45 3	52,820 30 2	130,568 75 5
⑨夷隅地域	49,533 30 2	14,938 15 1	64,471 45 3
⑩安房地域	103,403 60 4	7,118 0 0	110,521 60 4
⑪君津地域	279,511 150 10	0 0 0	279,511 150 10
計	5,190,214 2,895 193	183,396 105 7	5,373,610 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（平成31年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区中央 2 丁目	15	① 千葉地域	市原市旭五所	15
	千葉市中央区祐光 4 丁目	15		市原市大厩	15
	千葉市中央区末広 2 丁目	15		市原市泉台 3 丁目	15
	千葉市中央区松波 2 丁目	15		市原市五井西 4 丁目	15
	千葉市中央区大字都町	15	② 葛南地域	市川市南八幡 3 丁目	15
	千葉市中央区宮崎 2 丁目	15		市川市平田 4 丁目	15
	千葉市中央区鵜の森町	15		市川市中山 1 丁目	15
	千葉市中央区浜野町	15		市川市大和田 4 丁目	15
	千葉市花見川区検見川町 3 丁目	15		市川市菅野 6 丁目	15
	千葉市花見川区武石町 2 丁目	15		市川市二俣 1 丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷 2 丁目	15		市川市新田 4 丁目	15
	千葉市花見川区さつきが丘 1 丁目	15		市川市真間 4 丁目	15
	千葉市花見川区犢橋町	15		市川市南大野 3 丁目	15
	千葉市稲毛区天台 5 丁目	15		市川市富浜 1 丁目	15
	千葉市稲毛区稲丘町	15		市川市曾谷 5 丁目	15
	千葉市稲毛区あやめ台	15		市川市富浜 3 丁目	15
	千葉市稲毛区稲毛町 5 丁目	15		市川市堀之内 3 丁目	15
	千葉市稲毛区長沼町	15		市川市行徳駅前 3 丁目	15
	千葉市若葉区桜木 7 丁目	15		市川市南行徳 1 丁目	15
	千葉市若葉区若松町	15		市川市欠真間 2 丁目	15
	千葉市若葉区貝塚町	15		市川市相之川 2 丁目	15
	千葉市若葉区みつわ台 4 丁目	15		船橋市本町 6 丁目	15
	千葉市若葉区大宮台 5 丁目	15		船橋市宮本 2 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央 8 丁目	15		船橋市海神町 2 丁目	15
	千葉市緑区誉田町 1 丁目	15		船橋市本郷町	15
	千葉市緑区越智町	15		船橋市西船 5 丁目	15
	千葉市美浜区真砂 4 丁目	15		船橋市山手 2 丁目	15
	千葉市美浜区磯辺 5 丁目	15		船橋市夏見 6 丁目	15
	千葉市美浜区幕張西 1 丁目	15		船橋市行田 1 丁目	15
	千葉市美浜区高洲 1 丁目	15		船橋市藤原 5 丁目	15
	千葉市美浜区高浜 1 丁目	15		船橋市二和西 1 丁目	15
	市原市惣社 1 丁目	15		船橋市八木が谷 5 丁目	15
	市原市新堀	15		船橋市坪井町	15
	市原市辰巳台西 2 丁目	15		船橋市南三咲 4 丁目	15
	市原市青葉台 4 丁目	15		船橋市芝山 6 丁目	15
	市原市五井中央西 2 丁目	15		船橋市習志野台 7 丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
② 葛南地域	船橋市西習志野 2 丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市堤根	15
	船橋市二宮 1 丁目	15		野田市今上	15
	船橋市三山 6 丁目	15		野田市中野台鹿島町	15
	船橋市前原東 2 丁目	15		野田市七光台	15
	習志野市袖ヶ浦 2 丁目	15		野田市岡田	15
	習志野市香澄 2 丁目	15		柏市ひばりが丘	15
	習志野市谷津 5 丁目	15		柏市あけぼの 2 丁目	15
	習志野市大久保 1 丁目	15		柏市東柏 1 丁目	15
	習志野市本大久保 2 丁目	15		柏市南柏 2 丁目	15
	八千代市高津東 3 丁目	15		柏市十余二	15
	八千代市緑が丘 3 丁目	15		柏市北柏台	15
	八千代市米本団地 5 街区	15		柏市大字逆井	15
	八千代市村上南 1 丁目	15		柏市酒井根 4 丁目	15
	八千代市大和田	15		柏市増尾台 4 丁目	15
	八千代市八千代台南 3 丁目	15		柏市伊勢原 1 丁目	15
	浦安市猫実 1 丁目	15		柏市布施新町 1 丁目	15
	浦安市北栄 3 丁目	15		柏市大津ヶ丘 3 丁目	15
	浦安市富士見 3 丁目	15		流山市松ヶ丘 4 丁目	15
	浦安市堀江 4 丁目	15		流山市大字西平井	15
	浦安市入船 6 丁目	15		流山市流山 5 丁目	15
	浦安市明海 5 丁目	15		流山市東初石 4 丁目	15
③ 東葛飾地域	松戸市竹ヶ花	15		流山市江戸川台東 3 丁目	15
	松戸市野菊野	15		我孫子市若松	15
	松戸市根本	15		我孫子市我孫子 3 丁目	15
	松戸市日暮 2 丁目	15		我孫子市青山	15
	松戸市大字穂台	15		我孫子市湖北台 1 丁目	15
	松戸市大橋	15		我孫子市都	15
	松戸市北松戸 3 丁目	15		鎌ヶ谷市道野辺本町 2 丁目	15
	松戸市常盤平 3 丁目	15		鎌ヶ谷市栗野	15
	松戸市五香西 6 丁目	15		鎌ヶ谷市馬込沢	15
	松戸市大字紙敷	15	④ 印旛地域	成田市幸町	15
	松戸市新松戸 6 丁目	15		成田市橋賀台 1 丁目	15
	松戸市小金上総町	15		成田市大袋	15
	松戸市小金清志町 2 丁目	15		成田市本三里塚	15
	松戸市八ヶ崎 5 丁目	15		佐倉市鐺木町 2 丁目	15
	松戸市五香西 2 丁目	15		佐倉市羽鳥	15
	松戸市新松戸北 1 丁目	15		佐倉市生谷	15
	松戸市小金きよしヶ丘 2 丁目	15		佐倉市中志津 6 丁目	15

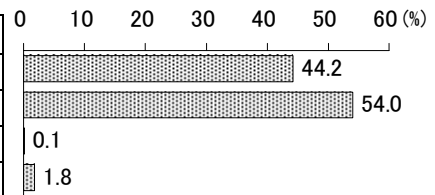
第59回県政に関する世論調査（R元年度）

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市ユーカリが丘4丁目	15	⑦ 山武地域	山武市蓮沼口	15
	佐倉市西志津5丁目	15		大網白里市みどりが丘2丁目	15
	四街道市大字四街道	15		山武郡九十九里町片貝	15
	四街道市池花2丁目	15		山武郡横芝光町尾垂	15
	八街市八街ろ	15	⑧ 長生地域	茂原市早野	15
	八街市大木	15		茂原市墨田	15
	八街市泉台3丁目	15		茂原市西野	15
	印西市小林北4丁目	15		長生郡長生村水口	15
	印西市木刈6丁目	15	⑨ 夷隅地域	長生郡長南町小沢	15
	印西市若萩2丁目	15		勝浦市部原	15
	白井市谷田	15		いすみ市小沢	15
	白井市西白井4丁目	15		夷隅郡大多喜町栗又	15
	富里市大和	15	⑩ 安房地域	館山市大神宮	15
	富里市日吉台3丁目	15		鴨川市西町	15
	印旛郡酒々井町酒々井	15		南房総市富浦町多田良	15
				南房総市川谷	15
⑤ 香取地域	香取市篠原イ	15	⑪ 君津地域	木更津市清見台南5丁目	15
	香取市南原地新田	15		木更津市請西東4丁目	15
	香取郡神崎町神崎本宿	15		木更津市大字畑沢	15
⑥ 海匝地域	銚子市海鹿島町	15		木更津市菅生	15
	銚子市本城町3丁目	15		君津市貞元	15
	旭市イ	15		君津市三直	15
	旭市横根	15		富津市二間塚	15
	匝瑳市飯倉台	15		富津市亀田	15
⑦ 山武地域	東金市押堀	15		袖ヶ浦市福王台3丁目	15
	東金市油井	15		袖ヶ浦市野里	15
	山武市五木田	15			

回答者の属性

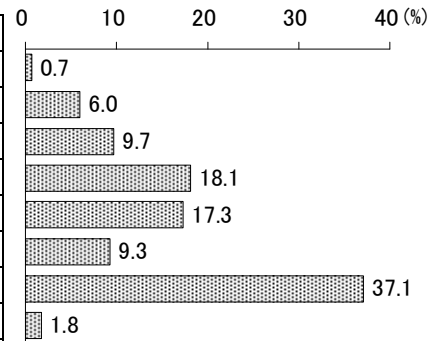
1. 性

	基数	構成比
1 男性	600	44.2
2 女性	734	54.0
3 その他 (無回答)	1 24	0.1 1.8
全 体	1,359	100.0



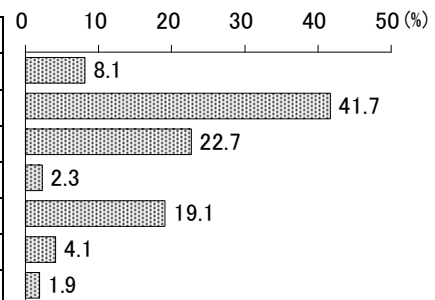
2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	9	0.7
2 20代	82	6.0
3 30代	132	9.7
4 40代	246	18.1
5 50代	235	17.3
6 60～64歳	127	9.3
7 65歳以上	504	37.1
(無回答)	24	1.8
全 体	1,359	100.0



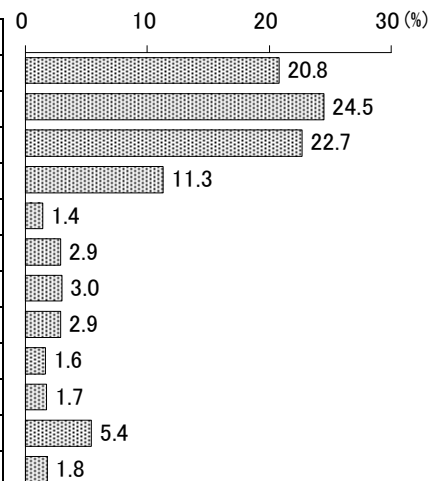
3. 職 業

	基数	構成比
1 自営業者	110	8.1
2 勤め人	567	41.7
3 主婦・主夫	309	22.7
4 学生	31	2.3
5 無職	260	19.1
6 その他	56	4.1
(無回答)	26	1.9
全 体	1,359	100.0



4. 地 域

	基数	構成比
1 千葉地域	283	20.8
2 葛南地域	333	24.5
3 東葛飾地域	309	22.7
4 印旛地域	153	11.3
5 香取地域	19	1.4
6 海匝地域	39	2.9
7 山武地域	41	3.0
8 長生地域	40	2.9
9 夷隅地域	22	1.6
10 安房地域	23	1.7
11 君津地域	73	5.4
(無回答)	24	1.8
全 体	1,359	100.0



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （４）選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （５）地域別、性・年齢別の分析において、サンプル数の少ない属性の分析については、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- （６）男性の18～19歳であるサンプル数は２人と少ないため、性・年齢別の帯グラフでは、男性の18～19歳を示す部分に限り、0%である選択肢の回答割合を表示していない。
- （７）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総 数	1,359人	± 2.30%	± 3.07%	± 3.52%	± 3.76%	± 3.84%
千葉地域	283	± 5.04%	± 6.73%	± 7.70%	± 8.24%	± 8.41%
葛南地域	333	± 4.65%	± 6.20%	± 7.10%	± 7.59%	± 7.75%
東葛飾地域	309	± 4.83%	± 6.44%	± 7.37%	± 7.88%	± 8.05%
印旛地域	153	± 6.86%	± 9.15%	± 10.48%	± 11.20%	± 11.43%
香取地域	19	± 19.47%	± 25.96%	± 29.74%	± 31.79%	± 32.44%
海匝地域	39	± 13.59%	± 18.12%	± 20.75%	± 22.19%	± 22.65%
山武地域	41	± 13.25%	± 17.67%	± 20.24%	± 21.64%	± 22.09%
長生地域	40	± 13.42%	± 17.89%	± 20.49%	± 21.91%	± 22.36%
夷隅地域	22	± 18.09%	± 24.12%	± 27.63%	± 29.54%	± 30.15%
安房地域	23	± 17.69%	± 23.59%	± 27.03%	± 28.89%	± 29.49%
君津地域	73	± 9.93%	± 13.24%	± 15.17%	± 16.22%	± 16.55%
男 性	600	± 3.46%	± 4.62%	± 5.29%	± 5.66%	± 5.77%
女 性	734	± 3.13%	± 4.18%	± 4.78%	± 5.11%	± 5.22%

調査の結果 調査結果の解説

1 電話 d e 詐欺に関する県民の意識について

（1）名称の認知度

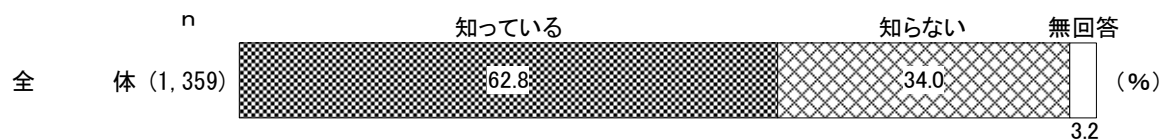
◇「知っている」が6割を超える

未だ被害が多発しており、深刻な状況にある「電話 d e 詐欺」の被害を防止するために、県警や県では様々な広報媒体を使って県民の皆さまに「電話 d e 詐欺」に関する情報を提供しています。

今後、より効果的な広報啓発活動を実施するため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問1 県では、「振り込め詐欺」をはじめとする「特殊詐欺」に代え、「電話 d e 詐欺」の名称を用いています。あなたは、この名称を知っていますか。（○は1つ）

＜図表 1－1＞名称の認知度



「電話 d e 詐欺」の名称の認知度を聞いたところ、「知っている」（62.8%）が6割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」（34.0%）は3割台半ばとなっている。（図表 1－1）

【地域別】

地域別にみると、「知っている」は“長生地域”（80.0%）が8割で高くなっている。

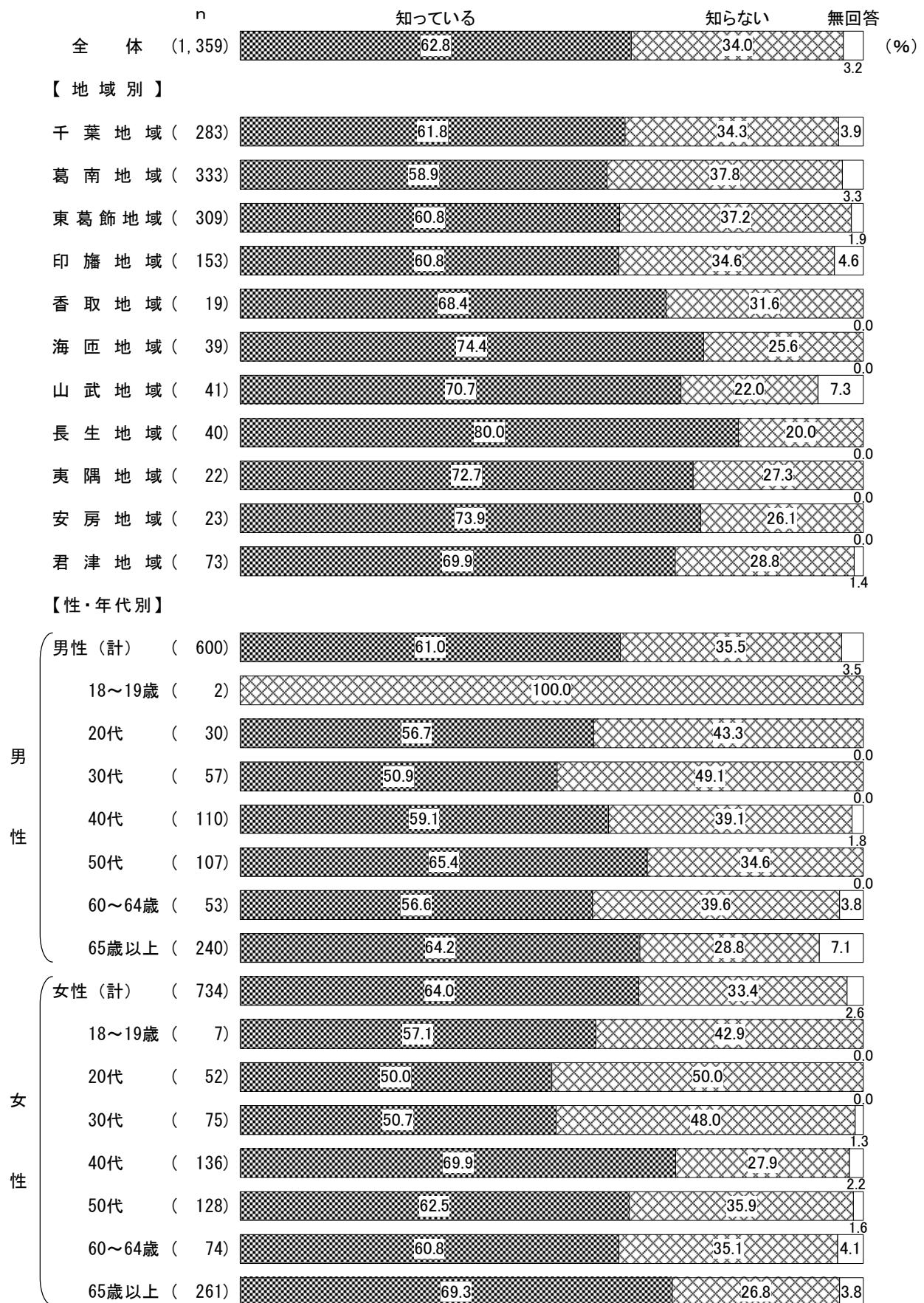
（図表 1－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の65歳以上（69.3%）が約7割で高くなっている。

一方、「知らない」は女性の20代（50.0%）が5割、男性の30代（49.1%）と女性の30代（48.0%）が約5割で高くなっている。（図表 1－2）

<図表1-2>名称の認知度／地域別、性・年代別

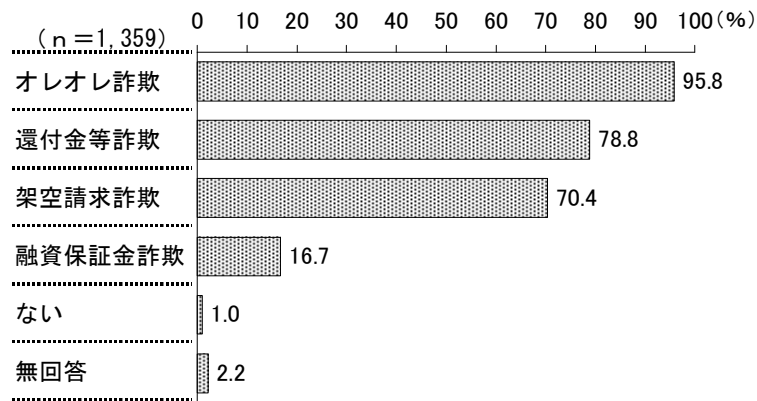


（２）電話 d e 詐欺の手口に対する知識

◇「オレオレ詐欺」が９割台半ば

問２ 電話 d e 詐欺のうち、あなたの知っている手口はどれですか。（○はいくつでも）

＜図表 1－3＞電話 d e 詐欺の手口に対する知識（複数回答）



電話 d e 詐欺の手口に対する知識を聞いたところ、「オレオレ詐欺」（95.8%）が９割台半ばで最も高く、以下、「還付金等詐欺」（78.8%）、「架空請求詐欺」（70.4%）、「融資保証金詐欺」（16.7%）が続く。（図表 1－3）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－4）

【性・年代別】

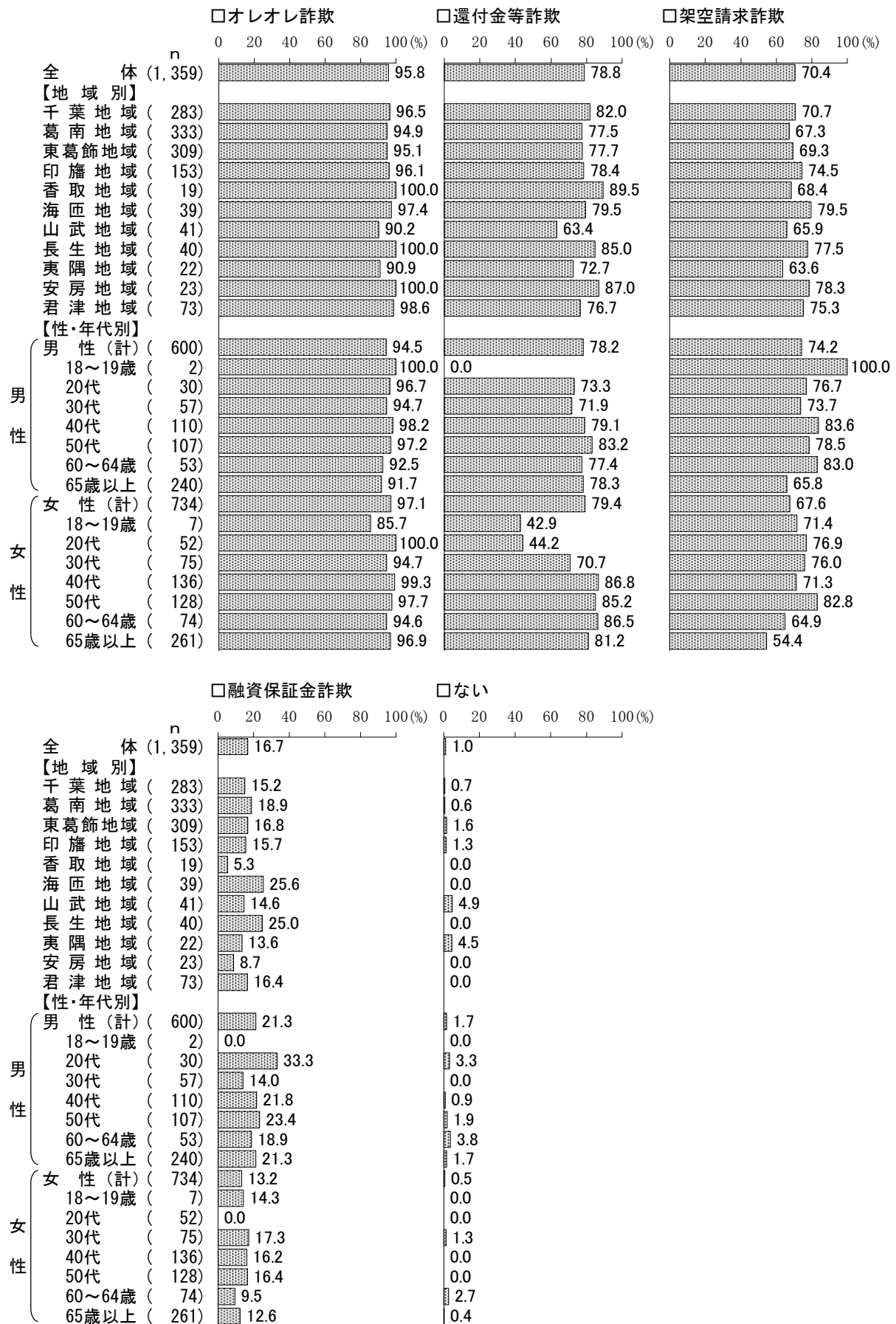
性・年代別にみると、「オレオレ詐欺」は女性の40代（99.3%）が約10割で高くなっている。

「還付金等詐欺」は女性の40代（86.8%）が8割台半ばで高くなっている。

「架空請求詐欺」は男性の40代（83.6%）が8割台半ば、男性の60～64歳（83.0%）と女性の50代（82.8%）が8割を超えて高くなっている。

「融資保証金詐欺」は男性の20代（33.3%）が3割を超えて高くなっている。（図表 1－4）

＜図表１－４＞電話d e 詐欺の手口に対する知識（複数回答）／地域別、性・年代別

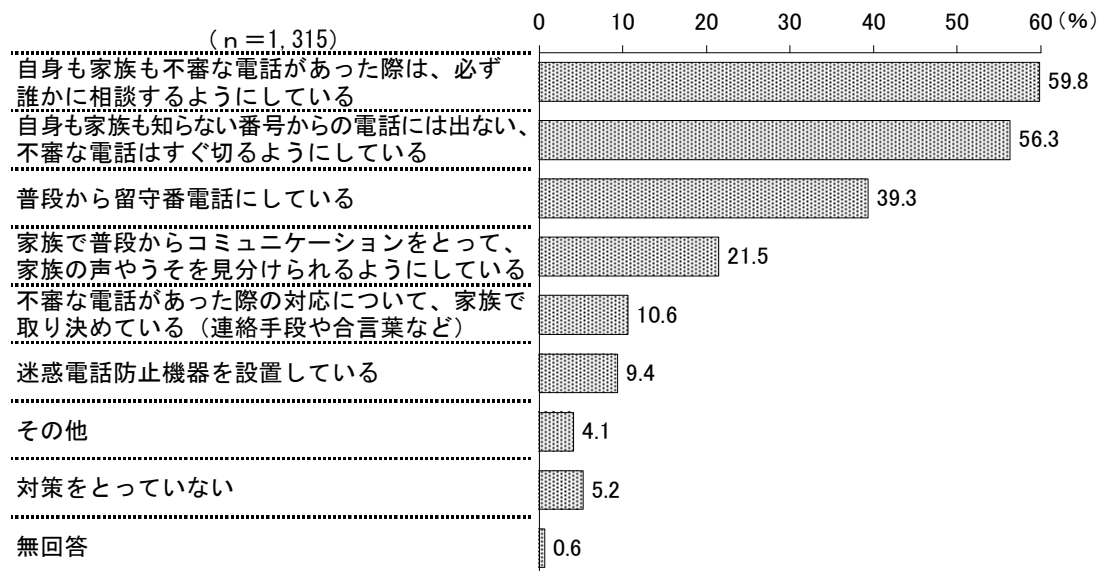


（２－１）電話 d e 詐欺への対策

◇「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」が約６割

（問２で「オレオレ詐欺」、「還付金等詐欺」、「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」とお答えの方に）
問２－１ 知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策はありますか。（○はいくつでも）

＜図表１－５＞電話 d e 詐欺への対策（複数回答）



電話 d e 詐欺で知っている手口で「オレオレ詐欺」、「還付金等詐欺」、「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」と回答した1,315人を対象に、知っている手口に遭った場合にとっている、またはとろうと考えている対策を聞いたところ、「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」（59.8%）が約６割で最も高く、以下、「自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている」（56.3%）、「普段から留守番電話にしている」（39.3%）、「家族で普段からコミュニケーションをとって、家族の声やうそを見分けられるようにしている」（21.5%）が続く。（図表１－５）

【地域別】

地域別にみると、「不審な電話があった際の対応について、家族で取り決めている（連絡手段や合言葉など）」は「印旛地域」（15.5%）が１割台半ばとなっている。（図表１－６）

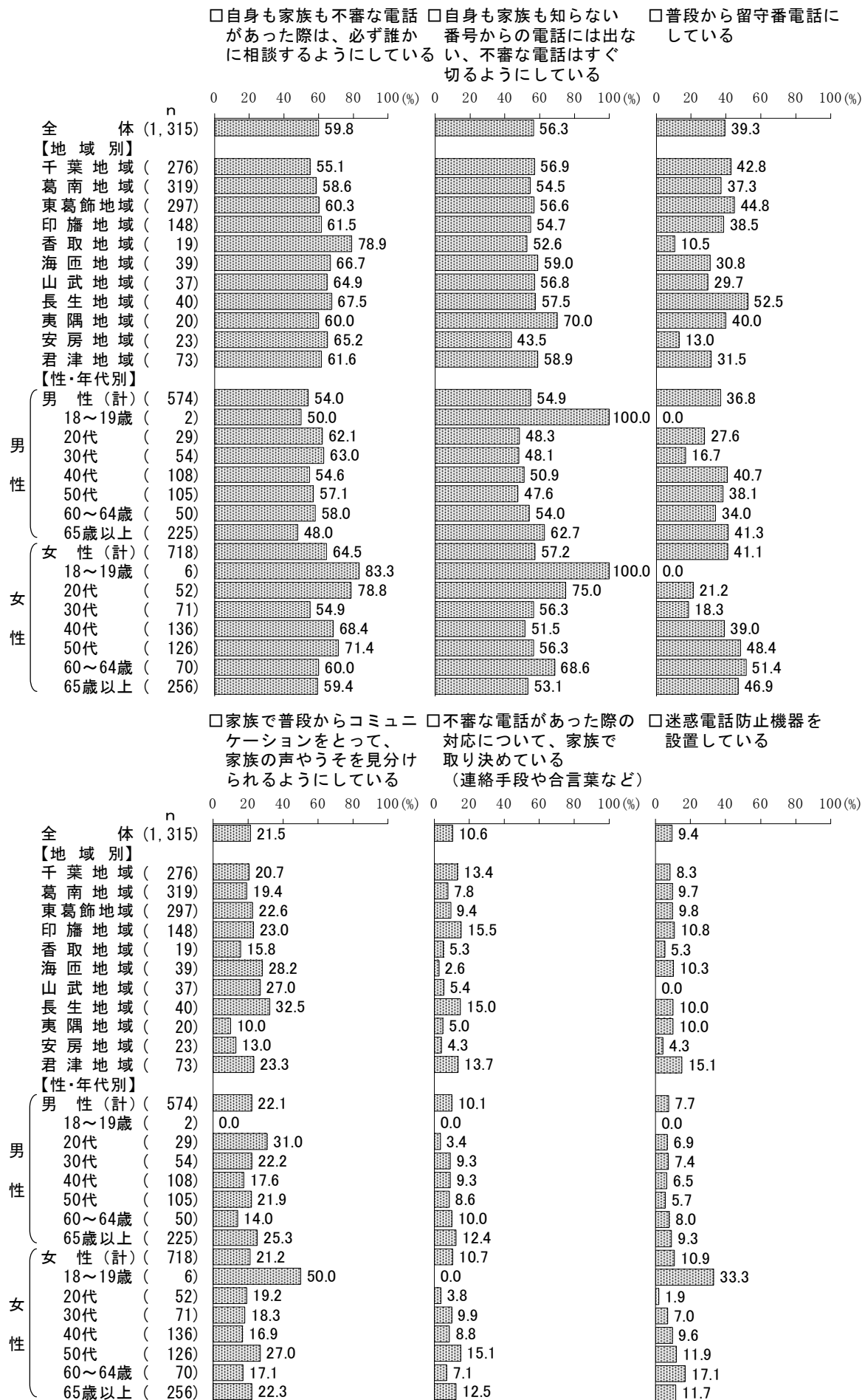
【性・年代別】

性・年代別にみると、「自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている」は女性の20代（78.8%）が約８割、女性の50代（71.4%）が７割を超え、女性の40代（68.4%）が約７割で高くなっている。

「自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている」は女性の20代（75.0%）が７割台半ば、女性の60～64歳（68.6%）が約７割で高くなっている。

「普段から留守番電話にしている」は女性の60～64歳（51.4%）が５割を超え、女性の50代（48.4%）が約５割、女性の65歳以上（46.9%）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－６）

＜図表１－６＞電話d e 詐欺への対策（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



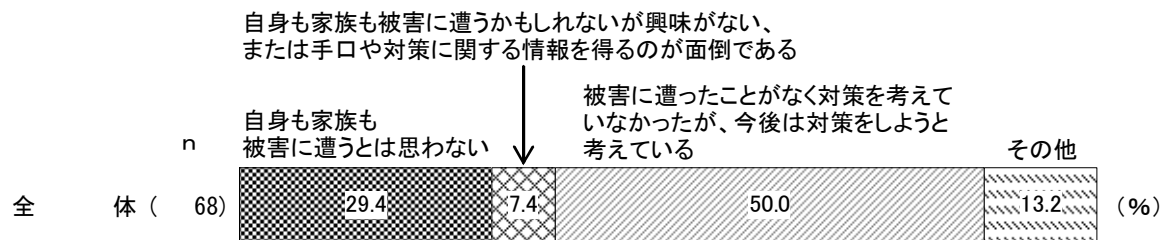
（２－２）電話d e詐欺への対策をとっていない理由

◇「被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている」が5割

（問２－１で「対策をとっていない」とお答えの方に）

問２－２ あなたが、対策をとっていない理由は何ですか。（○は１つ）

＜図表１－７＞電話d e詐欺への対策をとっていない理由



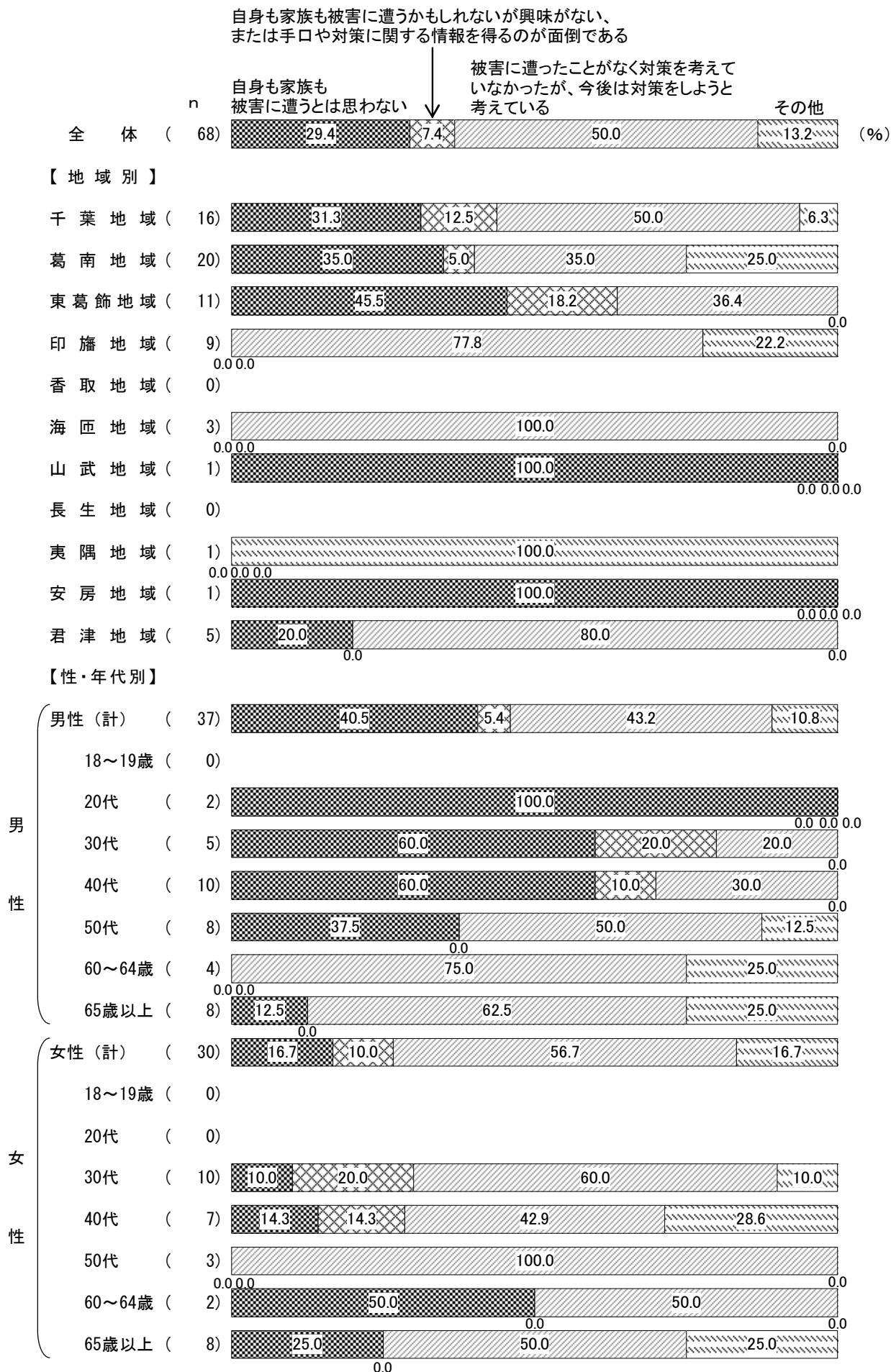
電話d e詐欺で知っている手口に遭った場合の「対策をとっていない」と回答した68人を対象に、その理由を聞いたところ、「被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている」（50.0%）が5割で最も高く、以下、「自身も家族も被害に遭うとは思わない」（29.4%）、「自身も家族も被害に遭うかもしれないが興味がない、または手口や対策に関する情報を得るのが面倒である」（7.4%）が続く。（図表１－７）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）

（図表１－８）

＜図表１－８＞電話d e 詐欺への対策をとっていない理由／地域別、性・年代別

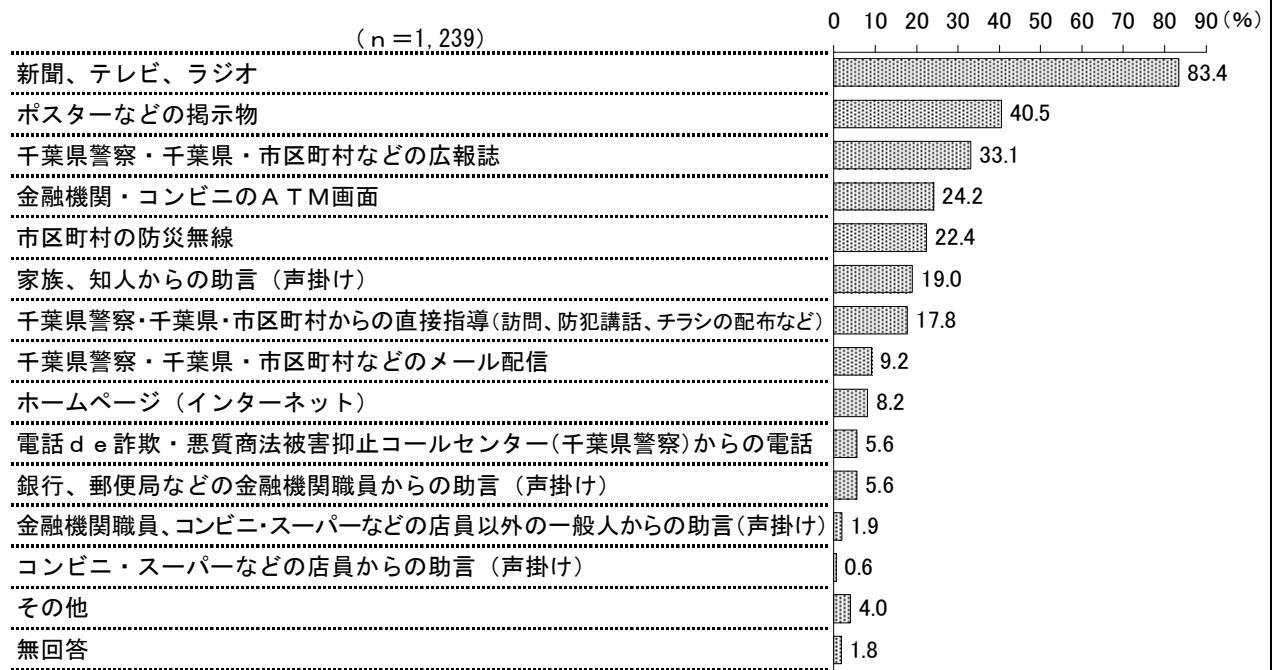


（２－３）電話 d e 詐欺の手口を知った媒体

◇「新聞、テレビ、ラジオ」が8割を超える

（問２－１で「１」～「７」（対策をとっている、またはとろうと考えている）とお答えの方に）
問２－３ あなたは、どのような媒体で電話 d e 詐欺の手口を知りましたか。（○はいくつでも）

＜図表１－９＞電話 d e 詐欺の手口を知った媒体（複数回答）



電話 d e 詐欺で知っている手口に遭った場合の対策をとっている、またはとろうと考えていると回答した1,239人を対象に、どのような媒体で電話 d e 詐欺の手口を知ったか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」（83.4％）が8割を超えて最も高く、以下、「ポスターなどの掲示物」（40.5％）、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」（33.1％）、「金融機関・コンビニのATM画面」（24.2％）が続く。（図表１－９）

【地域別】

地域別にみると、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は“安房地域”（63.6％）が6割台半ばで高くなっている。

「市区町村の防災無線」は“安房地域”（59.1％）が約6割、“君津地域”（51.5％）が5割を超え、“長生地域”（41.0％）が4割を超え、“海匝地域”（38.9％）が約4割で高くなっている。

（図表１－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「新聞、テレビ、ラジオ」は女性の50代（90.2％）が9割で高くなっている。

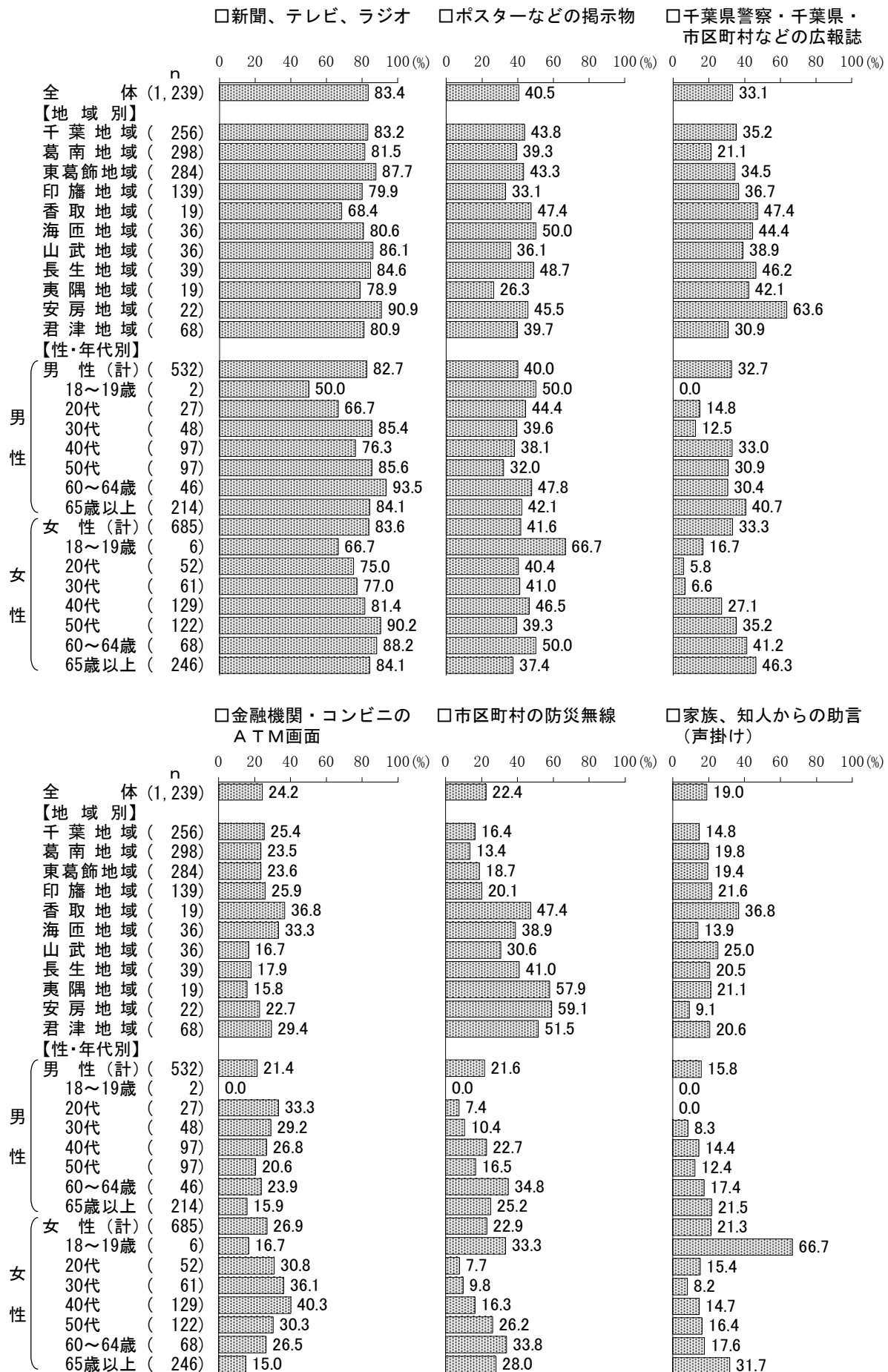
「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は女性の65歳以上（46.3％）が4割台半ば、男性の65歳以上（40.7％）が4割で高くなっている。

「金融機関・コンビニのATM画面」は女性の40代（40.3％）が4割、女性の30代（36.1％）が3割台半ばで高くなっている。

「市区町村の防災無線」は男性の60～64歳（34.8％）と女性の60～64歳（33.8％）が3割台半ば、女性の65歳以上（28.0％）が約3割で高くなっている。

「家族、知人からの助言（声掛け）」は女性の65歳以上（31.7％）が3割を超えて高くなっている。（図表１－10）

＜図表1－10＞電話d e 詐欺の手口を知った媒体（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

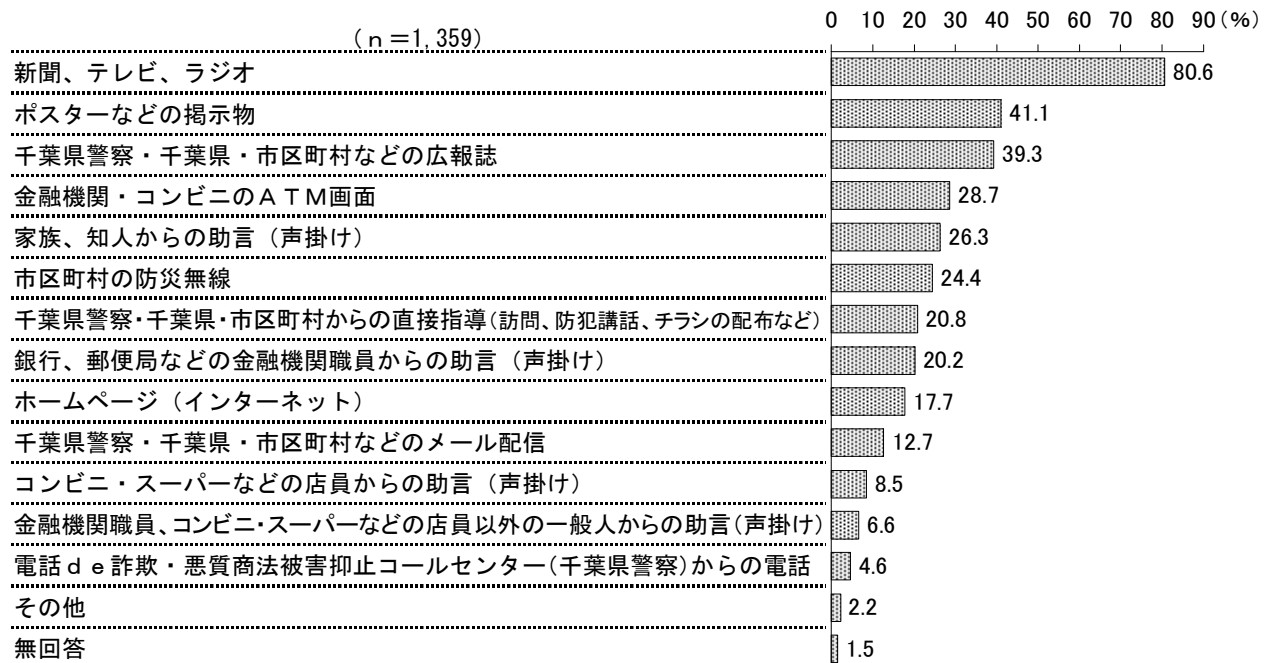


（３）電話 d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体

◇「新聞、テレビ、ラジオ」が８割

問３ あなたは、自身やご家族が被害に遭わないため、これらの詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思いますか。（○はいくつでも）

<図表 1－11> 電話 d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体（複数回答）



電話 d e 詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思うか聞いたところ、「新聞、テレビ、ラジオ」（80.6%）が８割で最も高く、以下、「ポスターなどの掲示物」（41.1%）、「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」（39.3%）、「金融機関・コンビニのＡＴＭ画面」（28.7%）が続く。（図表 1－11）

【地域別】

地域別にみると、「新聞、テレビ、ラジオ」は“東葛飾地域”（85.4%）が８割台半ばで高くなっている。

「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は“安房地域”（65.2%）が６割台半ばで高くなっている。

「金融機関・コンビニのＡＴＭ画面」は“海匝地域”（43.6%）が４割台半ばで高くなっている。

「市区町村の防災無線」は“夷隅地域”（72.7%）が７割を超え、“安房地域”（56.5%）、“長生地域”（55.0%）が５割台半ば、“君津地域”（39.7%）、“海匝地域”（38.5%）が約４割で高くなっている。（図表 1－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「ポスターなどの掲示物」は女性の60～64歳（54.1%）が５割台半ば、女性の40代（50.0%）が５割で高くなっている。

「千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌」は女性の60～64歳（52.7%）が５割を超え、男性の65歳以上（48.3%）と女性の65歳以上（49.8%）が約５割で高くなっている。

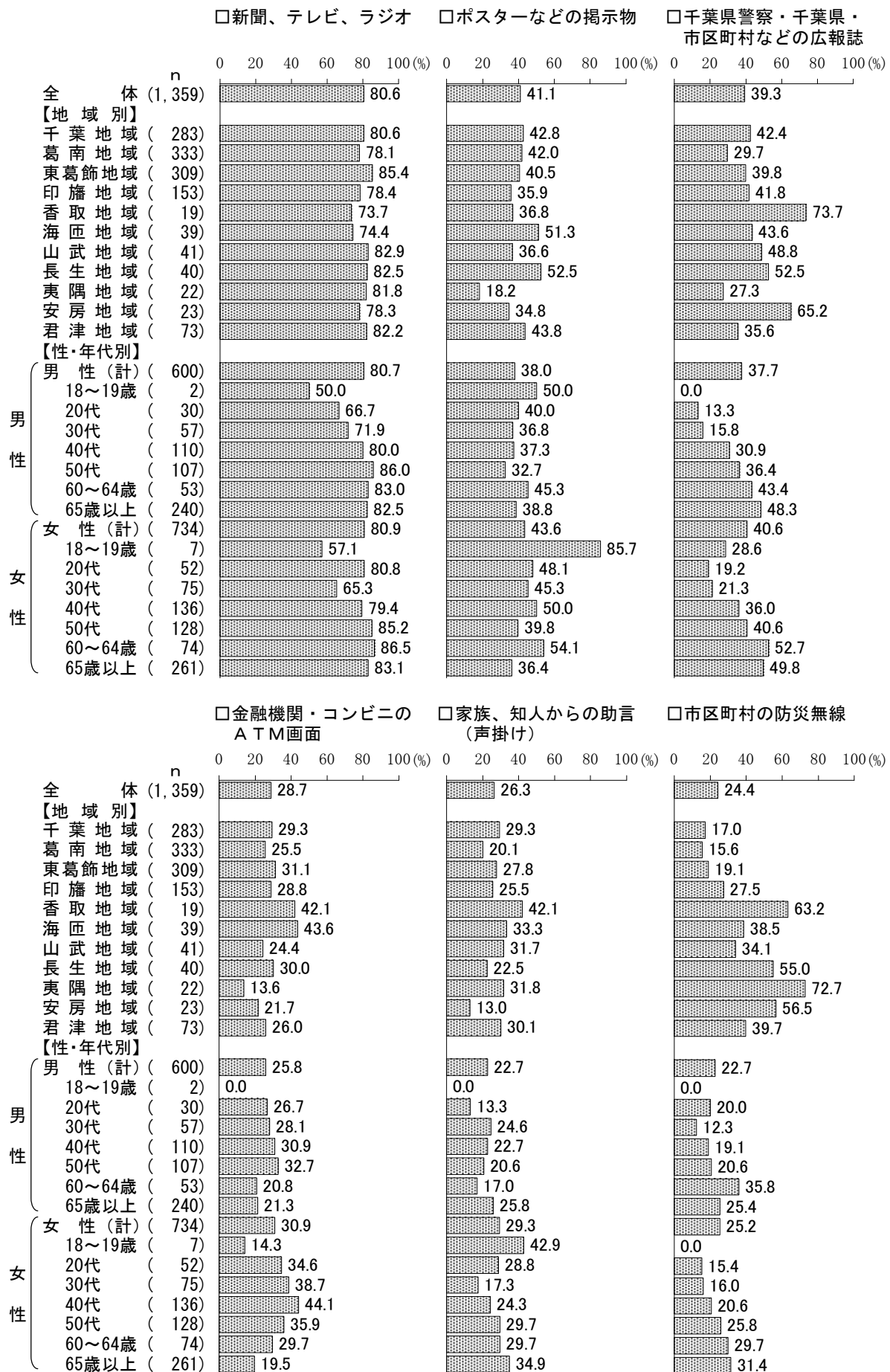
「金融機関・コンビニのＡＴＭ画面」は女性の40代（44.1%）が４割台半ばで高くなっている。

「家族、知人からの助言（声掛け）」は女性の65歳以上（34.9%）が３割台半ばで高くなっている。

「市区町村の防災無線」は女性の65歳以上（31.4%）が３割を超えて高くなっている。

（図表 1－12）

＜図表1-12＞電話d e 詐欺の手口や対策に関する情報を提供してほしい媒体（複数回答）
／地域別、性・年代別（上位6項目）



このほかに、「電話 d e 詐欺に関する県民の意識について」やここまでの質問（問1～問3）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、201人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「電話 d e 詐欺に関する県民の意識について」の自由回答（抜粋）

- 若い子達が詐欺グループに引き込まれない対策を取ってほしい。詐欺グループの摘発とその後、更生できているのか、後悔しているのならその人達の声を広める事で犯罪に手を染める人が減ると良いのですが。（女性、65歳以上、葛南地域）
- 電話を使う機会は中々ないので、SNS、インターネットを使った注意喚起を強化してほしい。（女性、20代、君津地域）
- 自分は大丈夫という意識が強い人がだまされている。電話には、まず出ない。本当に大事な話なら留守電にでも入れるはず、または携帯にかけるはず。留守電を確認してから対応でもいいと思う。（男性、40代、千葉地域）
- 家族にも「電話 d e 詐欺」を知っているか確認してみましたが、知りませんでした。毎日のように目にする所への掲示、足を止めざるをえない状況で目に入ると効果が出るのではないのでしょうか。（女性、30代、東葛飾地域）
- 迷った時に相談できる連絡先を、誰もが見そうな媒体で徹底的に周知してほしい。知ろうとしないと手に入らない情報と、必ず知っていないといけない情報を分けて、後者はどんな手段を使っても徹底周知してほしい。（男性、30代、葛南地域）
- 私が住む地域でも駐在所の方に詐欺防止についての講演を行っていただきました。地域の安全を守る方の講演には、参加者全員が関心深く、そして、意識が高まりました。やはり直接話を聞く環境が一番防止策には有効なのかと思います。（男性、40代、君津地域）
- 高齢者にとっては、良く聞き取れなかったり、驚いてしまい冷静に判断することが出来ない事があると思う。実際に経験した方のお話を聞くと、参考になるのではと思います。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 小学校で働いています。子どもが家族にあてて、防止をよびかける手紙を書く取り組みを行っています。子どもの時から自らの身を防ぐ手段も身に付けてほしいと考えています。（女性、30代、千葉地域）
- 成田市の青パトロール車で広報活動していただいています。非常に良い事だと思います。時にはしつこい位にスピーカーで流してもらった方が良い。（男性、65歳以上、印旛地域）

2 消費生活について

（１）消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無

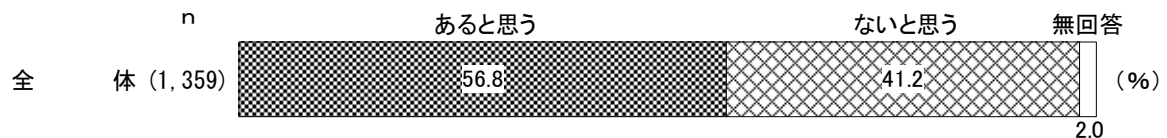
◇「あると思う」が５割台半ば

悪質事業者による押し売りや、化粧品による健康被害など消費者トラブルが後を絶たない中、県では相談窓口の整備や、消費者に商品事故に関する情報や契約トラブルへの対処法を伝える消費者教育の推進などに取り組んでいます。

今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問４ あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思いますか。（○は１つ）

＜図表２－１＞消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無



消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思うか聞いたところ、「あると思う」（56.8％）が５割台半ばで高くなっている。

一方、「ないと思う」（41.2％）は４割を超えている。（図表２－１）

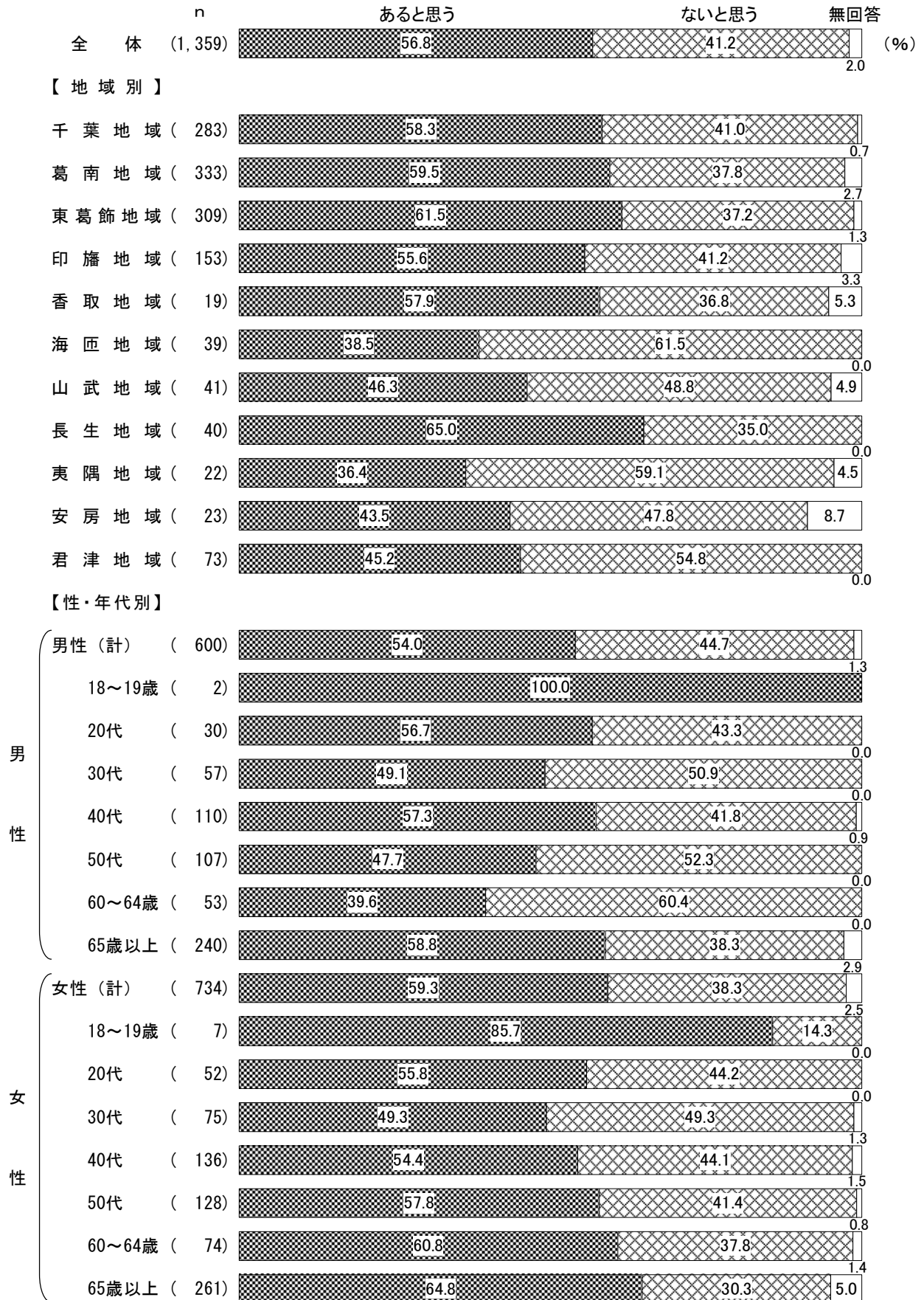
【地域別】

地域別にみると、「ないと思う」は“海匝地域”（61.5％）が６割を超え、“君津地域”（54.8％）が５割台半ばで高くなっている。（図表２－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は女性の65歳以上（64.8％）が６割台半ばで高くなっている。一方、「ないと思う」は男性の60～64歳（60.4％）が６割、男性の50代（52.3％）が５割を超えて高くなっている。（図表２－２）

＜図表２－２＞消費者トラブルにあった際の「安心して相談できるところ」の有無／地域別、性・年代別

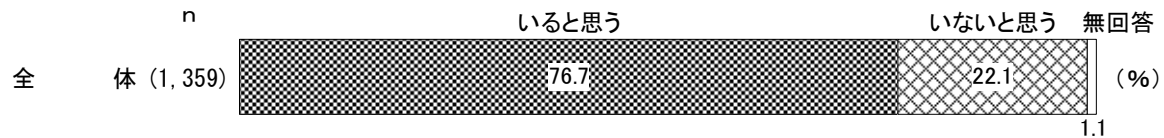


（２）消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無

◇「いると思う」が７割台半ば

問５ あなたは、消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいますか。（○は１つ）

＜図表２－３＞消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無



消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思うか聞いたところ、「いると思う」（76.7％）が７割台半ばで高くなっている。

一方、「いないと思う」（22.1％）は２割を超えている。（図表２－３）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表２－４）

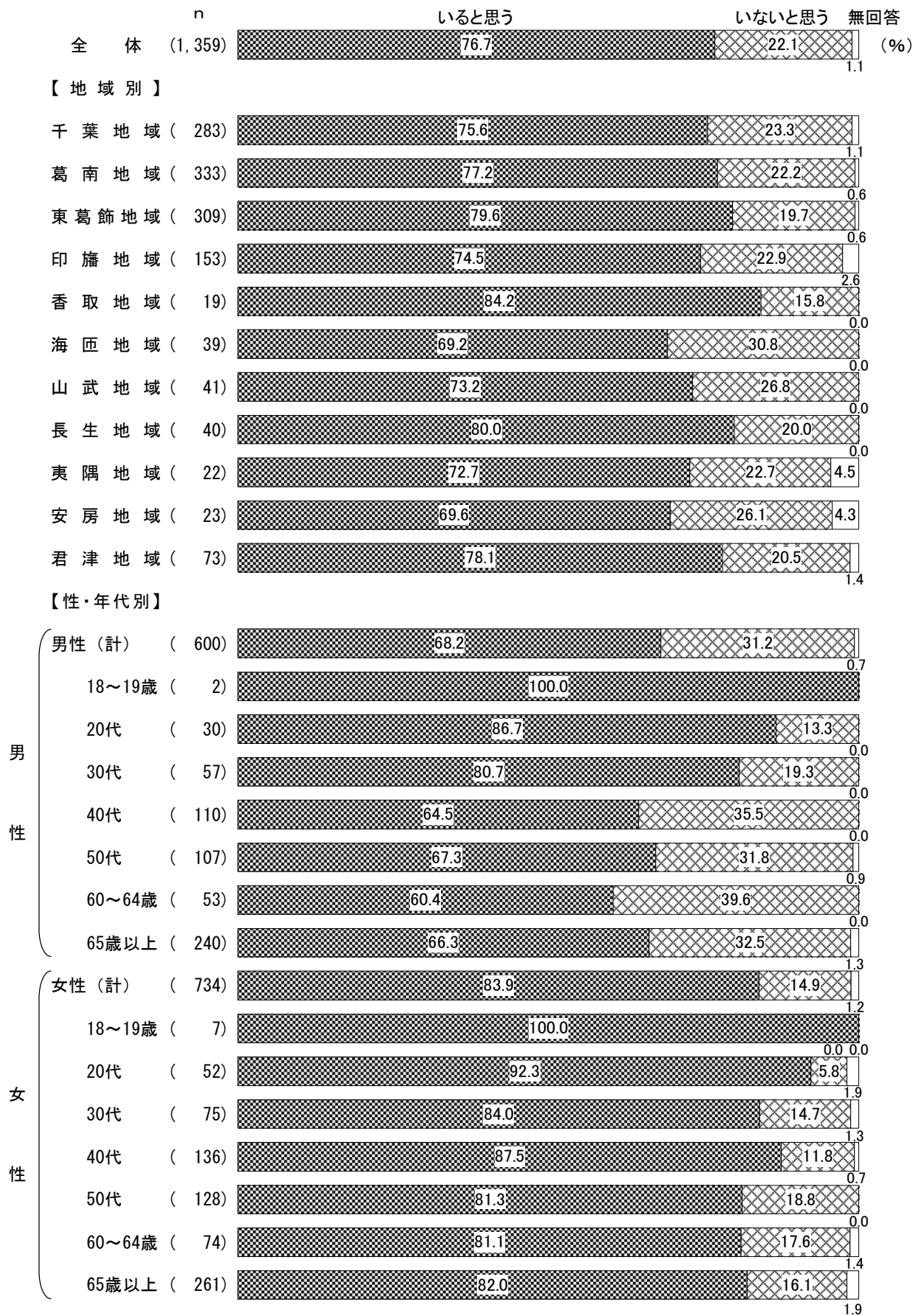
【性・年代別】

性・年代別にみると、「いると思う」は女性の20代（92.3％）が９割を超え、女性の40代（87.5％）が約９割、女性の65歳以上（82.0％）が８割を超えて高くなっている。

一方、「いないと思う」は男性の60～64歳（39.6％）が約４割、男性の40代（35.5％）が３割台半ば、男性の50代（31.8％）、男性の65歳以上（32.5％）が３割を超えて高くなっている。

（図表２－４）

<図表2-4>消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無／地域別、性・年代別

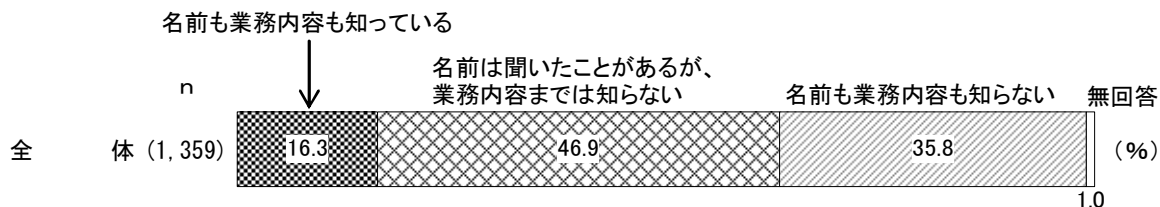


（３）県の消費者センターや市町村の消費生活センターの認知度

◇「名前も業務内容も知っている」が１割台半ば

問６ あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している県の消費者センターや市町村の消費生活センターを知っていますか。（○は１つ）

＜図表２－５＞県の消費者センターや市町村の消費生活センターの認知度



県の消費者センターや市町村の消費生活センターを知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」（16.3％）が１割台半ばとなっている。

一方、「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」（46.9％）は４割台半ば、「名前も業務内容も知らない」（35.8％）は３割台半ばとなっている。（図表２－５）

【地域別】

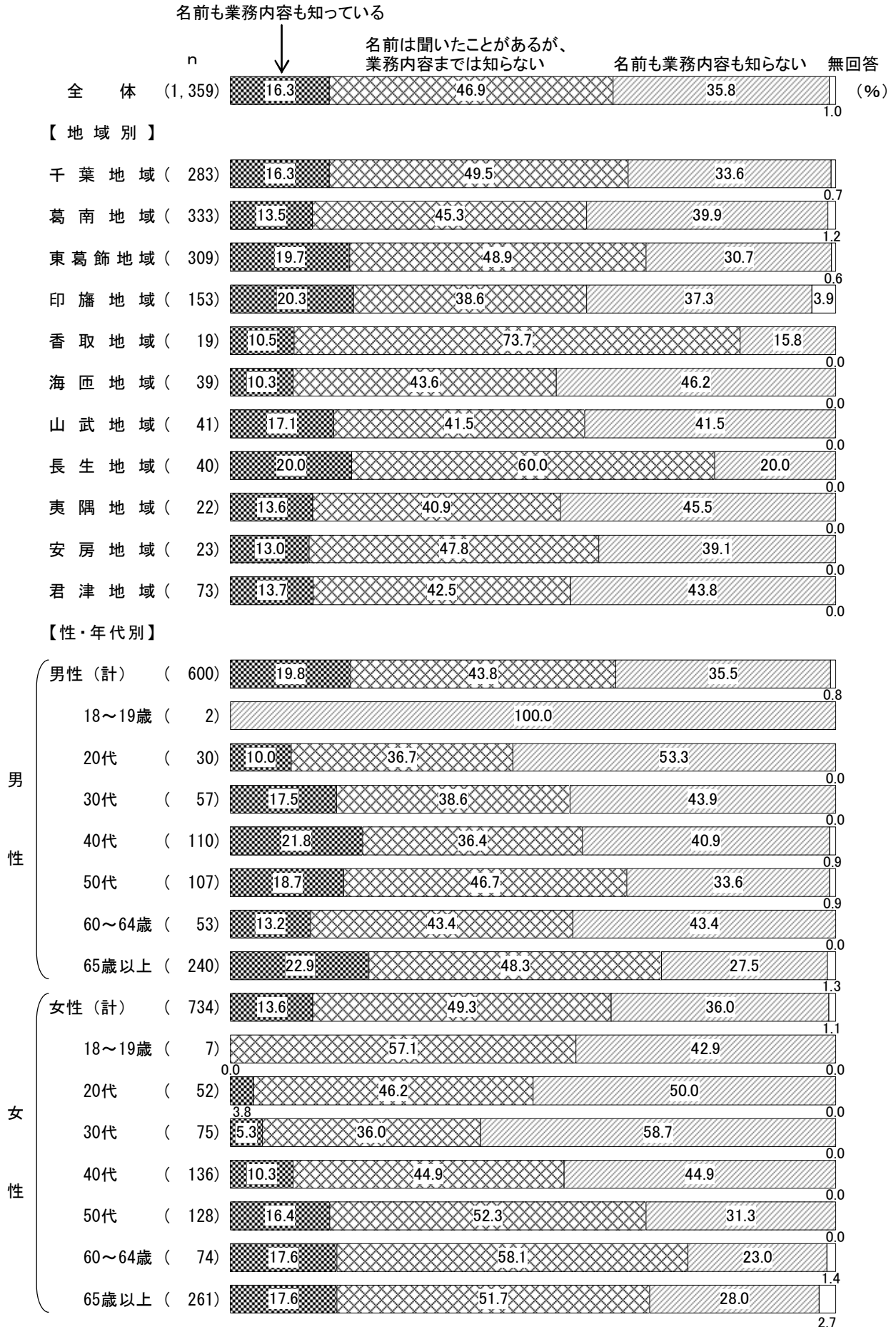
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表２－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「名前も業務内容も知っている」は男性の65歳以上（22.9％）が２割を超えて高くなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」は女性の30代（58.7％）が約６割、男性の20代（53.3％）が５割を超え、女性の20代（50.0％）が５割、女性の40代（44.9％）が４割台半ばで高くなっている。（図表２－６）

＜図表２－６＞県の消費者センターや市町村の消費生活センターの認知度／地域別、性・年代別

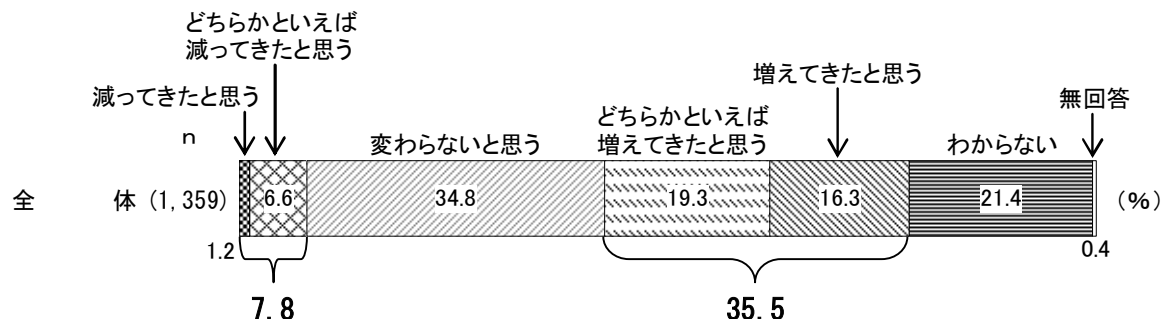


（４）悪質商法に対する考え

◇『増えてきた（計）』が３割台半ば

問７ あなたは、点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思いますか。（○は１つ）

＜図表２－７＞悪質商法に対する考え



点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思うか聞いたところ、「どちらかといえば増えてきたと思う」(19.3%)と「増えてきたと思う」(16.3%)を合わせた『増えてきた（計）』(35.5%)が３割台半ばとなっている。

一方、「変わらないと思う」(34.8%)は３割台半ばとなっており、「減ってきたと思う」(1.2%)と「どちらかといえば減ってきたと思う」(6.6%)を合わせた『減ってきた（計）』(7.8%)は１割未満となっている。（図表２－７）

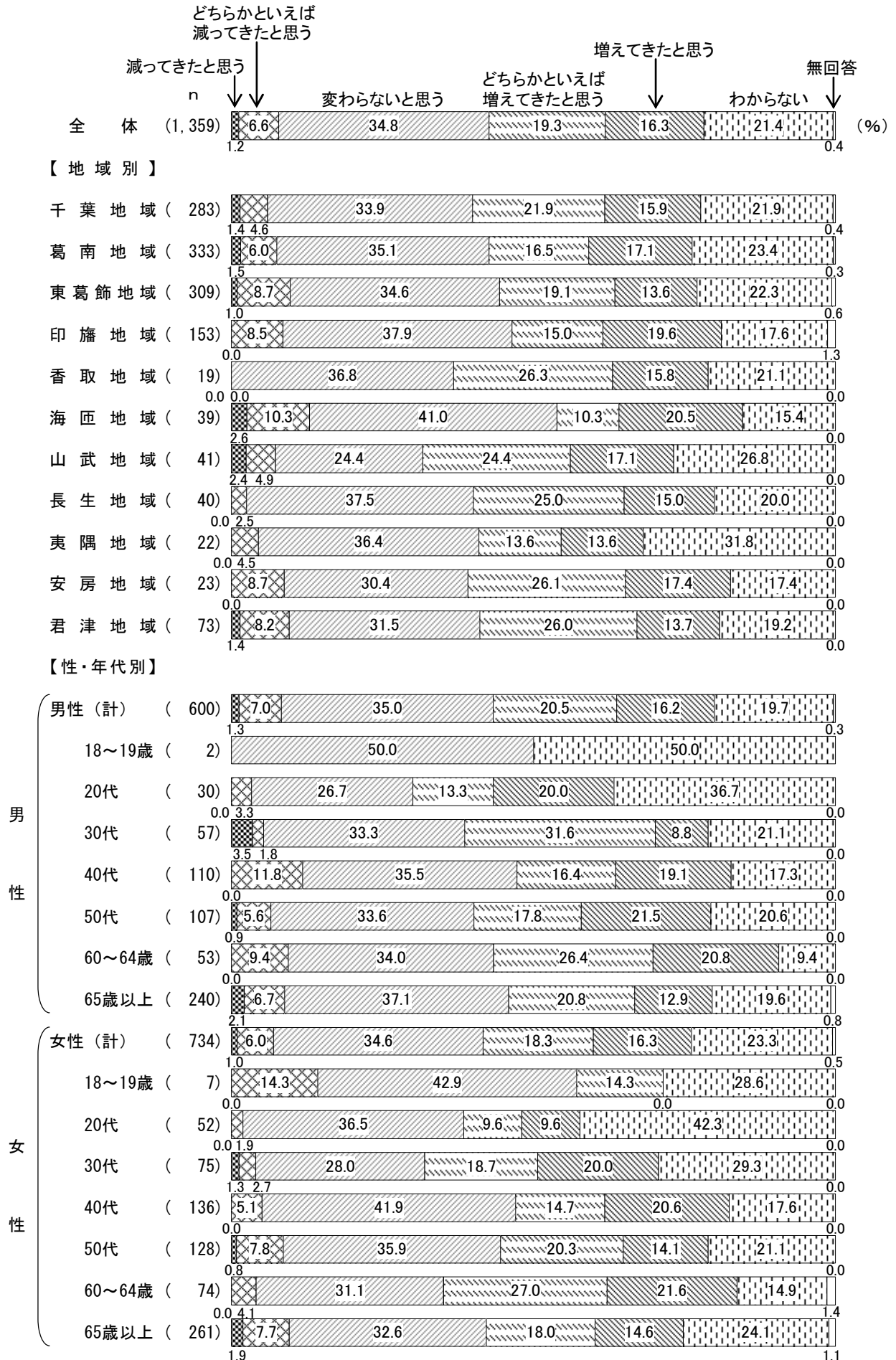
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表２－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『増えてきた（計）』は女性の60～64歳（48.6%）が約５割で高くなっている。（図表２－８）

＜図表２－８＞悪質商法に対する考え／地域別、性・年代別

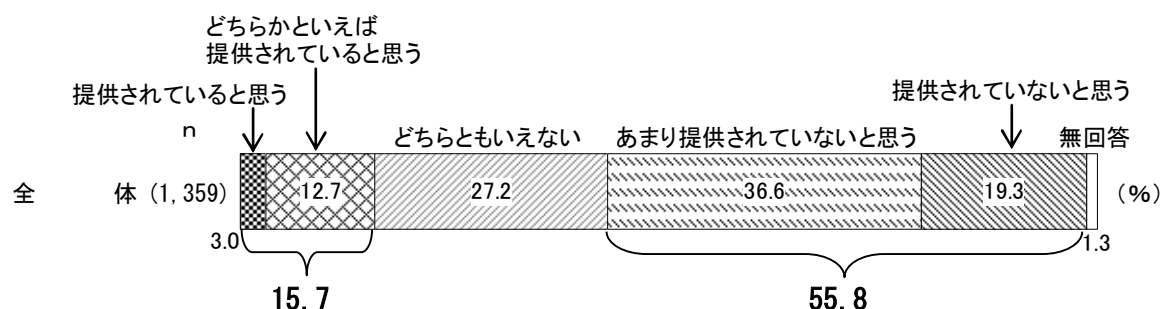


（５）消費者教育の機会に対する考え

◇『提供されている（計）』が１割台半ば

問８ あなたは、学校や地域、職場などにおいて、消費者トラブルを回避したり、トラブル発生時に適切な判断や行動ができる能力を育む教育（消費者教育）の機会が提供されていると思いますか。（○は１つ）

＜図表２－９＞消費者教育の機会に対する考え



学校や地域、職場などで消費者教育の機会が提供されていると思うか聞いたところ、「提供されていると思う」（3.0％）と「どちらかといえば提供されていると思う」（12.7％）を合わせた『提供されている（計）』（15.7％）が１割台半ばとなっている。

一方、「どちらともいえない」（27.2％）は約３割となっており、「あまり提供されていないと思う」（36.6％）と「提供されていないと思う」（19.3％）を合わせた『提供されていない（計）』（55.8％）は５割台半ばで高くなっている。（図表２－９）

【地域別】

地域別にみると、「どちらともいえない」は“海匠地域”（43.6％）が４割台半ばで高くなっている。（図表２－10）

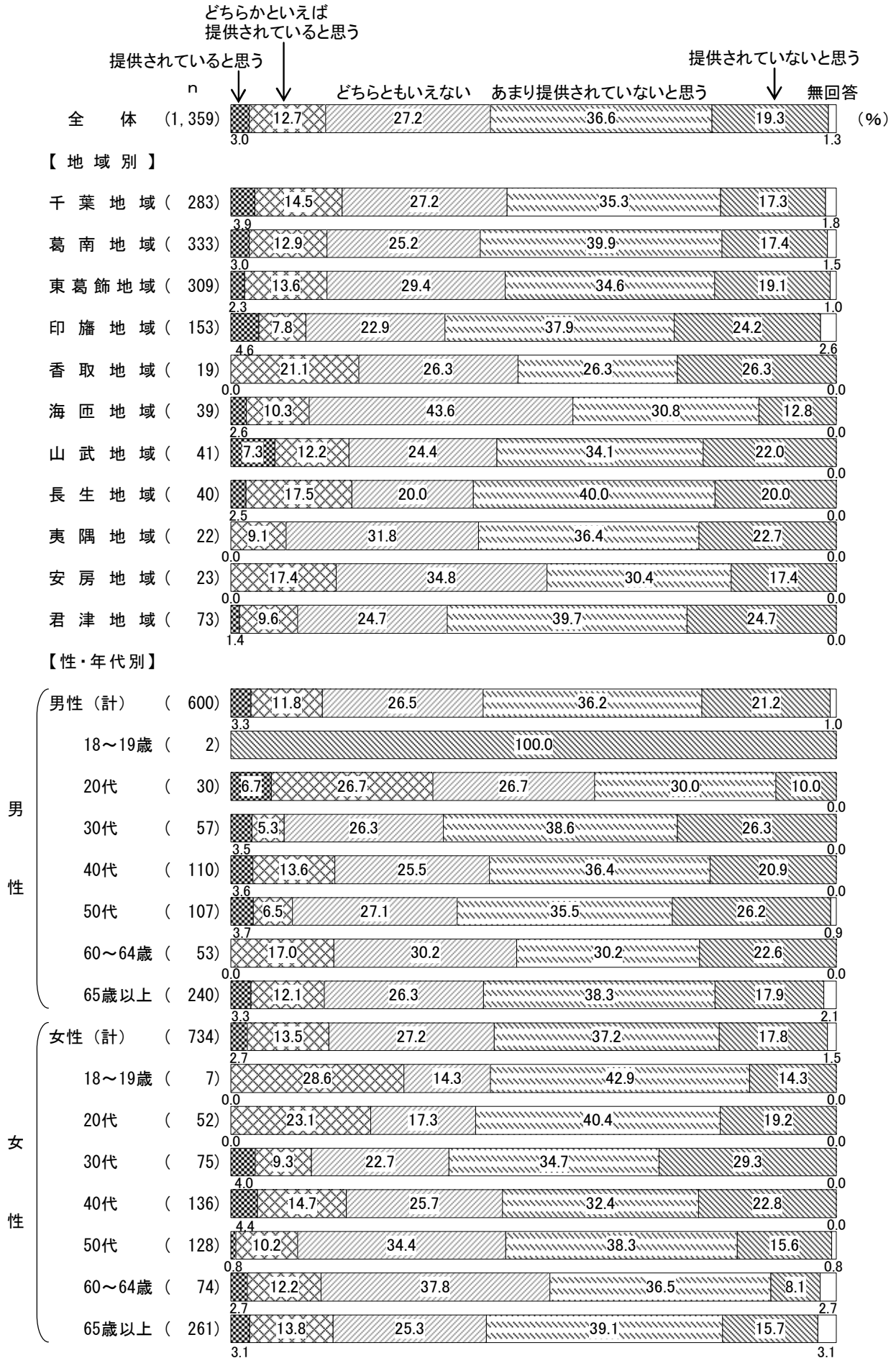
【性・年代別】

性・年代別にみると、「どちらかといえば提供されていると思う」は男性の20代（26.7％）が２割台半ば、女性の20代（23.1％）が２割を超えて高くなっている。

一方、「提供されていないと思う」は女性の30代（29.3％）が約３割で高くなっている。

（図表２－10）

＜図表2－10＞消費者教育の機会に対する考え／地域別、性・年代別

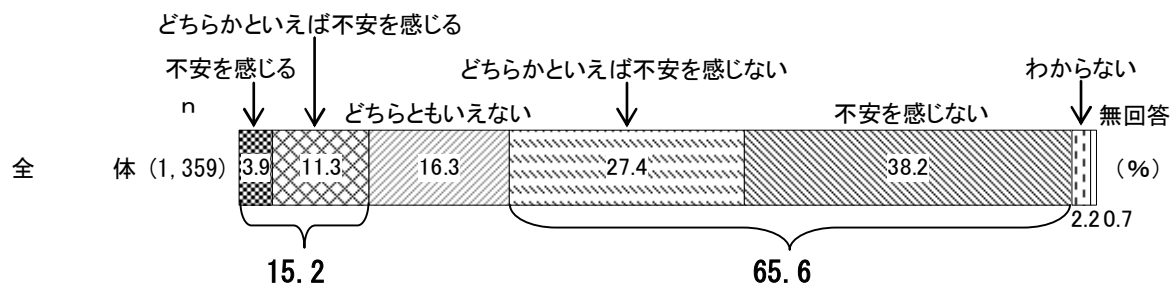


（６）生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無

◇『感じない（計）』が６割台半ば

問９ あなたは、普段の生活の中で、生活必需品（食品、トイレトペーパー等の生活雑貨・衣料品など）の安定的な供給体制（消費者がいつでも購入できること）や安全性に不安を感じることがありますか。（○は１つ）

＜図表２－11＞生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無



普段の生活の中で、生活必需品の安定的な供給体制や安全性に不安を感じるがあるか聞いたところ、「どちらかといえば不安を感じない」（27.4%）と「不安を感じない」（38.2%）を合わせた『感じない（計）』（65.6%）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「不安を感じる」（3.9%）と「どちらかといえば不安を感じる」（11.3%）を合わせた『感じる（計）』（15.2%）は１割台半ばとなっている。（図表２－11）

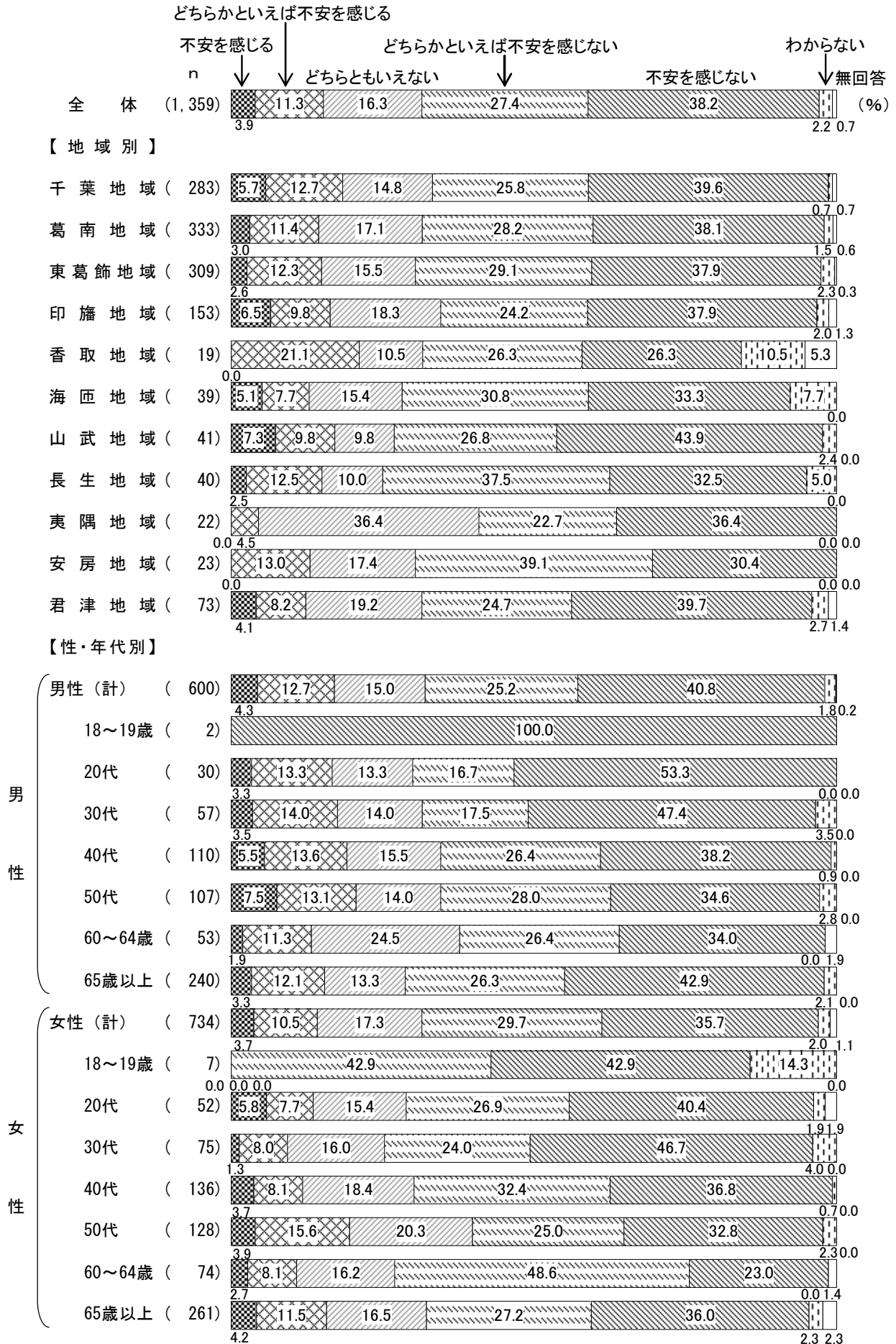
【地域別】

地域別にみると、「どちらともいえない」は“夷隅地域”（36.4%）が３割台半ばで高くなっている。（図表２－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「どちらかといえば不安を感じない」は女性の60～64歳（48.6%）が約５割で高くなっている。（図表２－12）

＜図表２－12＞生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無／地域別、性・年代別

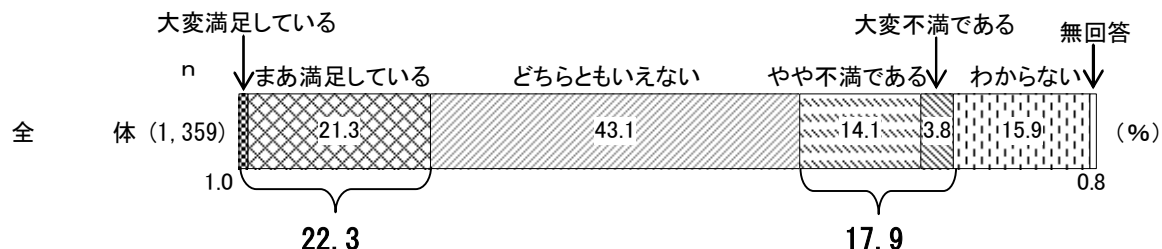


（7）消費生活全般の満足度

◇『満足（計）』が2割を超える

問10 あなたは、消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どう感じですか。（○は1つ）

＜図表 2－13＞消費生活全般の満足度



消費生活全般の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.0％）と「まあ満足している」（21.3％）を合わせた『満足（計）』（22.3％）が2割を超えている。

一方、「どちらともいえない」（43.1％）は4割を超えており、「やや不満である」（14.1％）と「大変不満である」（3.8％）を合わせた『不満（計）』（17.9％）は約2割となっている。（図表 2－13）

【地域別】

地域別にみると、『不満（計）』は“印旛地域”（24.8％）が2割台半ばで高くなっている。

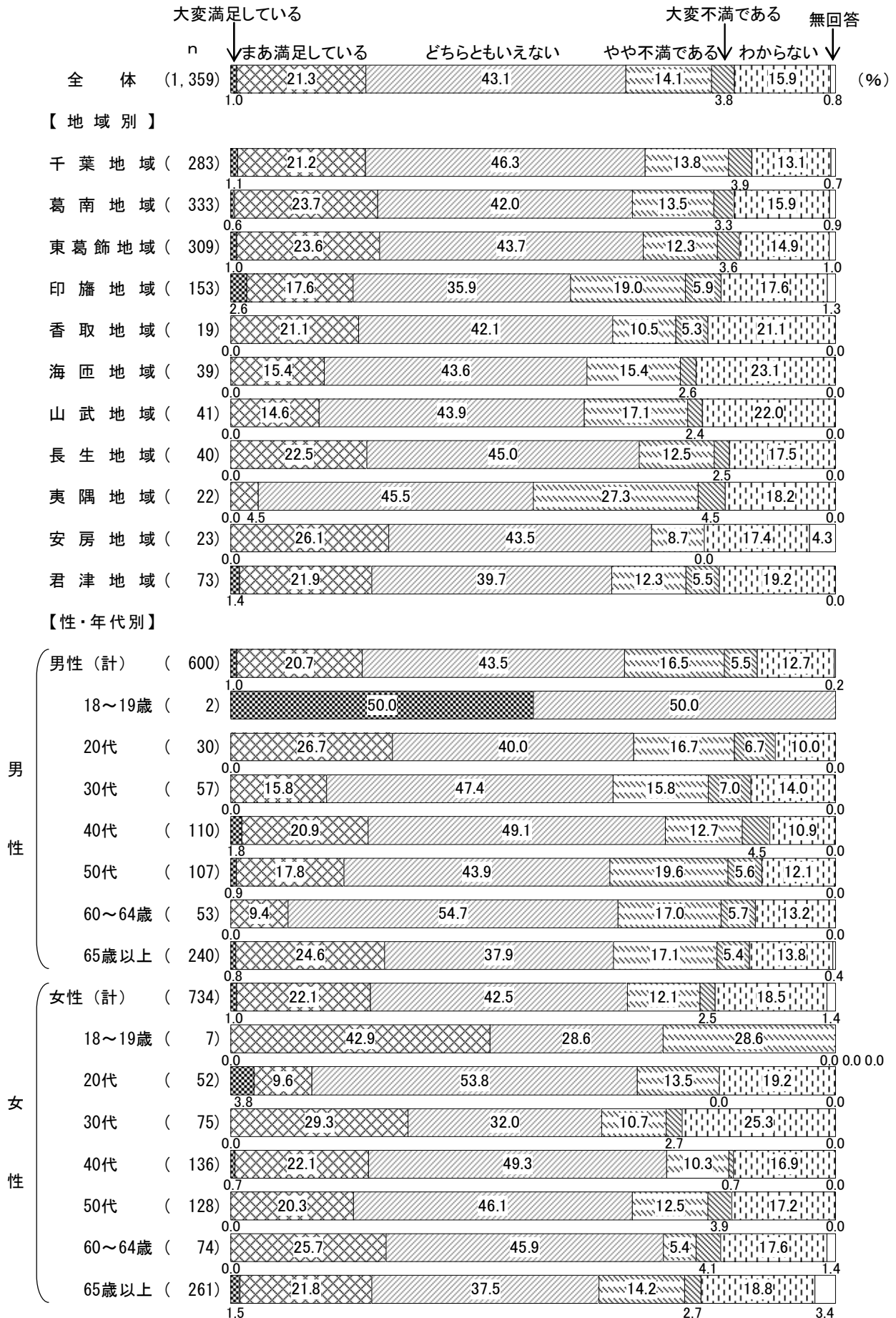
（図表 2－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『不満（計）』は男性の50代（25.2％）が2割台半ばで高くなっている。

（図表 2－14）

<図表2-14>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別



このほかに、「消費生活について」やここまでの質問（問4～問10）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、186人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「消費生活について」の自由回答（抜粋）

○悪質商法が増えてきていると感じており年々手口も巧妙になってきている様に思います。教育機会の必要性を常を感じています。（女性、50代、印旛地域）

○相談できるセンターが土・日や夜間も対応してもらえた方が良いと思います。平日の日中だけだと利用しにくいです。（男性、65歳以上、印旛地域）

○台風15号や19号の日は、すごく訪問営業が多かったです（住宅系）。何か台風や災害時は、こういう訪問に気を付けて、的な広報があったら注意喚起になると思いました。（女性、40代、東葛飾地域）

○今までにトラブルにあったことはないが、今後インターネットによる通販などで不良品トラブルや価値判断の見込み違いなどのトラブルが懸念されます。インターネットトラブル対応の現状がわかりません。（男性、65歳以上、千葉地域）

○消費者トラブルはクーリングオフなど契約解除の制度があるものの、実際には応じてもらえなかったり、面倒、時間がかかるなど労力が必要なことから問題が表面化しないものも多いのではないだろうか。インターネットで購入したものが満足 of いかないもので返品というものもよくあります。安すぎるものはトラブルのリスクも高いと思います。（男性、30代、海匝地域）

○悪質商法の回避方法の講習会をもっと積極的に行った方が良いと思う。（女性、18～19歳、印旛地域）

○実際にトラブルにあい、消費生活センターに連絡して助かりました。しかし悪質業者は社名を変えてまた同じ事をくりかえし行っていると聞きました。こういう業者にもっと厳罰を与えるようにしてほしいと思います。（男性、40代、葛南地域）

○子どもの頃から学校教育で、生活する力、消費者トラブルを回避する力を身に付けさせることが必要だと思う。（女性、30代、千葉地域）

○平時では問題ないが有事の際には生活必需品はすぐに切れてしまうと思う。（女性、40代、葛南地域）

○消費者センターのPRを広報などでもっと詳しくしてほしい。食品の残留農薬や放射能の問題は食品購入の際に大変気になります。（女性、40代、葛南地域）

3 医療について

（１）県内の医療の満足度

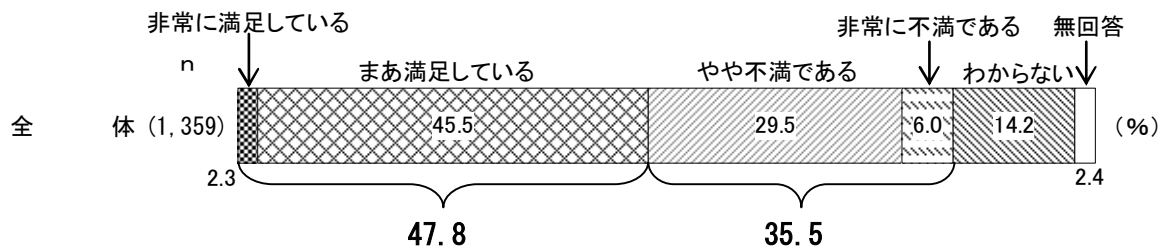
◇『満足（計）』が約５割

県では、平成30年4月に策定した千葉県保健医療計画に基づき、県民の皆さま一人ひとりが地域で安心して生活することができる、総合的な保健医療供給体制の確立を推進しています。

今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問11 あなたは千葉県内の医療についてどう感じですか。（○は１つ）

＜図表３－１＞県内の医療の満足度



千葉県内の医療についてどう感じるか聞いたところ、「非常に満足している」（2.3％）と「まあ満足している」（45.5％）を合わせた『満足（計）』（47.8％）が約５割で高くなっている。

一方、「やや不満である」（29.5％）と「非常に不満である」（6.0％）を合わせた『不満（計）』（35.5％）は３割台半ばとなっている。（図表３－１）

【地域別】

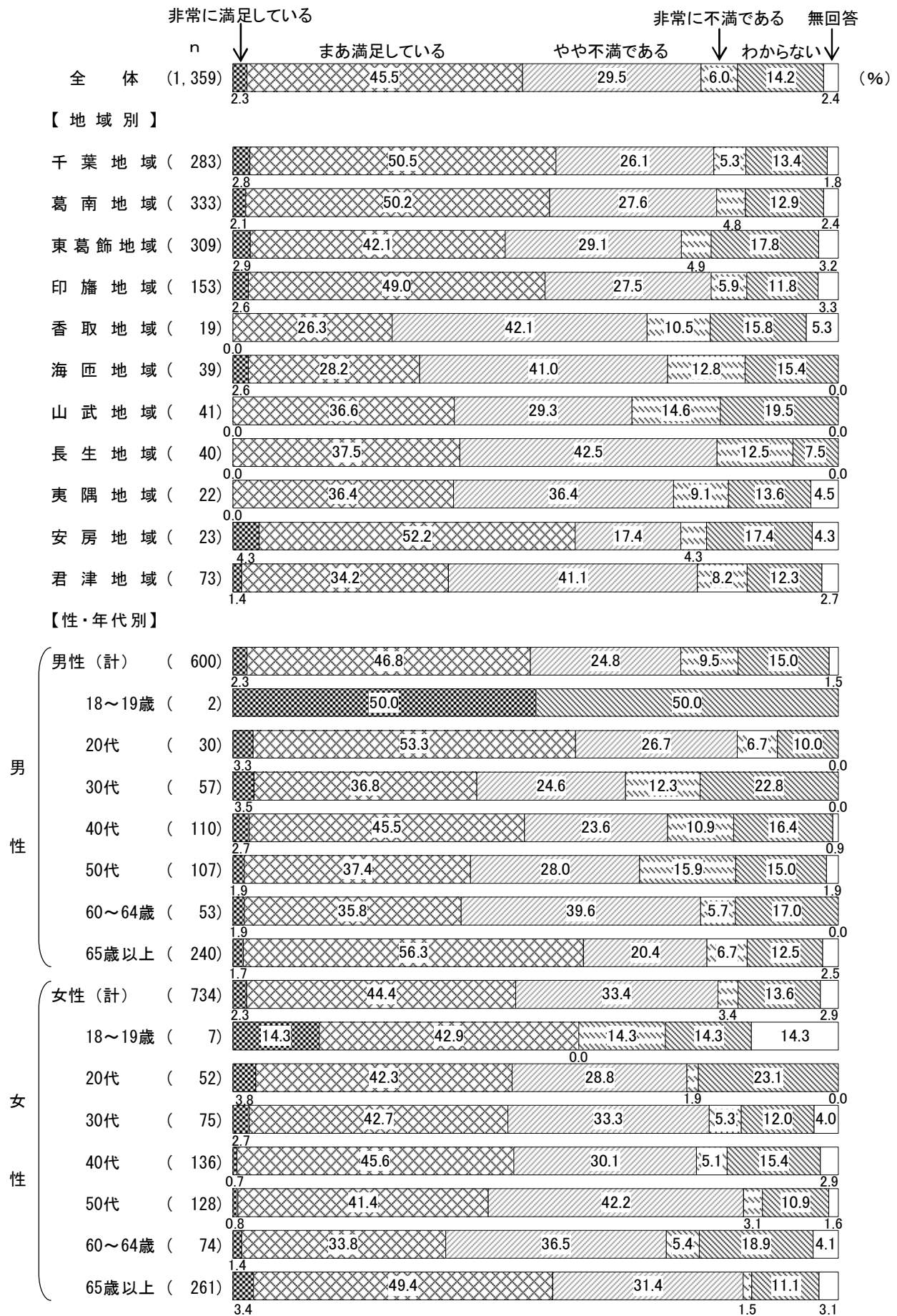
地域別にみると、『不満（計）』は“長生地域”（55.0％）、“海匝地域”（53.8％）が５割台半ば、“君津地域”（49.3％）が約５割で高くなっている。（図表３－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足（計）』は男性の65歳以上（57.9％）が約６割で高くなっている。

一方、『不満（計）』は女性の50代（45.3％）が４割台半ばで高くなっている。（図表３－２）

＜図表3－2＞県内の医療の満足度／地域別、性・年代別



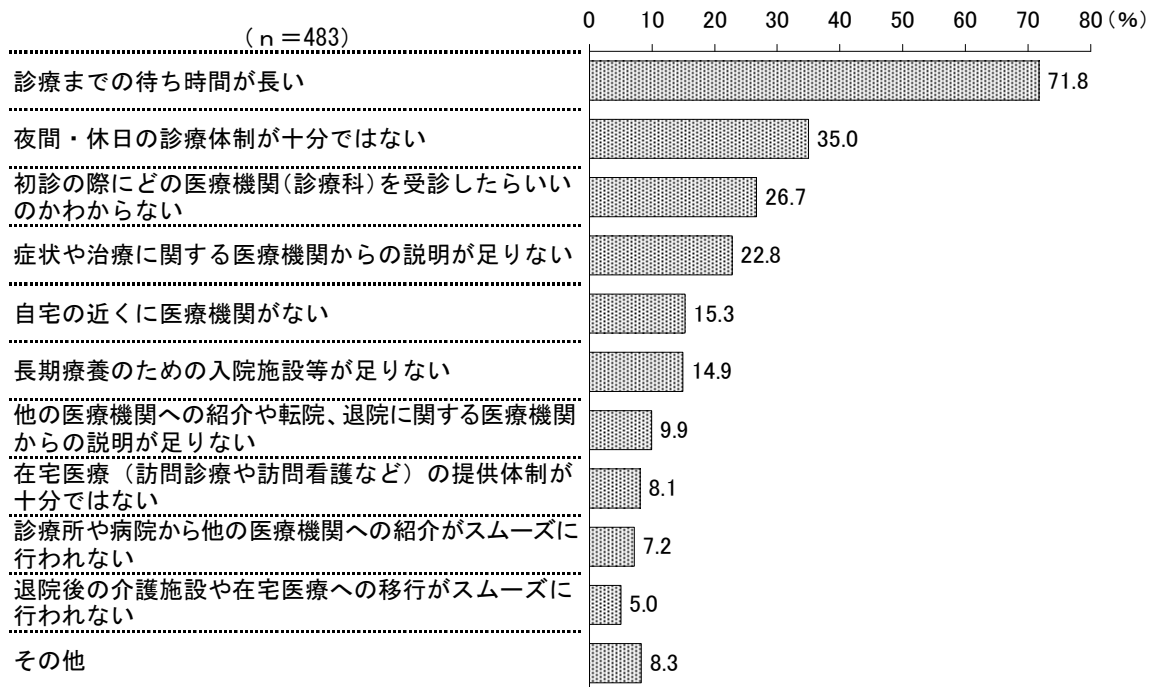
（１－１）県内の医療で不満な点

◇「診療までの待ち時間が長い」が７割を超える

（問11で「やや不満である」、「非常に不満である」とお答えの方に）

問11－１ あなたは、どのような点に不満を感じていますか。（○は３つまで）

＜図表３－３＞県内の医療で不満な点（３つまでの複数回答）



千葉県内の医療について「やや不満である」、「非常に不満である」と回答した483人を対象に、どのような点に不満を感じているか聞いたところ、「診療までの待ち時間が長い」（71.8%）が７割を超えて最も高く、以下、「夜間・休日の診療体制が十分ではない」（35.0%）、「初診の際にどの医療機関（診療科）を受診したらいいのかわからない」（26.7%）、「症状や治療に関する医療機関からの説明が足りない」（22.8%）が続く。（図表３－３）

【地域別】

地域別にみると、「症状や治療に関する医療機関からの説明が足りない」は“東葛飾地域”（31.4%）が３割を超えて高くなっている。

「長期療養のための入院施設等が足りない」は“君津地域”（30.6%）が３割で高くなっている。

（図表３－４）

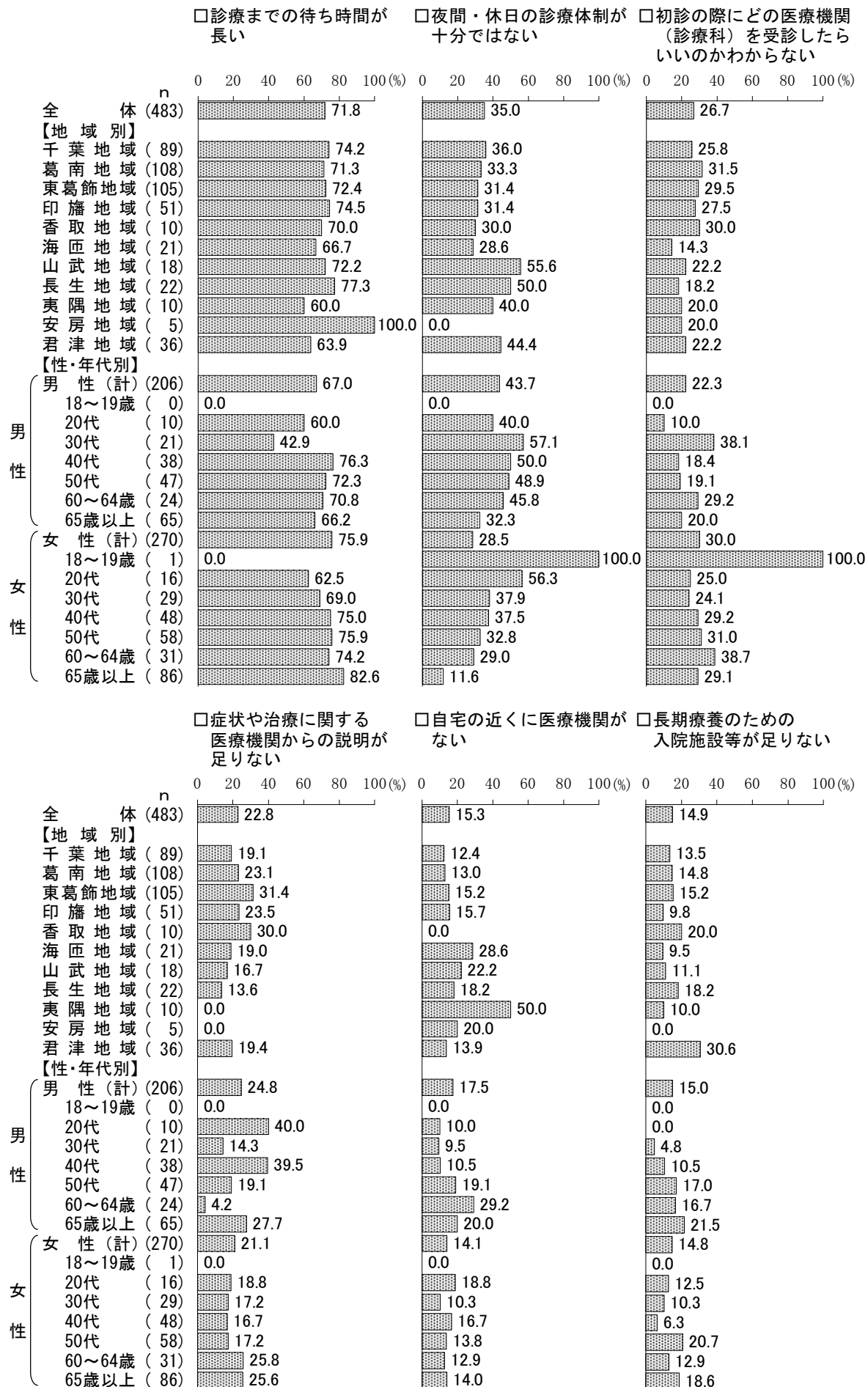
【性・年代別】

性・年代別にみると、「診療までの待ち時間が長い」は女性の65歳以上（82.6%）が８割を超えて高くなっている。

「夜間・休日の診療体制が十分ではない」は男性の30代（57.1%）が約６割、男性の50代（48.9%）が約５割で高くなっている。

「症状や治療に関する医療機関からの説明が足りない」は男性の40代（39.5%）が約４割で高くなっている。（図表３－４）

＜図表3－4＞県内の医療で不満な点（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



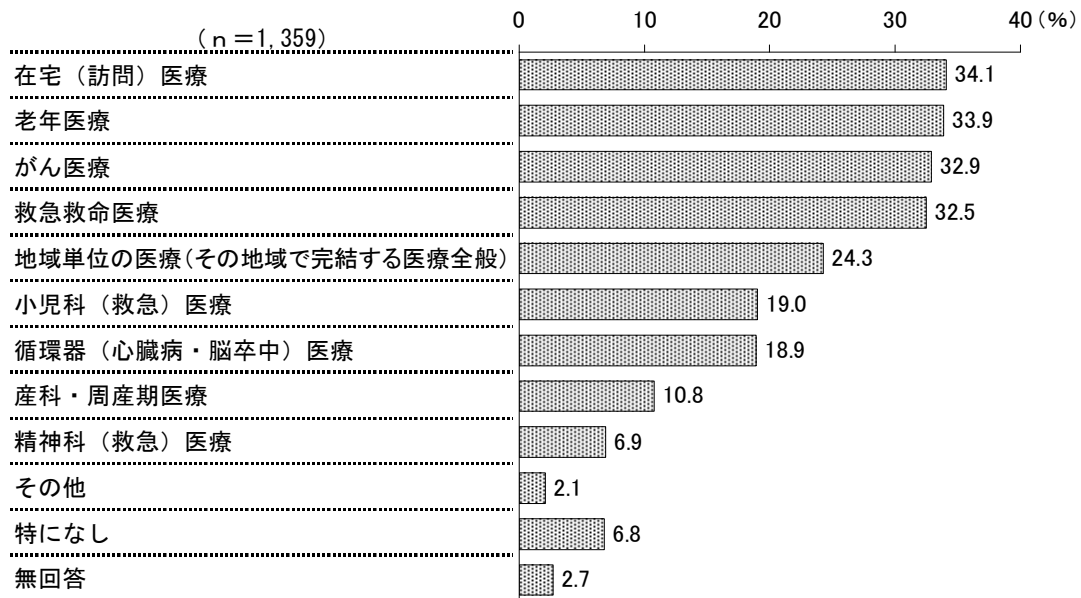
（２）今後、県に力を入れて欲しい医療

◇「在宅（訪問）医療」と「老年医療」が３割台半ば

問12 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。

（○は３つまで）

<図表３－５> 今後、県に力を入れて欲しい医療（３つまでの複数回答）



今後、県に力を入れて欲しい医療を聞いたところ、「在宅（訪問）医療」（34.1％）と「老年医療」（33.9％）が３割台半ばで高く、以下、「がん医療」（32.9％）、「救急救命医療」（32.5％）、「地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）」（24.3％）が続く。（図表３－５）

【地域別】

地域別にみると、「在宅（訪問）医療」は“印旛地域”（43.1％）が４割を超えて高くなっている。

「地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）」は“長生地域”（47.5％）が約５割で高くなっている。

「小児科（救急）医療」は“葛南地域”（24.3％）が２割台半ばで高くなっている。（図表３－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「在宅（訪問）医療」は女性の50代（43.8％）、女性の65歳以上（45.6％）が４割台半ばで高くなっている。

「老年医療」は女性の60～64歳（45.9％）、女性の65歳以上（46.0％）が４割台半ば、男性の65歳以上（42.5％）が４割を超えて高くなっている。

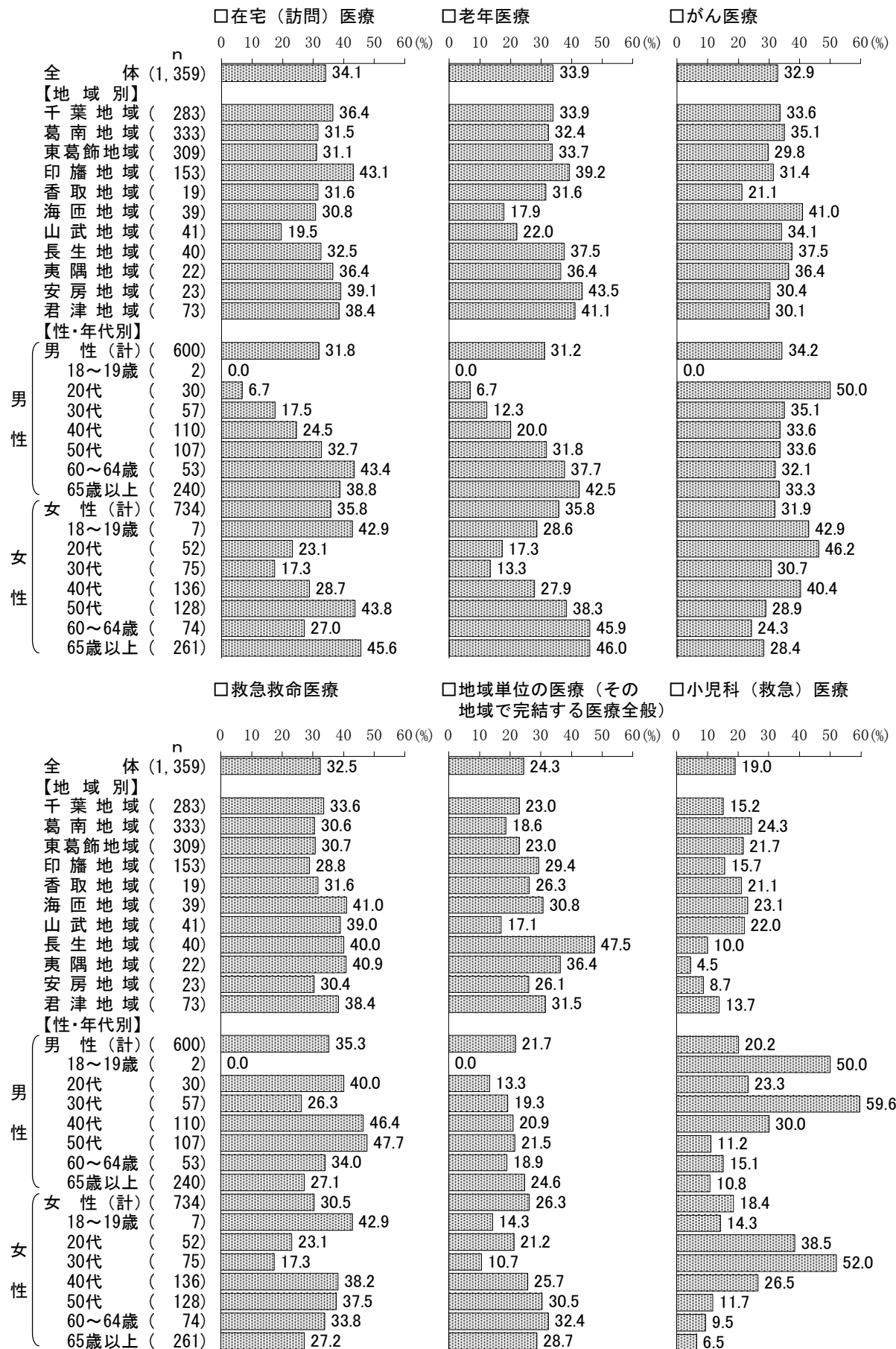
「がん医療」は男性の20代（50.0％）が５割、女性の20代（46.2％）が４割台半ばで高くなっている。

「救急救命医療」は男性の50代（47.7％）が約５割、男性の40代（46.4％）が４割台半ばで高くなっている。

「小児科（救急）医療」は男性の30代（59.6％）が約６割、女性の30代（52.0％）が５割を超え、女性の20代（38.5％）が約４割、男性の40代（30.0％）が３割、女性の40代（26.5％）が２割台半ばで高くなっている。（図表３－６）

<図表3-6> 今後、県に力を入れて欲しい医療（3つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



このほかに、「医療について」やここまでの質問（問11～問12）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、222人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「医療について」の自由回答（抜粋）

- 近くの大きな病院まで行くのにタクシーか自家用車、本数の少ないバスだと車を持たないお年寄りには大変なのではないかと思っている。もしかしたらそのような人向けのサービスとかがあるのかも知れないけど、あまり知られていないような気がする。（女性、20代、山武地域）
- 「県民だより」の県民ひろばに案内されている、病気の体験の講演やら勉強会や講習会は、ほとんど平日の昼間が多いと感じます。働き盛りが拝聴できる日程を増やしてほしいと思います。（男性、50代、印旛地域）
- 地域包括ケアシステムの観点から在宅医療がまだまだ手薄だと感じます。内科医だけでなく、様々な分野の医師の参入があればと考えます。（男性、40代、君津地域）
- 高齢者が増加中の現在、在宅で過ごしたい人は多いと感じる。だからこそ、訪問看護がもっと増えてほしい。（女性、20代、葛南地域）
- ガン検診をすすんで受けて欲しいと言う割には、一部の検査や年代以外は金額が高く、受けにくい。（女性、30代、葛南地域）
- 医師のすべてが正しいわけではないが、患者は、その医師の言う事を100%信じてしまう事が多い。古い知識のままの医師もいるので、研修などに積極的に参加して新しい知識、技術を取り入れてほしい。東京と比べると千葉は、そういう所が遅れていると感じる。（女性、40代、千葉地域）
- 父母が仕事している家庭向けの夜診療や病児保育の充実。（男性、30代、葛南地域）
- 電子カルテを採用し、病歴や投薬内容が他の病院へ行っても使えるようにして欲しい。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 小児科がとても不足しています。（女性、40代、印旛地域）
- 病院までの交通（バスなど）が増えてほしい。（女性、20代、東葛飾地域）
- 医科が多く何科に行っても良いかわからず、つい総合病院へ行ってしまう。（男性、65歳以上、地域無回答）

4 人生の最終段階における医療や療養への希望について

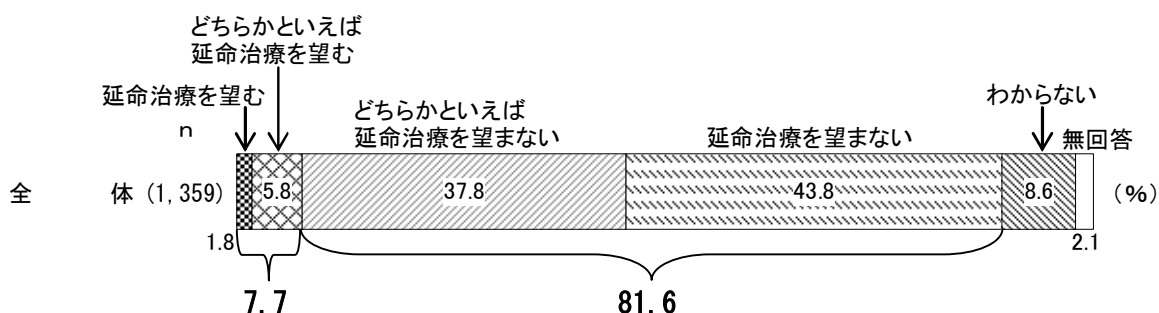
（1）延命治療の希望

◇『望まない（計）』が8割を超える

県では、人生の最終段階（治る見込みがない病気にかかった場合など）における医療や療養について、患者の方々の意思を尊重した医療の推進や啓発を図るための施策を検討しており、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問13 あなたは、人生の最終段階において、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合、治療によって生活の質が下がるとしても、とにかく延命を最優先することを目的とした治療（以下「延命治療」と言う。）を望みますか。
このような場合を想定してお答えください。（○は1つ）

＜図表4－1＞延命治療の希望



人生の最終段階において、延命治療を望むか聞いたところ、「どちらかといえば延命治療を望まない」（37.8%）と「延命治療を望まない」（43.8%）を合わせた『望まない（計）』（81.6%）が8割を超えて高くなっている。

一方、「延命治療を望む」（1.8%）と「どちらかといえば延命治療を望む」（5.8%）を合わせた『望む（計）』（7.7%）は1割未満となっている。（図表4－1）

【地域別】

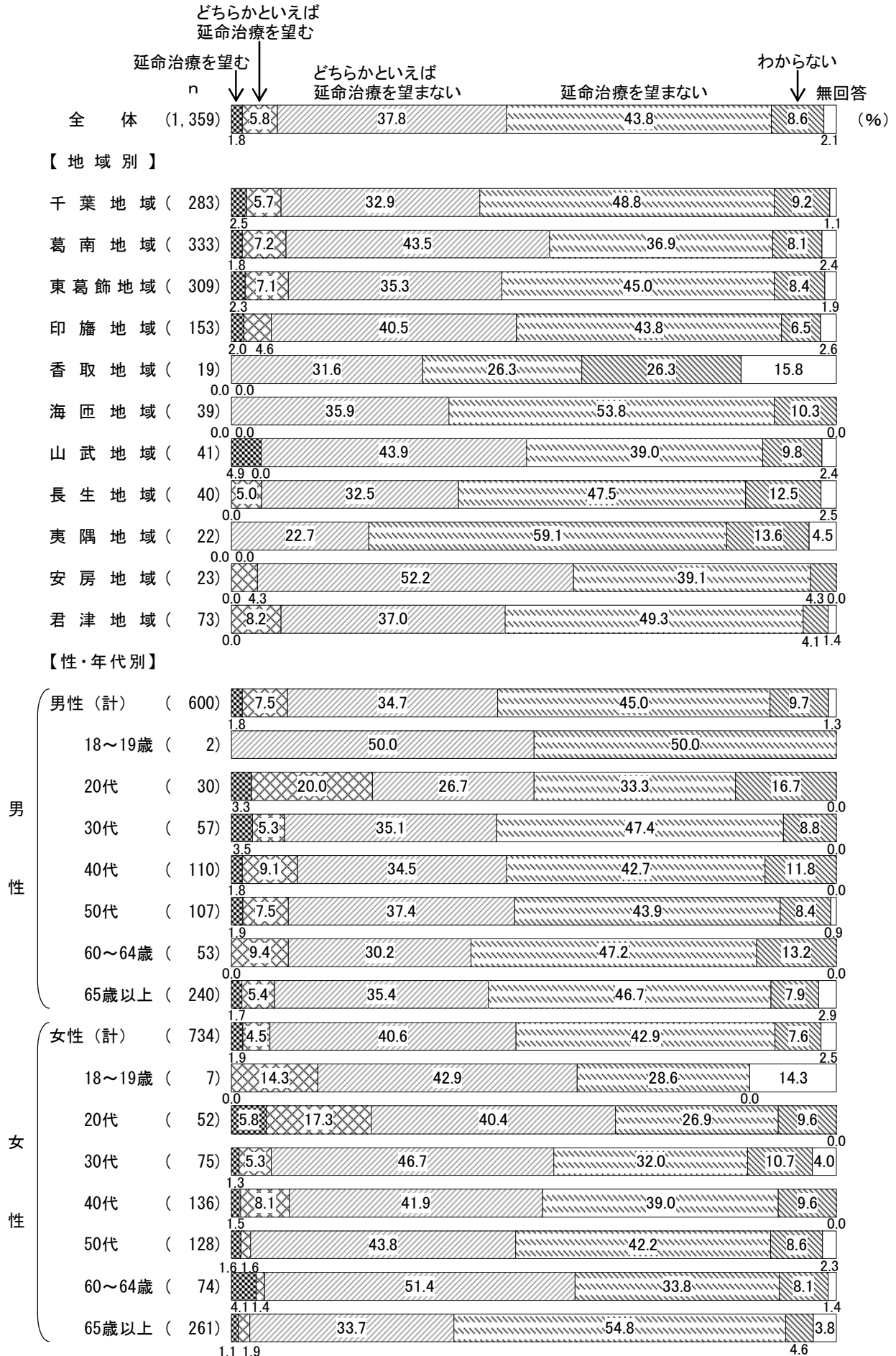
地域別にみると、「どちらかといえば延命治療を望まない」は“葛南地域”（43.5%）が4割台半ばで高くなっている。（図表4－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『望まない（計）』は女性の65歳以上（88.5%）が約9割で高くなっている。

一方、『望む（計）』は男性の20代（23.3%）と女性の20代（23.1%）が2割を超えて高くなっている。（図表4－2）

＜図表４－２＞延命治療の希望／地域別、性・年代別



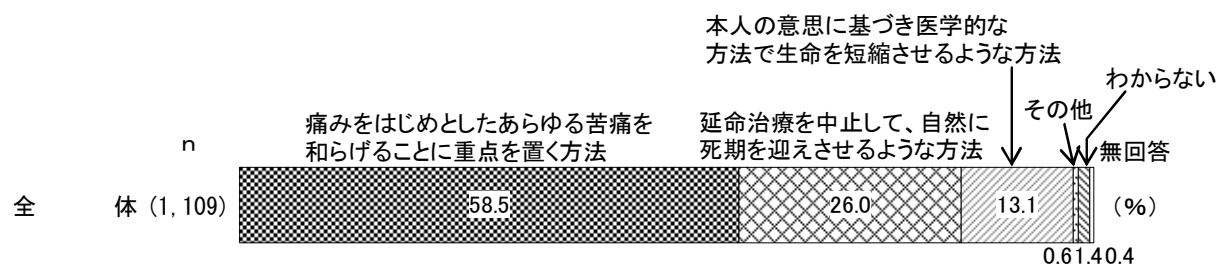
（１－１）延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望

◇「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法」が約６割

（問13で「どちらかといえば延命治療を望まない」、「延命治療を望まない」とお答えの方に）
問13－１ 延命治療を望まない場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。

（○は１つ）

<図表４－３>延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望



人生の最終段階において、「どちらかといえば延命治療を望まない」、「延命治療を望まない」と回答した1,109人を対象に、具体的にはどのような医療・ケア方法を望むか聞いたところ、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法」（58.5%）が約６割で最も高く、以下、「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」（26.0%）、「本人の意思に基づき医学的な方法で生命を短縮させるような方法」（13.1%）が続く。（図表４－３）

【地域別】

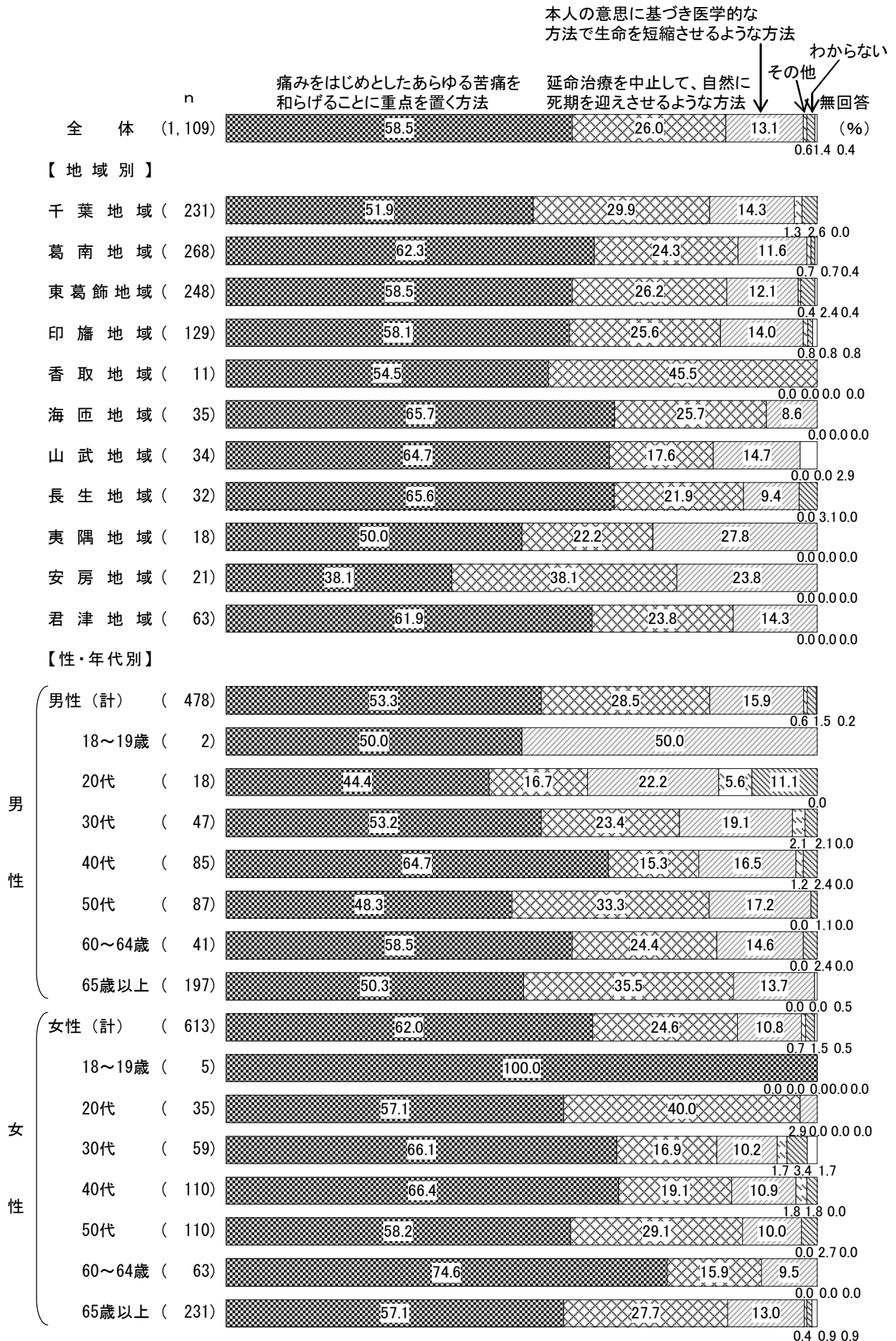
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表４－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法」は女性の60～64歳（74.6%）が7割台半ばで高くなっている。

「延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」は男性の65歳以上（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。（図表４－４）

＜図表４－４＞延命治療を望まない場合の医療・ケア方法の希望／地域別、性・年代別



このほかに、「人生の最終段階における医療や療養への希望について」やここまでの質問（問13）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、236人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「人生の最終段階における医療や療養への希望について」の自由回答（抜粋）

○その時になってみないと想像がつかない面があるが、できるだけ家族に迷惑をかけない形で治療を受けられたらと思う。
（女性、50代、東葛飾地域）

○緩和ケア専門の病院が近くにあり、入院できる体制があると安心できるのですが。
（女性、65歳以上、夷隅地域）

○家庭で療養の生活を希望する。そのために必要な体制のバックアップを充実してほしい。家族と共に生活できることがもっと悔いのない最後となるように思います。
（男性、65歳以上、香取地域）

○本人の意志も大切にすべきだと思うが、支えてくれる人々の負担になるのも考えものだと思う。
（女性、30代、千葉地域）

○本人が判断出来ない状態の場合など難しい問題もあります。家族が判断するのも精神的に厳しいと思います。医療機関などから一般的な対応を説明するなど何か基準の様なものがあってもいいと思う。
（男性、50代、千葉地域）

○現代の日本の状況で尊厳死を受け入れるのは、倫理確保や社会の未熟さから、大変むずかしいと思われる。本人の意見が優先されるのはもちろん、本人の介護をしている人間の尊厳や人生を考えて、決定できるようにしたい。
（女性、20代、葛南地域）

○緩和ケア病棟、療養型など、在宅では難しい場合に入所したいと思っても、なかなかすぐに入れない。在宅で最期をむかえるのが理想だが、介護する者や看取る者はそうとうの覚悟が必要だと思う。
（女性、30代、葛南地域）

○それぞれの選択が自由に出来る環境整備が必要。第三者の正確な情報、意見を基に最適な選択をできるとよりよい。
（女性、20代、印旛地域）

○延命治療というと家族に治療費や看護等、負担をかける事が一番不安なので望みません。ただこれが逆だったら、家族には少しでも長く生きていて欲しいかなと考えます。
（女性、50代、千葉地域）

○在宅医療の相談窓口を設けてほしい。人生の最終段階は在宅で診てもらいながら死期を迎えたい。
（女性、40代、千葉地域）

5 食品ロスについて

（１）「食品ロス」が問題となっていることの認知度

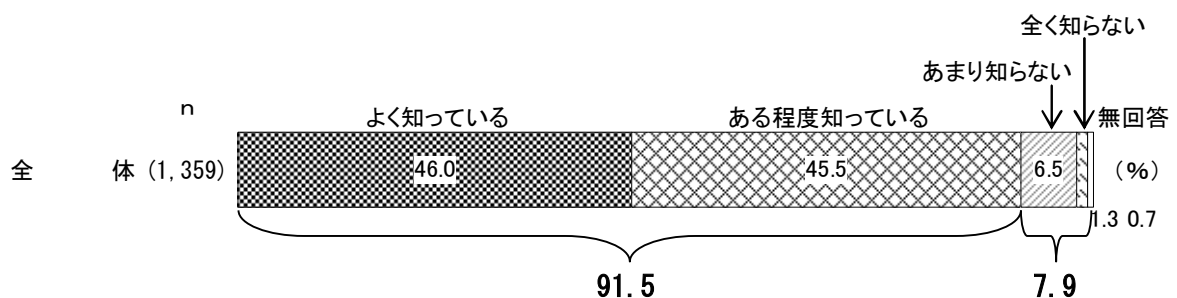
◇『知っている（計）』が9割を超える

まだ食べられるにも関わらず廃棄される「食品ロス」が、全国で年間600万トン以上発生しており、食品ロスを削減する取組を進めていくことが重要な課題となっています。

「食品ロス」削減に向けた今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問14 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。（○は1つ）

＜図表5－1＞「食品ロス」が問題となっていることの認知度



「食品ロス」が問題となっていることを知っているか聞いたところ、「よく知っている」（46.0％）と「ある程度知っている」（45.5％）を合わせた『知っている（計）』（91.5％）が9割を超えて高くなっている。

一方、「あまり知らない」（6.5％）と「全く知らない」（1.3％）を合わせた『知らない（計）』（7.9％）は1割未満となっている。（図表5－1）

【地域別】

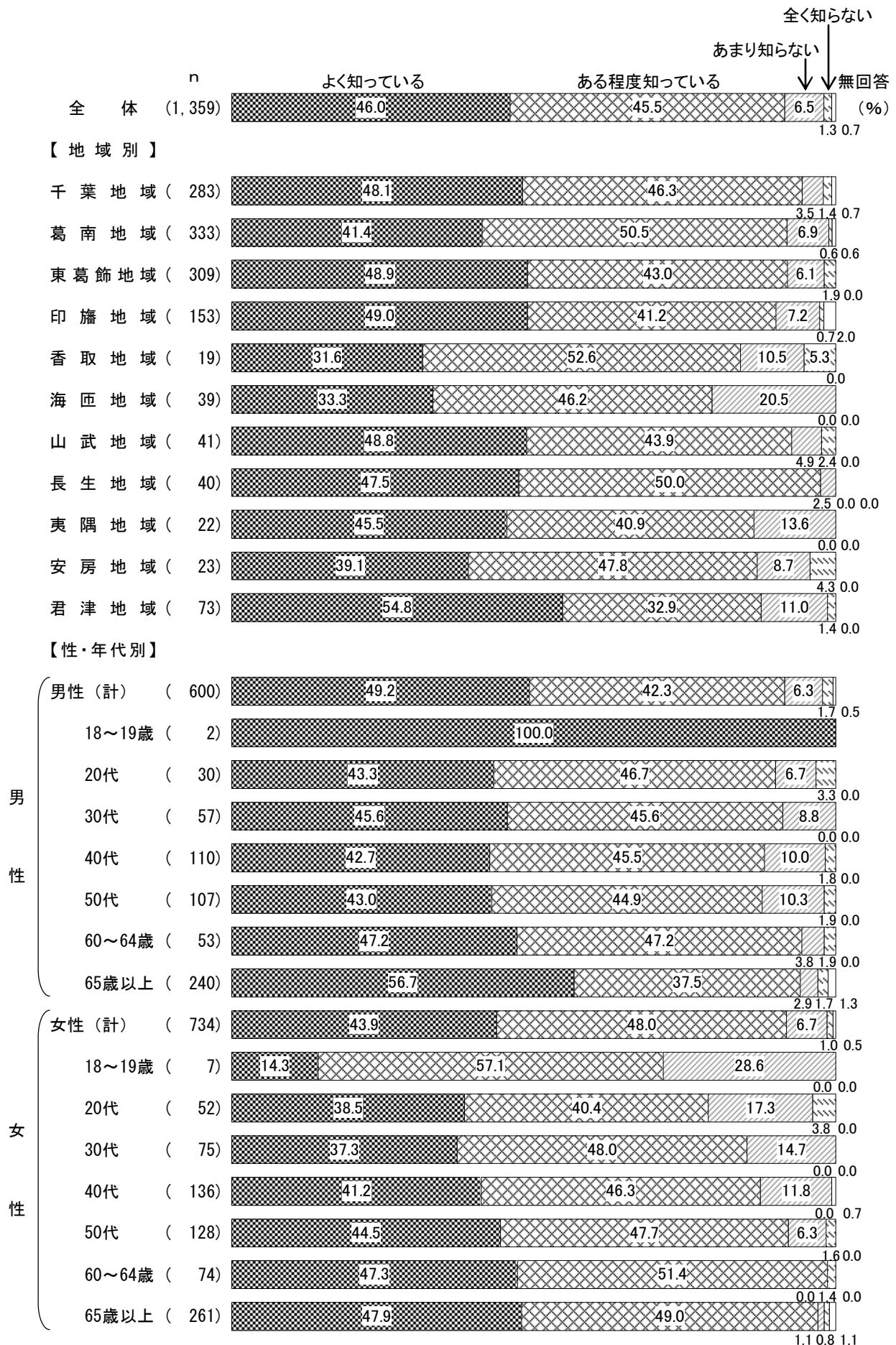
地域別にみると、「あまり知らない」は“海匠地域”（20.5％）が2割で高くなっている。

（図表5－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「よく知っている」は男性の65歳以上（56.7％）が5割台半ばで高くなっている。（図表5－2）

＜図表５－２＞「食品ロス」が問題となっていることの認知度／地域別、性・年代別

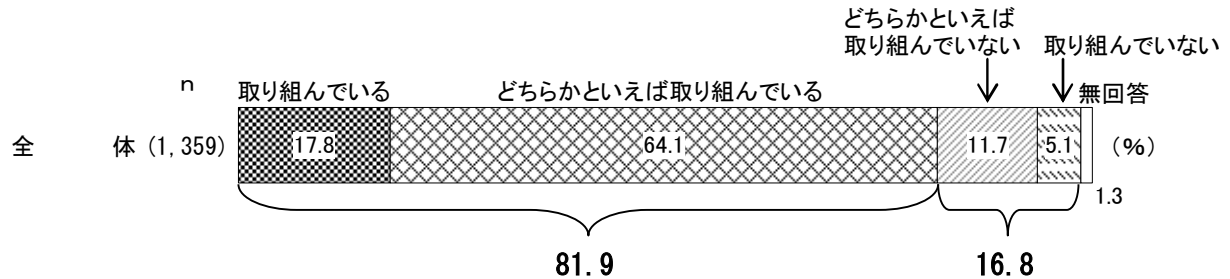


（２）「食品ロス」の削減の取組状況

◇『取り組んでいる（計）』が8割を超える

問15 あなたは、「食品ロス」の削減に取り組んでいますか。（○は1つ）

＜図表５－３＞「食品ロス」の削減の取組状況



「食品ロス」の削減に取り組んでいるか聞いたところ、「取り組んでいる」（17.8%）と「どちらかといえば取り組んでいる」（64.1%）を合わせた『取り組んでいる（計）』（81.9%）が8割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえば取り組んでいない」（11.7%）と「取り組んでいない」（5.1%）を合わせた『取り組んでいない（計）』（16.8%）は1割台半ばとなっている。（図表５－３）

【地域別】

地域別にみると、「取り組んでいる」は“東葛飾地域”（22.7%）が2割を超えて高くなっている。

（図表５－４）

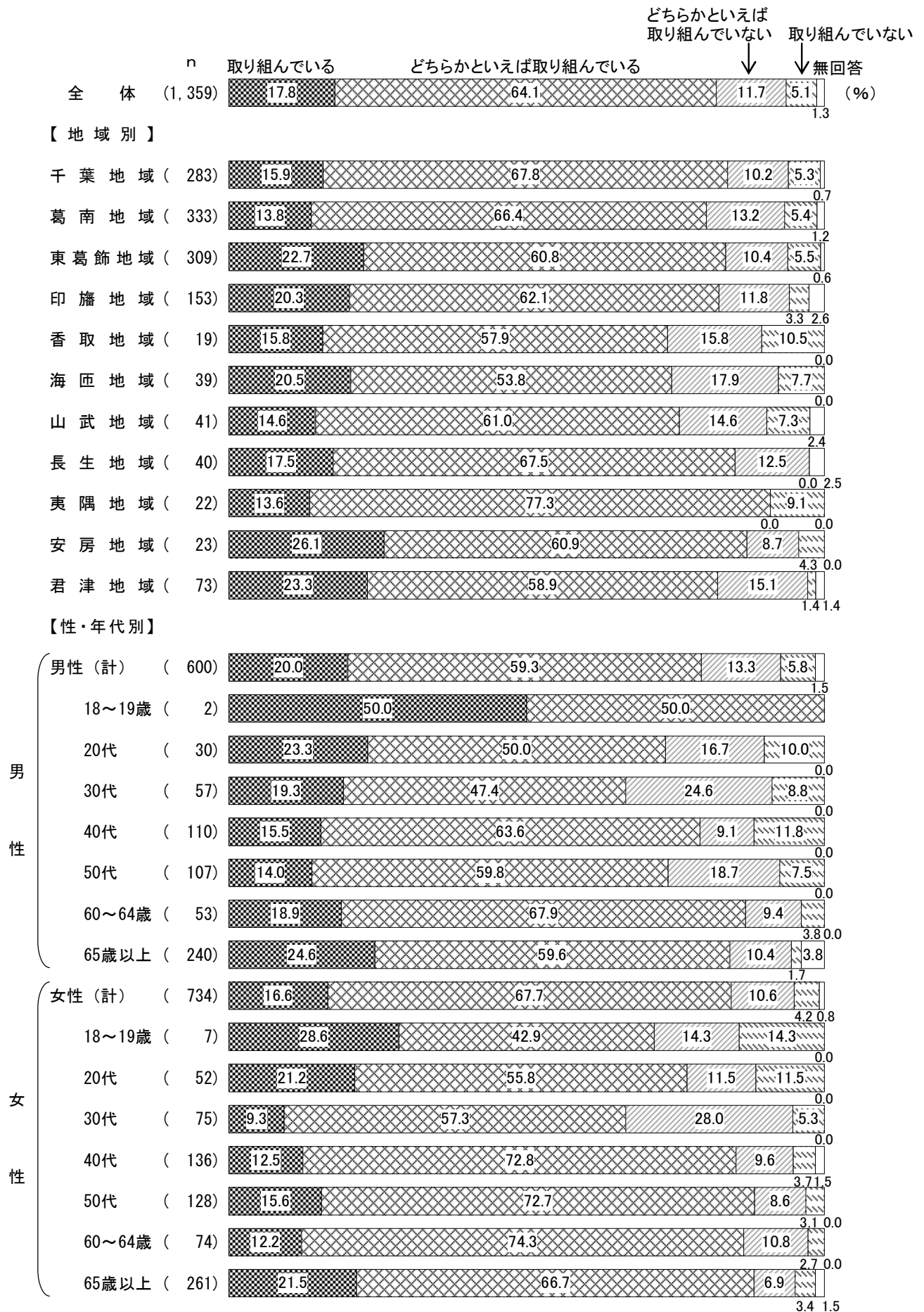
【性・年代別】

性・年代別にみると、「取り組んでいる」は男性の65歳以上（24.6%）が2割台半ばで高くなっている。

「どちらかといえば取り組んでいる」は女性の40代（72.8%）、女性の50代（72.7%）が7割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえば取り組んでいない」は女性の30代（28.0%）が約3割、男性の30代（24.6%）が2割台半ばで高くなっている。（図表５－４）

＜図表5－4＞「食品ロス」の削減の取組状況／地域別、性・年代別



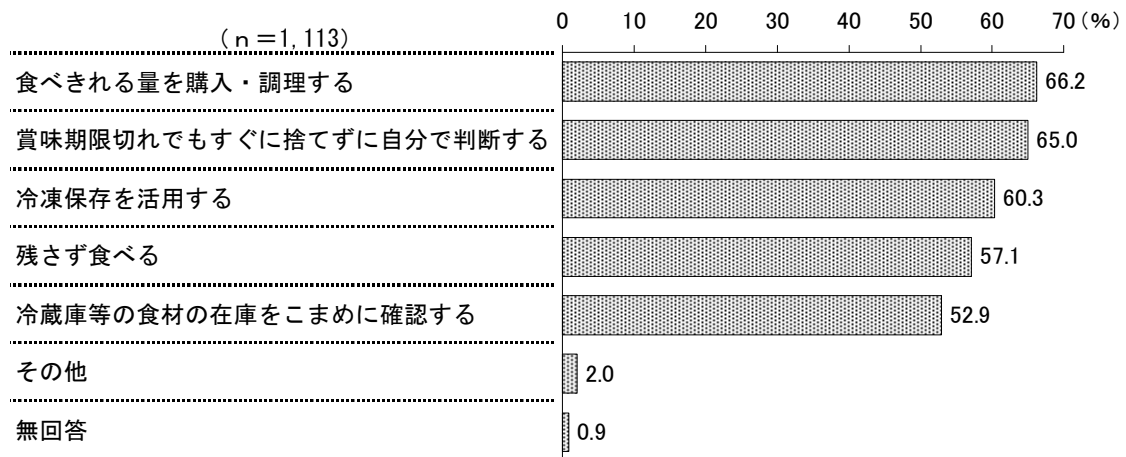
（２－１）普段の生活の中での取組

◇「食べきれる量を購入・調理する」と「賞味期限切れでもすぐに捨てずに自分で判断する」が６割台半ば

（問15で「取り組んでいる」、「どちらかといえば取り組んでいる」とお答えの方に）

問15－１ 普段の生活の中で、どのような取組を行っていますか。（○はいくつでも）

＜図表５－５＞普段の生活の中での取組（複数回答）



「食品ロス」の削減に「取り組んでいる」、「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した1,113人を対象に、普段の生活の中での取組を聞いたところ、「食べきれる量を購入・調理する」（66.2%）と「賞味期限切れでもすぐに捨てずに自分で判断する」（65.0%）が６割台半ばで高く、以下、「冷凍保存を活用する」（60.3%）、「残さず食べる」（57.1%）、「冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認する」（52.9%）が続く。（図表５－５）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表５－６）

【性・年代別】

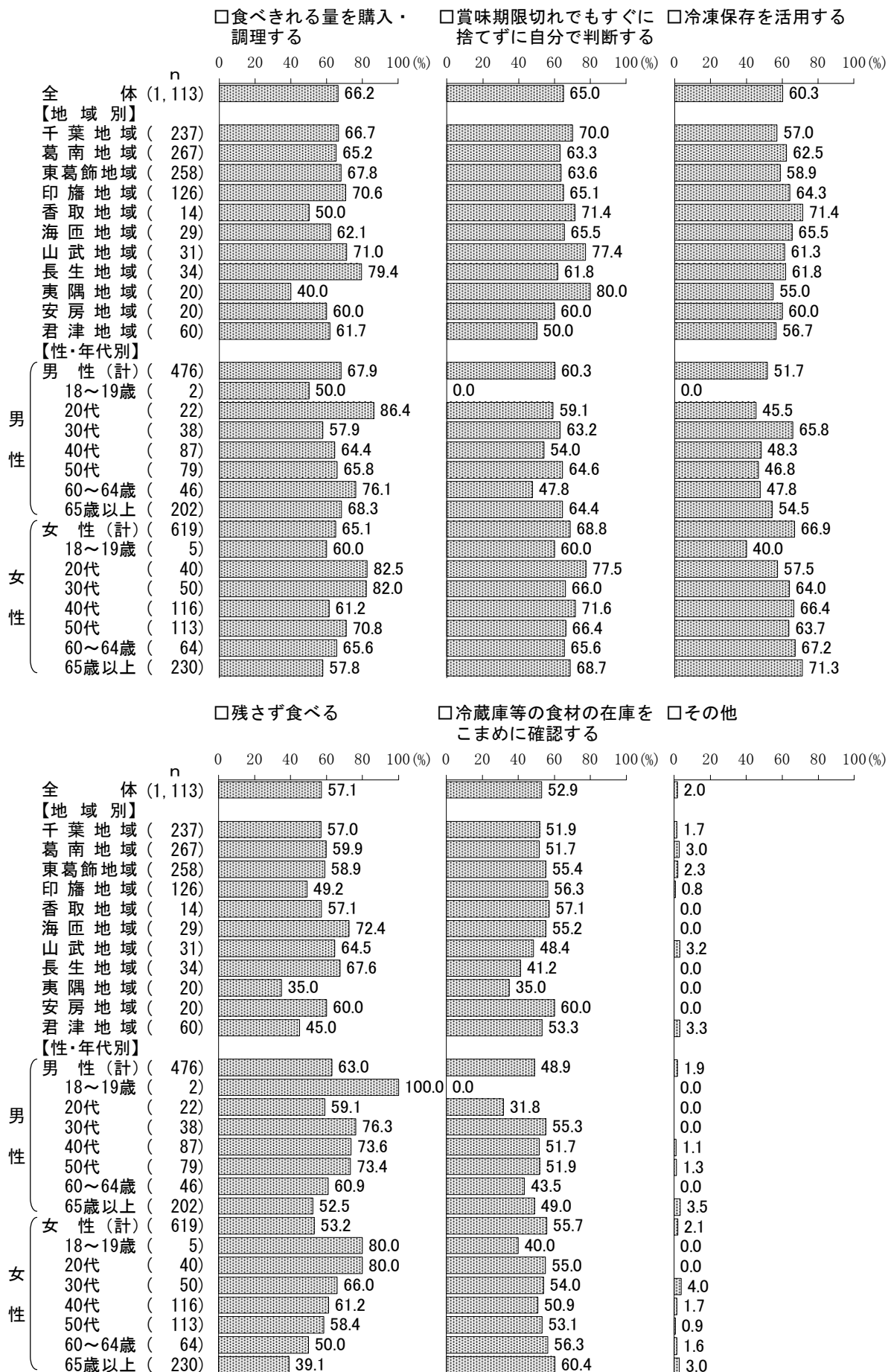
性・年代別にみると、「食べきれる量を購入・調理する」は男性の20代（86.4%）が８割台半ば、女性の20代（82.5%）、女性の30代（82.0%）が８割を超えて高くなっている。

「冷凍保存を活用する」は女性の65歳以上（71.3%）が７割を超えて高くなっている。

「残さず食べる」は女性の20代（80.0%）が８割、男性の30代（76.3%）、男性の40代（73.6%）が７割台半ば、男性の50代（73.4%）が７割を超えて高くなっている。

「冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認する」は女性の65歳以上（60.4%）が６割で高くなっている。（図表５－６）

＜図表5－6＞普段の生活の中での取組（複数回答）／地域別、性・年代別



（２－２） 外食や宴会での取組

◇「食べきれる量を注文している」が約８割

（問15で「取り組んでいる」、「どちらかといえば取り組んでいる」とお答えの方に）

問15－２ 外食や宴会で、食品ロスの削減に取り組んでいますか。（○はいくつでも）

＜図表５－７＞外食や宴会での取組（複数回答）



「食品ロス」の削減に「取り組んでいる」、「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した1,113人を対象に、外食や宴会での取組を聞いたところ、「食べきれる量を注文している」（79.1％）が約８割で最も高く、以下、「苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている」（37.6％）、「お店に了解を得て残った料理を持ち帰っている」（26.9％）、「宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」（15.3％）が続く。（図表５－７）

【地域別】

地域別にみると、「苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている」は“海匠地域”（58.6％）が約６割で高くなっている。

「お店に了解を得て残った料理を持ち帰っている」は“君津地域”（38.3％）が約４割で高くなっている。（図表５－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「食べきれる量を注文している」は男性の30代（92.1％）が９割を超えて高くなっている。

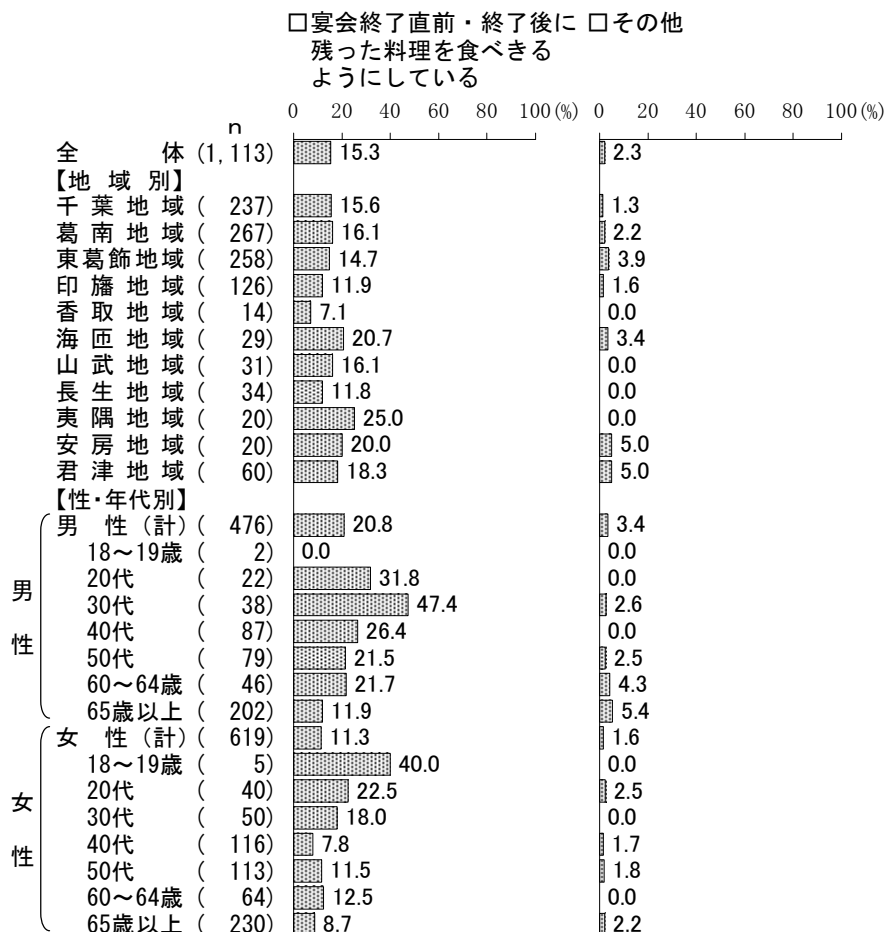
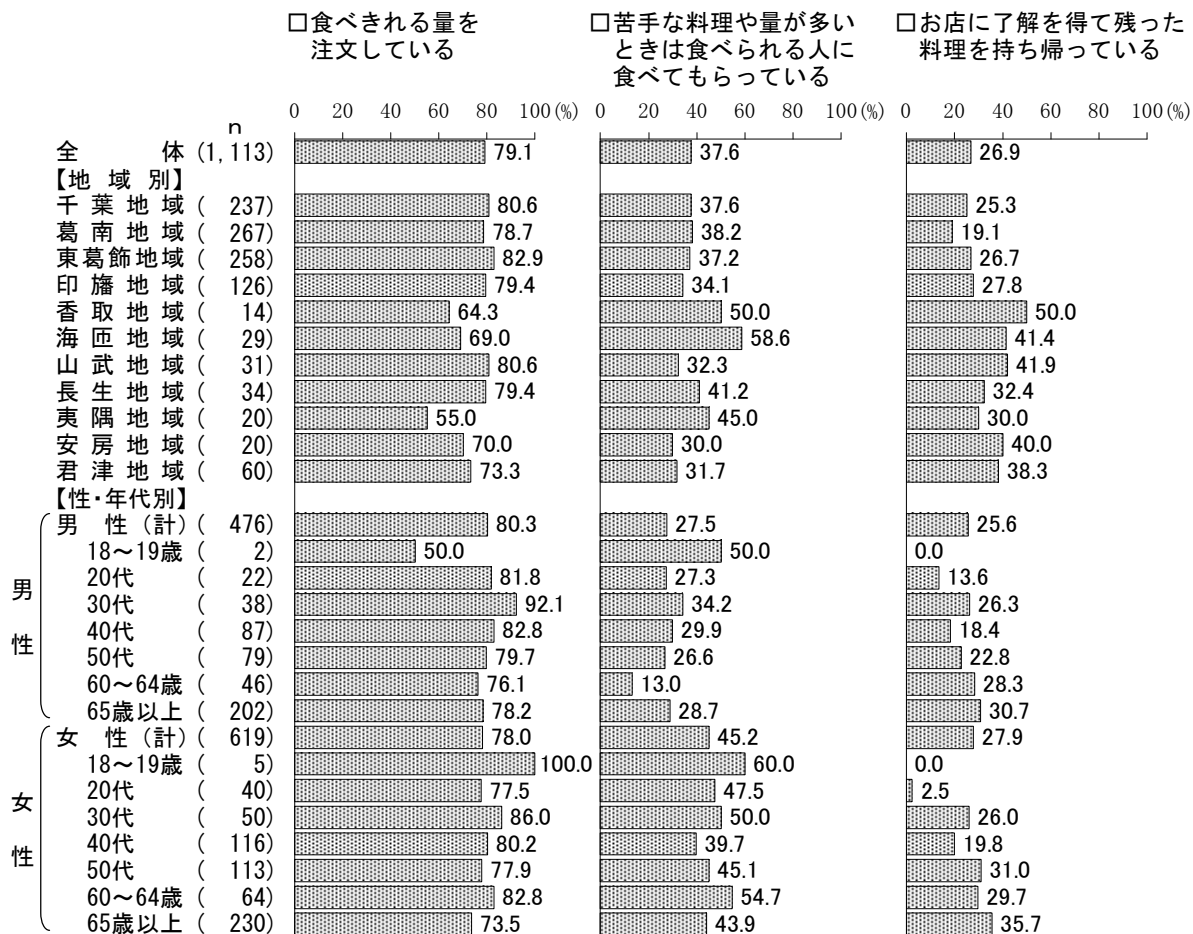
「苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている」は女性の60～64歳（54.7％）が５割台半ば、女性の65歳以上（43.9％）が４割台半ばで高くなっている。

「お店に了解を得て残った料理を持ち帰っている」は女性の65歳以上（35.7％）が３割台半ばで高くなっている。

「宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」は男性の30代（47.4％）が約５割、男性の20代（31.8％）が３割を超え、男性の40代（26.4％）が２割台半ばで高くなっている。

（図表５－８）

＜図表５－８＞ 外食や宴会での取組（複数回答）／地域別、性・年代別

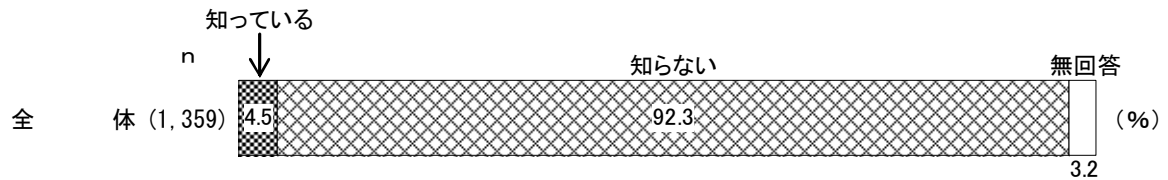


（３）「ちば食べきりエコスタイル」の認知度

◇「知っている」が１割未満

問16 あなたは、千葉県が食べ残しの削減に向けて推進している「ちば食べきりエコスタイル」を知っていますか。（○は１つ）

＜図表５－９＞「ちば食べきりエコスタイル」の認知度



千葉県が食べ残しの削減に向けて推進している「ちば食べきりエコスタイル」を知っているか聞いたところ、「知っている」（4.5％）が１割未満となっている。

一方、「知らない」（92.3％）は９割を超えて高くなっている。（図表５－９）

【地域別】

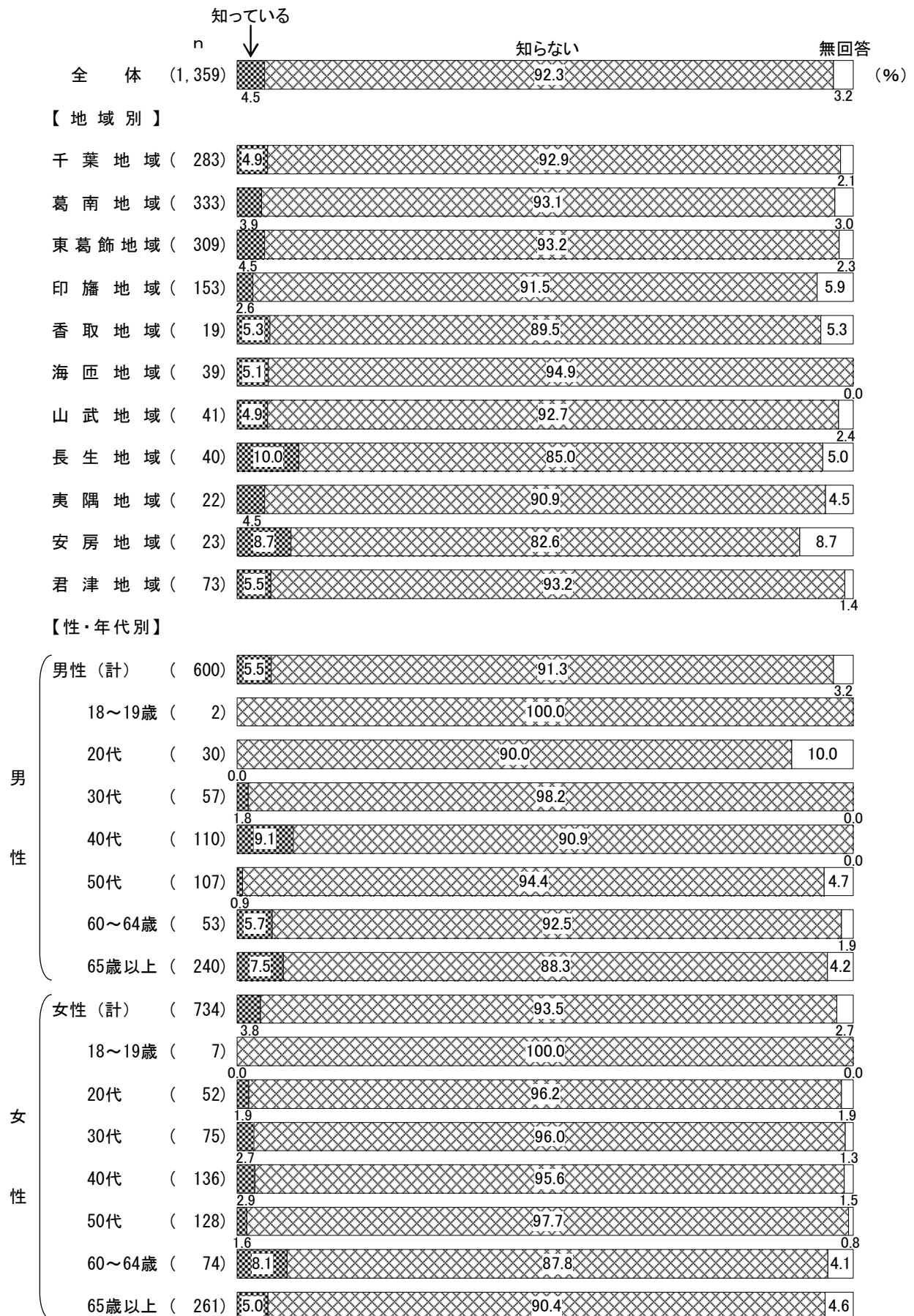
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表５－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」は女性の50代（97.7％）が約10割で高くなっている。

（図表５－10）

＜図表5－10＞「ちば食べきりエコスタイル」の認知度／地域別、性・年代別



（３－１）「ちば食べきりエコスタイル」を知った方法

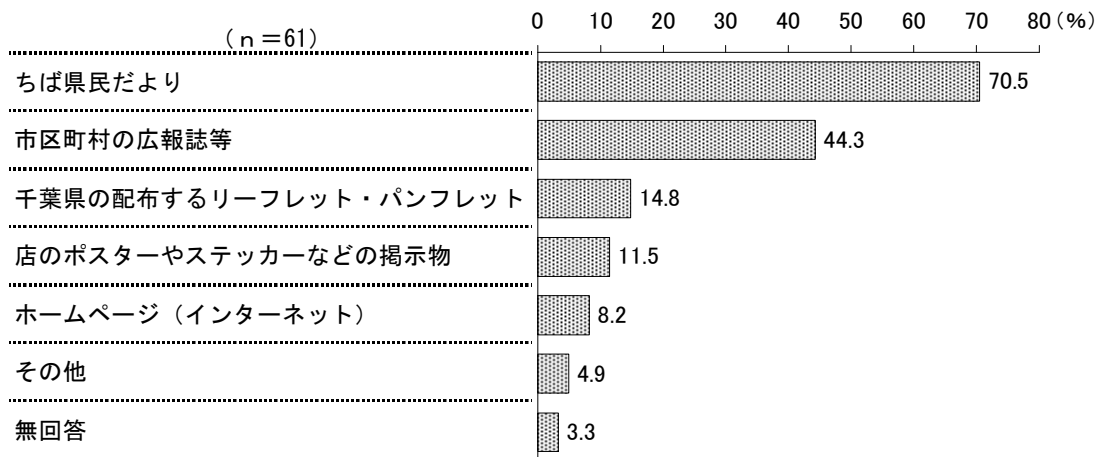
◇「ちば県民だより」が7割

（問16で「知っている」とお答えの方に）

問16－１ あなたは、どのような方法で「ちば食べきりエコスタイル」を知りましたか。

（○はいくつでも）

＜図表５－11＞「ちば食べきりエコスタイル」を知った方法（複数回答）



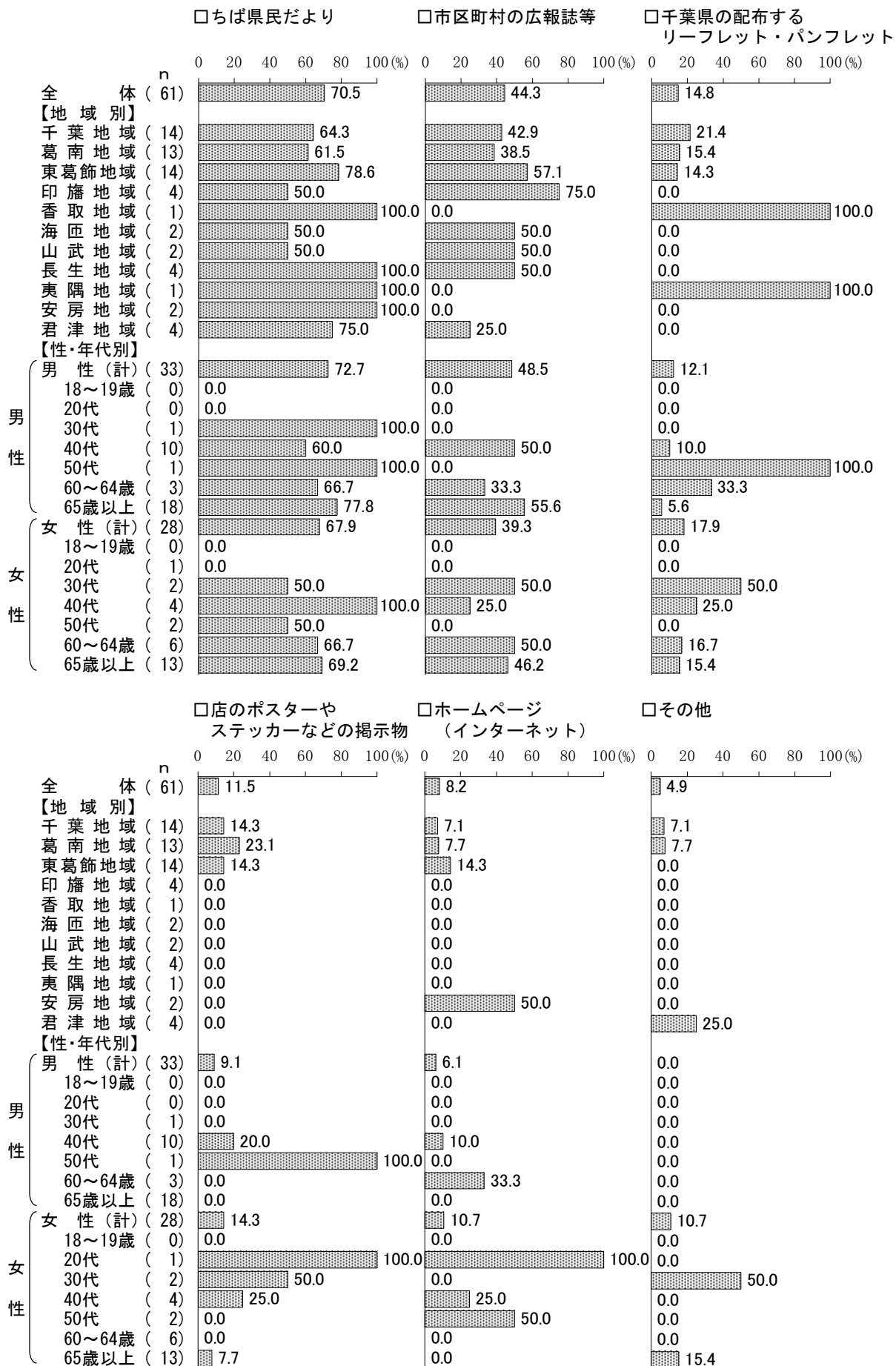
「ちば食べきりエコスタイル」を「知っている」と回答した61人を対象に、どのような方法で「ちば食べきりエコスタイル」を知ったか聞いたところ、「ちば県民だより」（70.5%）が7割で最も高く、以下、「市区町村の広報誌等」（44.3%）、「千葉県の配布するリーフレット・パンフレット」（14.8%）、「店のポスターやステッカーなどの掲示物」（11.5%）が続く。（図表５－11）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）

（図表５－12）

＜図表5－12＞「ちば食べきりエコスタイル」を知った方法（複数回答）／地域別、性・年代別



このほかに、「食品ロスについて」やここまでの質問（問14～問16）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、214人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「食品ロスについて」の自由回答（抜粋）

- フードバンクなどへの寄付やおすそ分け等贈答品でもらった食べ物などが好みでなかったりする場合活用したいと思います。（女性、50代、印旛地域）
- 給食がある小・中学生のうちに食品ロスについて教育でもっと教えるべきだと思う。（女性、20代、君津地域）
- 農業、漁業においても取れすぎると価格が下落し、廃棄処分にするという話を耳にしますが、規格外の物、取れすぎた物をうまくさばける流通方法があるといいと思う。見た目が悪くても安い方がいいので。（男性、65歳以上、葛南地域）
- 食品や食材が廃棄となった場合、受け入れ団体を作ってそこで配布、調理し、足りない所へ回す仕組みを作ってほしい。子ども食堂、公共施設への配布など。（女性、50代、印旛地域）
- スーパーや飲食店に小分けタイプや少量タイプの商品を充実させて欲しい。パン屋など、小ぶりのものが増えるとありがたい。（男性、30代、東葛飾地域）
- 残った料理を持ち帰れるお店が増えたらいいと思う。（女性、30代、千葉地域）
- 「食品ロス」は知っていたが、千葉県の取組みは知らなかった。飲食店とのコラボなどで広く知ってもらうとか、学校を通して子供たちへの教育とつなげて広めるなどはどうでしょうか。（女性、40代、葛南地域）
- 千葉県内にフードバンク組織はあるのでしょうか。もしあったら、食べきれないレトルト、缶詰、米などの保存食を賞味期限前に寄付したいのですが。（女性、40代、東葛飾地域）
- スーパーなどでは、賞味期限が遅い日付の物を選びがちだが、すぐに食べる予定なら、あえて近い日付の物を選択することも大切かと思います。宴会時の持ち帰りが個人の責任でもう少し気軽にできるようになれば、とも思います。（女性、50代、東葛飾地域）
- ちば食べきりエコスタイルという物を知らなかった。スーパーなど掲示があれば良いと思う。（男性、20代、葛南地域）

6 食育について

（1）食育への関心度

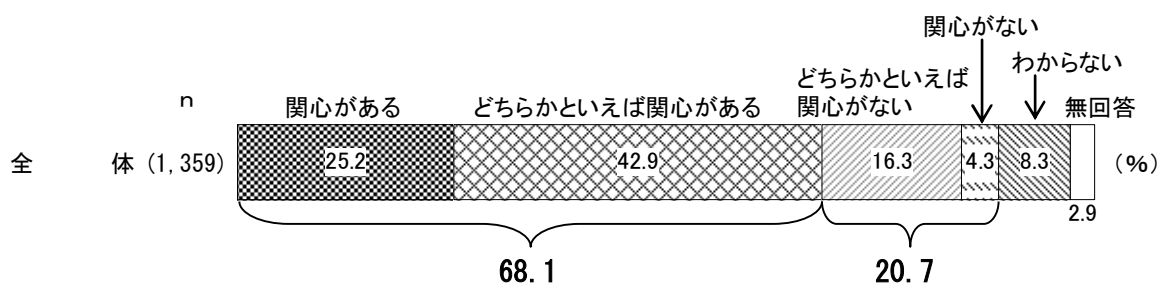
◇『関心がある（計）』が約7割

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子どもから高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

今後の食育推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問17 あなたは、「食育」に関心がありますか。（○は1つ）

＜図表6－1＞食育への関心度



「食育」に関心があるか聞いたところ、「関心がある」（25.2%）と「どちらかといえば関心がある」（42.9%）を合わせた『関心がある（計）』（68.1%）が約7割で高くなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」（16.3%）と「関心がない」（4.3%）を合わせた『関心がない（計）』（20.7%）は2割となっている。（図表6－1）

【地域別】

地域別にみると、『関心がない（計）』は“安房地域”（60.9%）が6割、“海匝地域”（35.9%）が3割台半ばで高くなっている。（図表6－2）

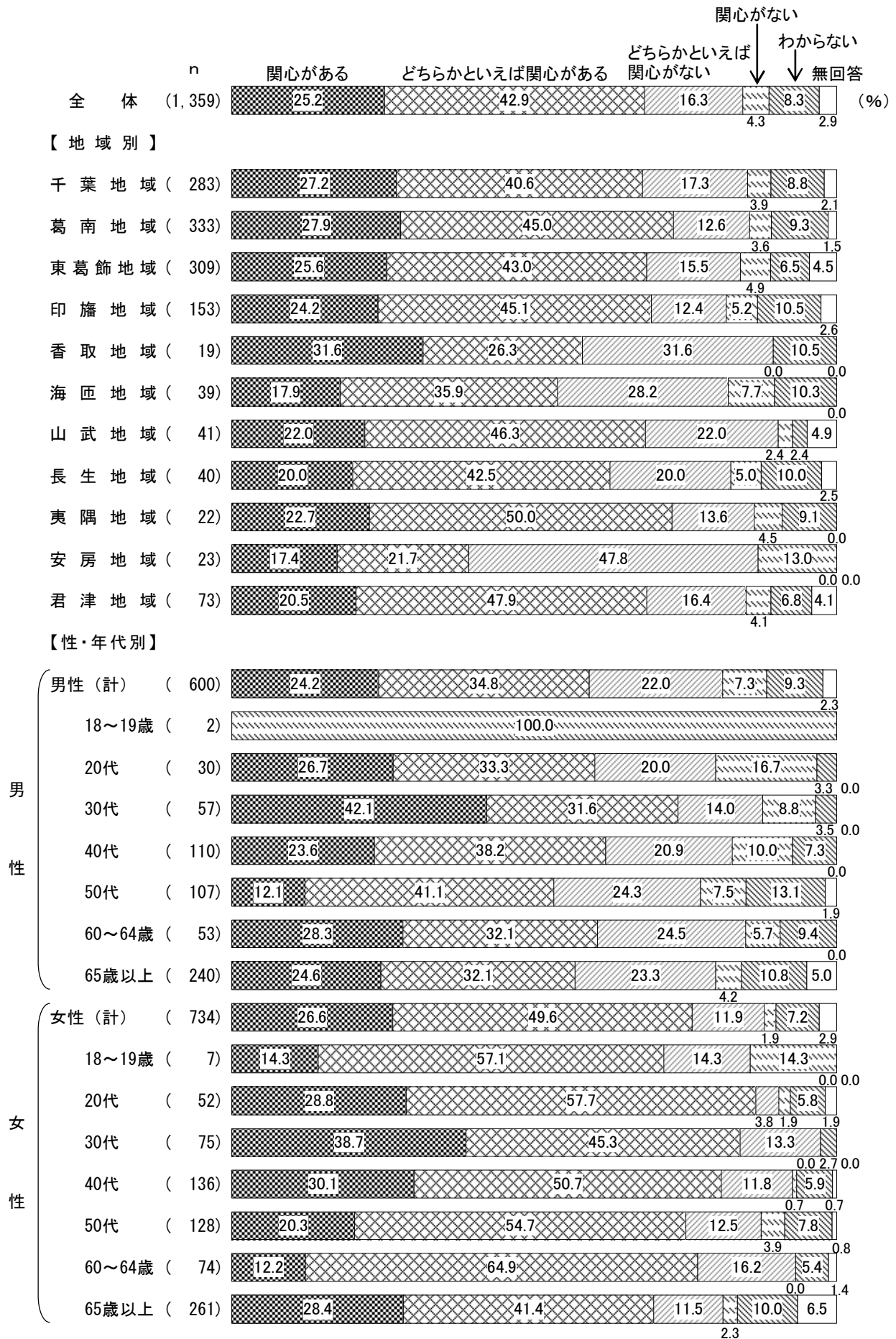
【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は女性の20代（86.5%）、女性の30代（84.0%）が8割台半ば、女性の40代（80.9%）が8割で高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は男性の20代（36.7%）が3割台半ば、男性の50代（31.8%）が3割を超え、男性の40代（30.9%）が3割、男性の65歳以上（27.5%）が約3割で高くなっている。

（図表6－2）

＜図表6－2＞食育への関心度／地域別、性・年代別



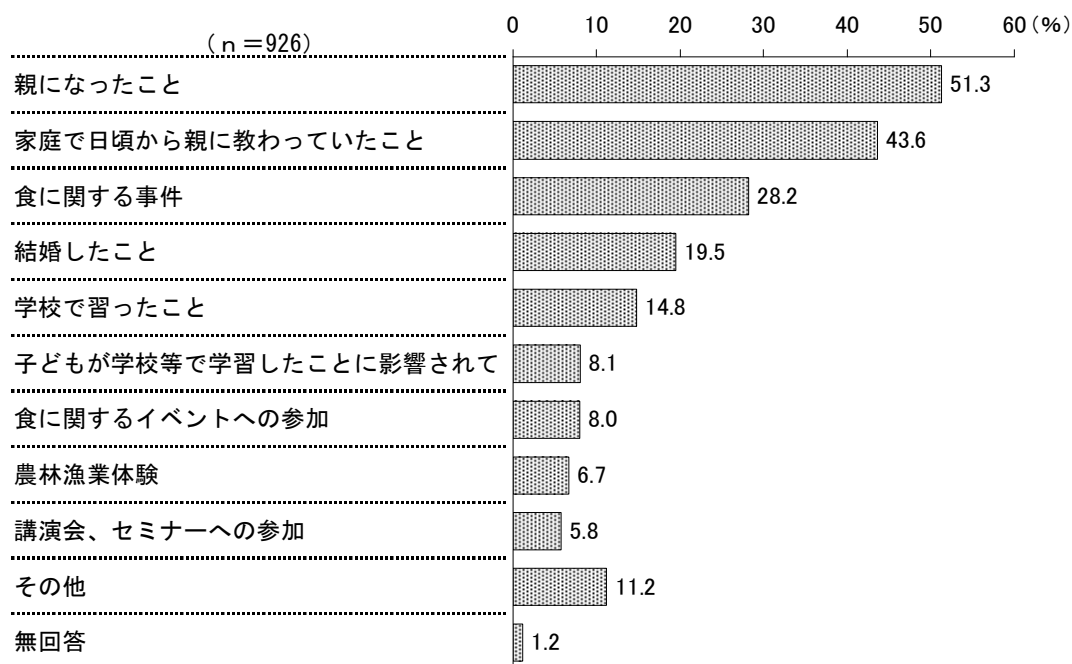
（１－１）食育に関心を持ったきっかけ

◇「親になったこと」が５割を超える

（問17で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」とお答えの方に）

問17－１ あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

＜図表６－３＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）



「食育」に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した926人を対象に、食育に関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」（51.3％）が５割を超えて最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」（43.6％）、「食に関する事件」（28.2％）、「結婚したこと」（19.5％）が続く。（図表６－３）

【地域別】

地域別にみると、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は“印旛地域”（53.8％）が５割台半ばで高くなっている。

「食に関する事件」は“君津地域”（42.0％）が４割を超えて高くなっている。

「学校で習ったこと」は“長生地域”（36.0％）が３割台半ばで高くなっている。（図表６－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「親になったこと」は女性の60～64歳（70.2％）が７割、女性の40代（66.4％）、女性の50代（63.5％）が６割台半ばで高くなっている。

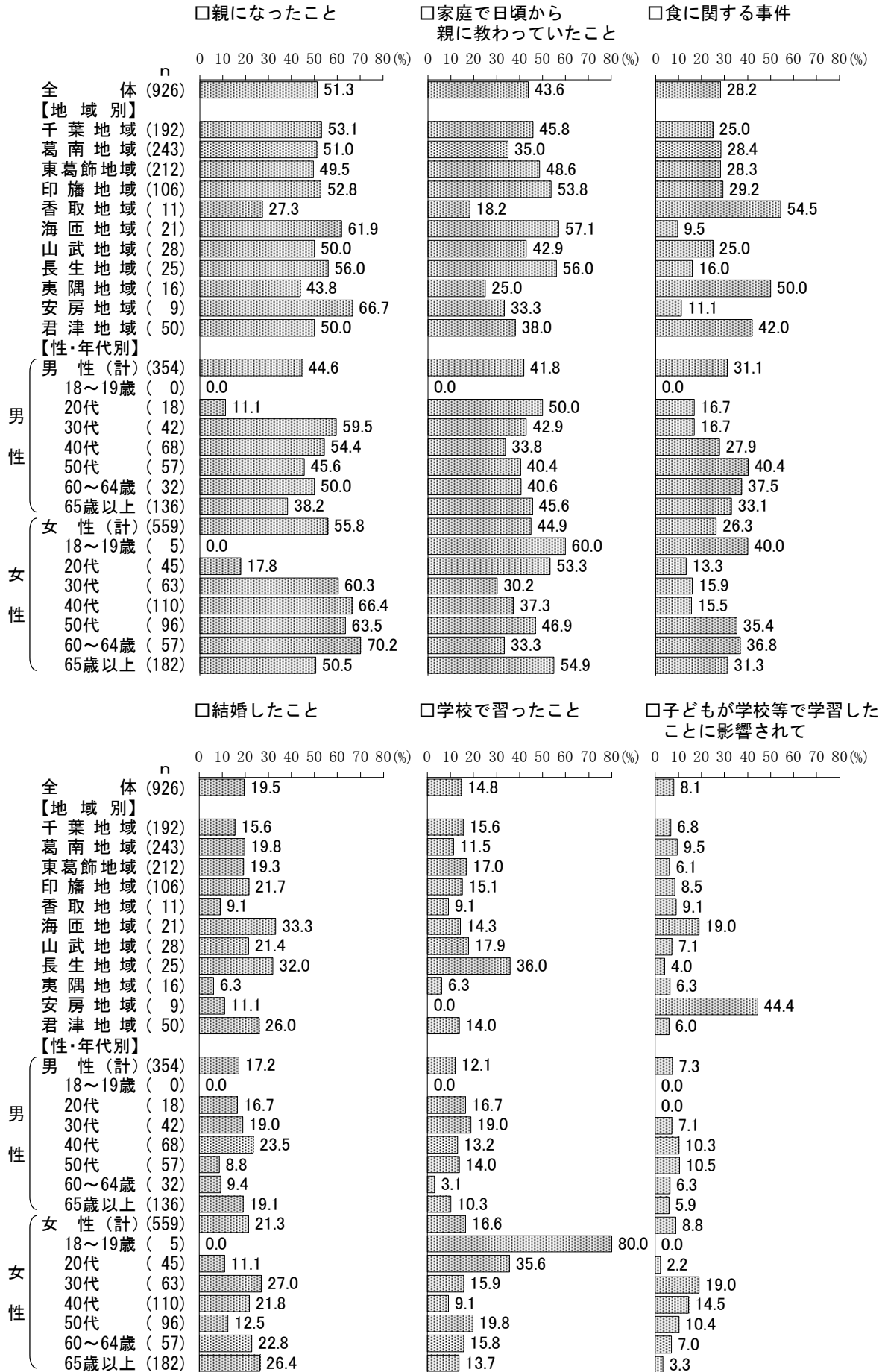
「家庭で日頃から親に教わっていたこと」は女性の65歳以上（54.9％）が５割台半ばで高くなっている。

「食に関する事件」は男性の50代（40.4％）が４割で高くなっている。

「結婚したこと」は女性の65歳以上（26.4％）が２割台半ばで高くなっている。

「学校で習ったこと」は女性の20代（35.6％）が３割台半ばで高くなっている。（図表６－４）

＜図表6－4＞食育に関心を持ったきっかけ（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

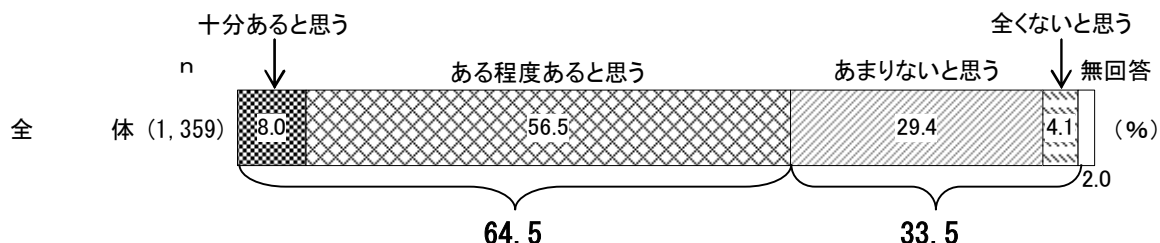


（２）健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無

◇『ある（計）』が6割台半ば

問18 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。（○は1つ）

＜図表6－5＞健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無



健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思うか聞いたところ、「十分あると思う」（8.0％）と「ある程度あると思う」（56.5％）を合わせた『ある（計）』（64.5％）が6割台半ばで高くなっている。

一方、「あまりないと思う」（29.4％）と「全くないと思う」（4.1％）を合わせた『ない（計）』（33.5％）は3割台半ばとなっている。（図表6－5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6－6）

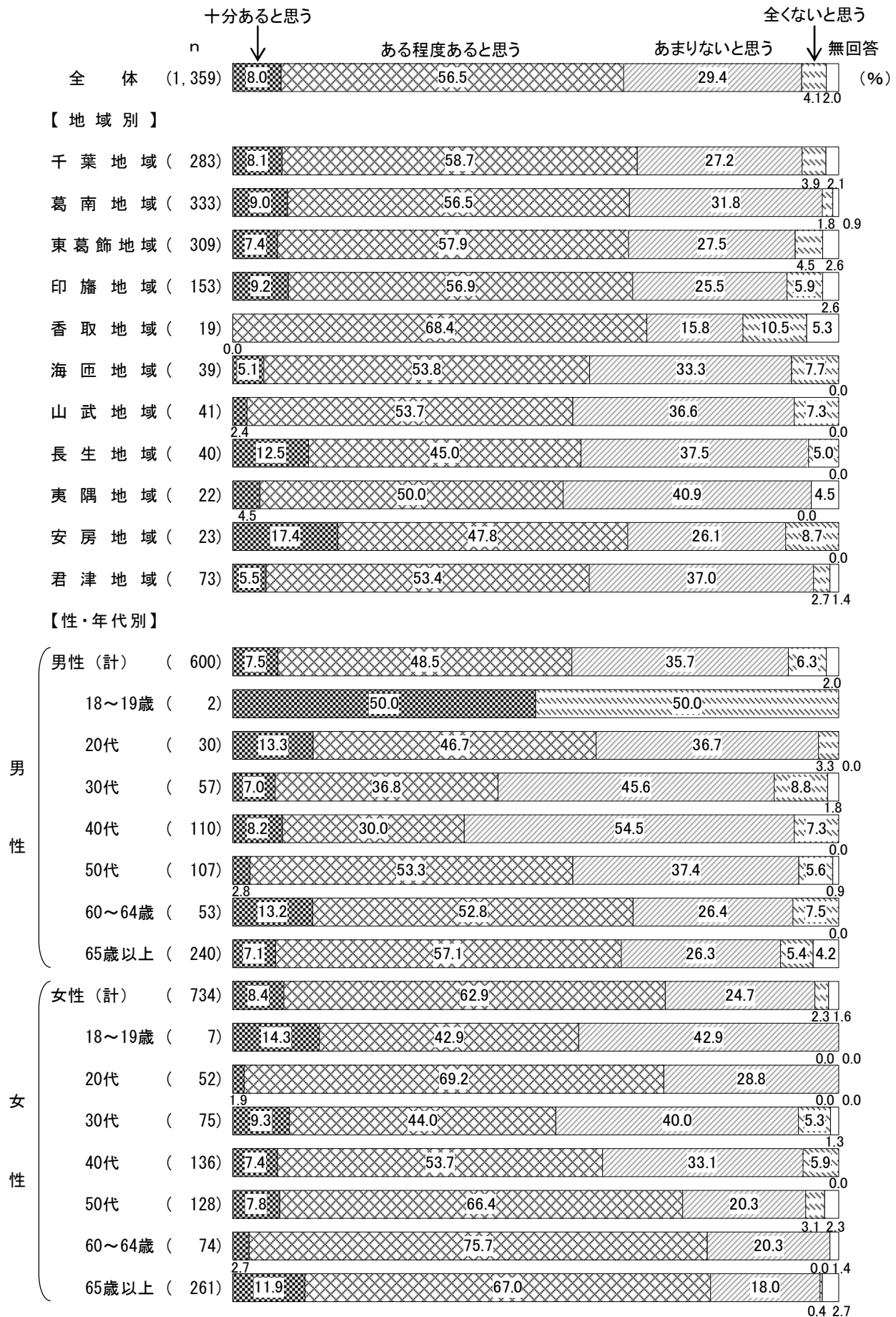
【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある程度あると思う」は女性の60～64歳（75.7％）が7割台半ば、女性の65歳以上（67.0％）が約7割、女性の50代（66.4％）が6割台半ばで高くなっている。

一方、「あまりないと思う」は男性の40代（54.5％）が5割台半ば、男性の30代（45.6％）が4割台半ば、女性の30代（40.0％）が4割で高くなっている。（図表6－6）

＜図表6－6＞健康に悪影響を与えないための食品選択や調理方法に関する知識の有無

／地域別、性・年代別



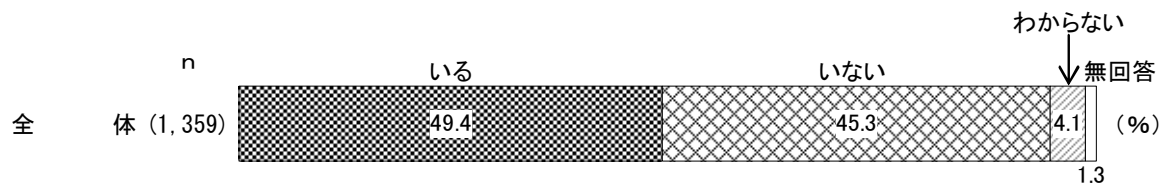
（３）農林漁業体験の参加状況

◇「いる」が約５割

問19 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（※）に参加したことがある方はいますか。（○は１つ）

（※）農林漁業に関する体験例：いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

＜図表６－７＞農林漁業体験の参加状況



自身又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある方がいるか聞いたところ、「いる」（49.4％）が約５割となっている。

一方、「いない」（45.3％）は４割台半ばとなっている。（図表６－７）

【地域別】

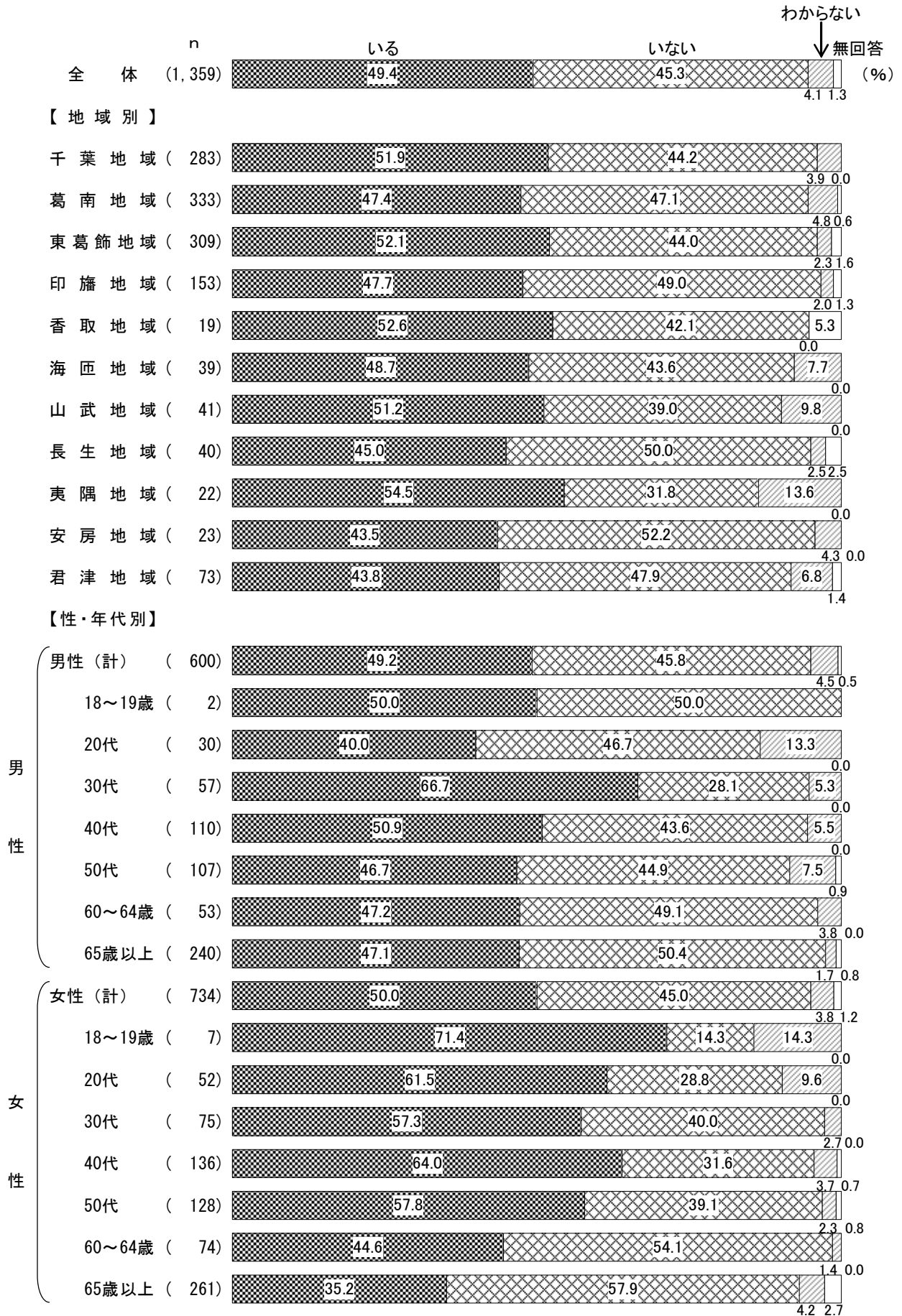
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表６－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いる」は男性の30代（66.7％）と女性の40代（64.0％）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「いない」は女性の65歳以上（57.9％）が約６割で高くなっている。（図表６－８）

＜図表6－8＞農林漁業体験の参加状況／地域別、性・年代別

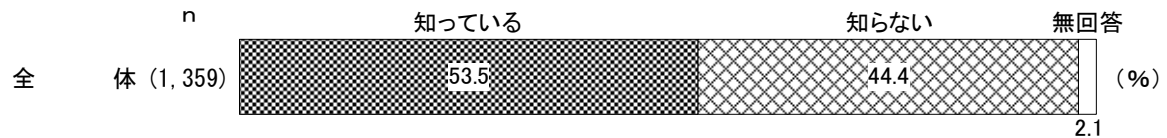


（４）食に関わる文化の認知状況

◇「知っている」が５割台半ば

問20 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。（○は１つ）

＜図表６－９＞食に関わる文化の認知状況



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（53.5％）が５割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（44.4％）は４割台半ばとなっている。（図表６－９）

【地域別】

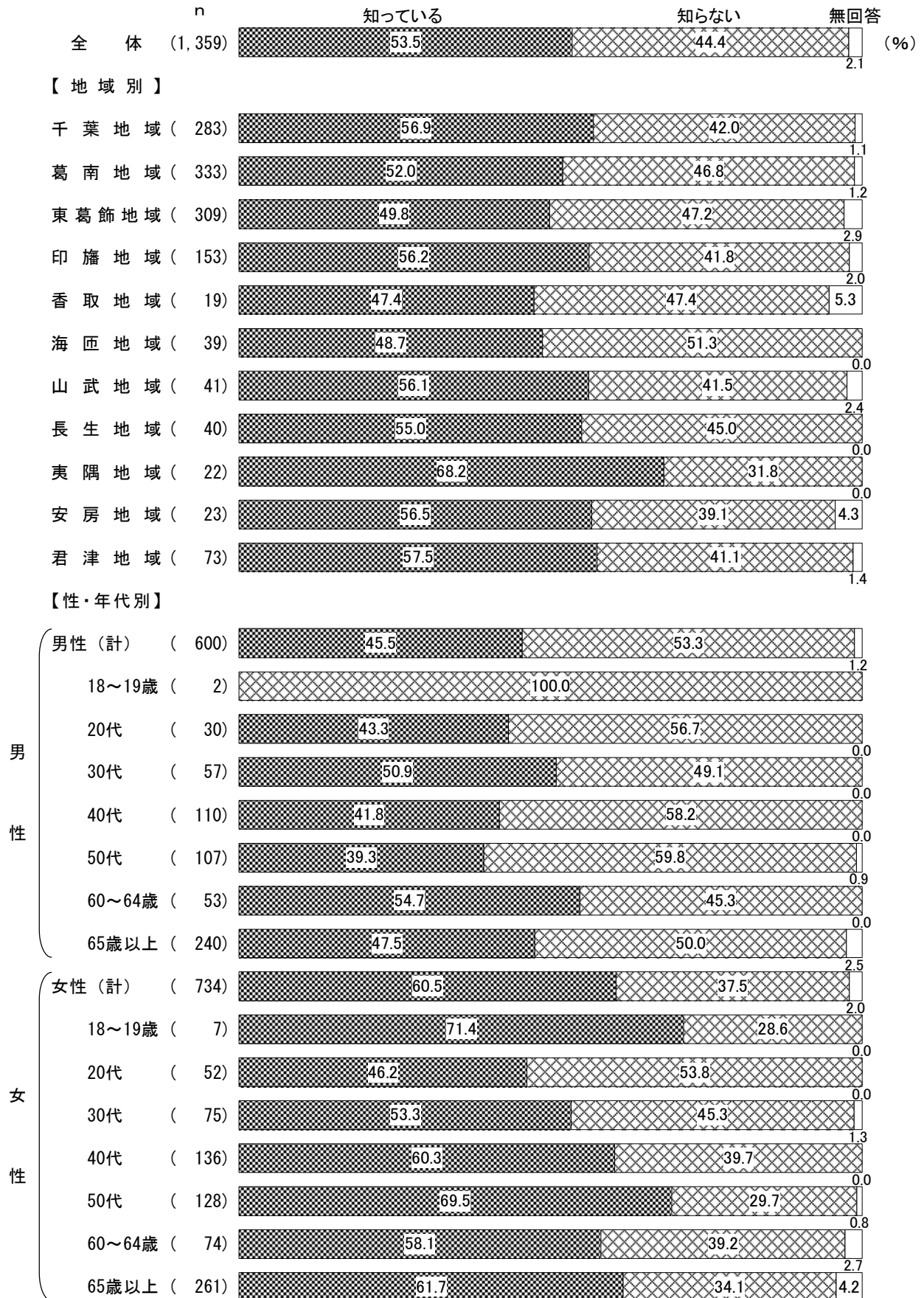
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表６－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は女性の50代（69.5％）が約７割、女性の65歳以上（61.7％）が６割を超えて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の40代（58.2％）、男性の50代（59.8％）が約６割で高くなっている。
（図表６－10）

<図表6-10>食に関わる文化の認知状況／地域別、性・年代別



（４－１）食に関わる文化の伝承について

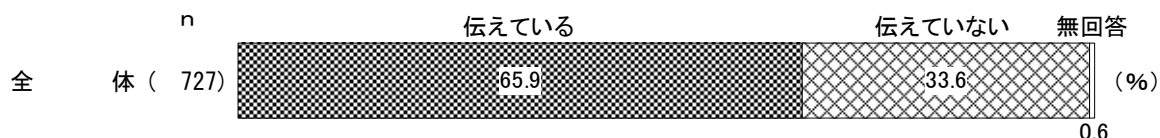
◇「伝えている」が６割台半ば

（問20で「知っている」とお答えの方に）

問20－１ あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。

（○は１つ）

＜図表６－11＞食に関わる文化の伝承について



地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を「知っている」と回答した727人を対象に、地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（65.9％）が６割台半ばで高くなっている。

一方、「伝えていない」（33.6％）は３割台半ばとなっている。（図表６－11）

【地域別】

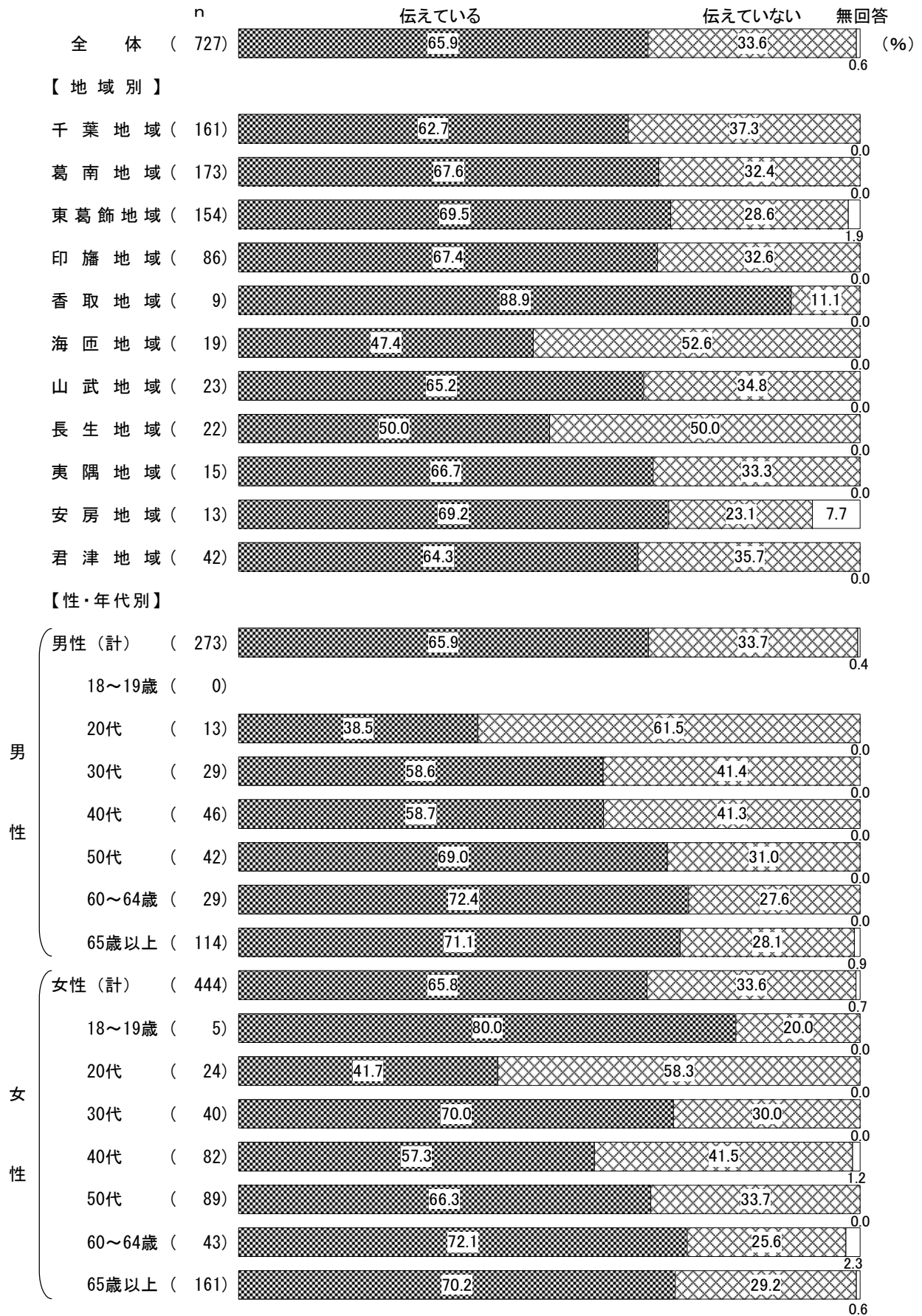
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表６－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「伝えていない」は女性の20代（58.3％）が約６割で高くなっている。

（図表６－12）

<図表6-12>食に関わる文化の伝承について／地域別、性・年代別



このほかに、「食育について」やここまでの質問（問17～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、133人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「食育について」の自由回答（抜粋）

○そういえば千葉の伝統的な料理・郷土料理を知る機会がなかったから今からでも知りたい。
（女性、20代、君津地域）

○家庭や学校でも小さい頃から食育についての話し合いをしてほしいと思う。
（女性、65歳以上、君津地域）

○郷土食など、もっと市や町で広める働きかけをしてはどうだろうか。
（男性、30代、東葛飾地域）

○小さい頃から農業体験や、自然に触れる機会を多くもつことで食への興味、関心を深めることは大切。
（女性、20代、葛南地域）

○生きるだけならば、安価な炭水化物のみでも生活できるが、長い目で見れば健康の前借りであり、後の自分にかえってくる。特に子育て世代が、子ども健康や将来のことを思い、気を配り、食育をすすめられるよう、補助、助成、などで手厚くサポートできる体制を作してほしい。
（女性、65歳以上、葛南地域）

○地域の料理教室など時々やればよいと思う。親子、近隣の人との会話もできる、料理も覚える。
（女性、65歳以上、山武地域）

○家庭内での団らんを多くとれる様に行政も親子や友人で気楽に参加できるイベントなどを企画できると良いし、サークル育成で行う時に補助金で細かな縛りなどを少なくして活動が多く行える様になると良い。
（男性、65歳以上、千葉地域）

○食育に取り組みたくても、共働きだとじっくり料理をすることが難しい。働き方を変えればおのずとそういう時間も取れるのではと思う。
（女性、40代、葛南地域）

○小学校、中学校などの給食を利用して千葉県の郷土料理を出して千葉県のよさをもっと子供達に教えてほしいです。
（女性、30代、印旛地域）

○文化や価値観が多様化し、そうした様々な背景の人達が周りに増え、ビーガンやハラールなど、健康や作法を超えたセンシティブな問題にもこれからの食育は対応していかなければならないと思います。
（女性、30代、葛南地域）

7 心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について

（1）胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか

◇「できる」が2割台半ば

県では、誰もが自発的かつ積極的にAED（自動体外式除細動器）（※）を用いた心肺蘇生法を実施できる環境づくりを基本理念とし、AED等の普及啓発に取り組んでいます。

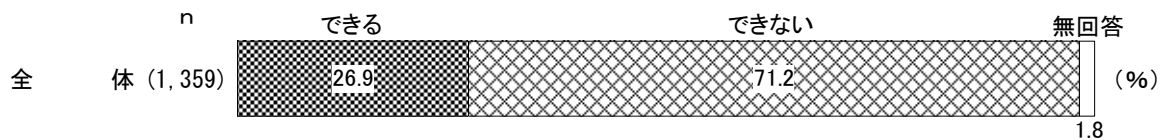
今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

（※）傷病者の胸に貼ったパッドから自動的に心臓の状態を判断し、心室細動等の不整脈があったと判断された場合は、電気ショックを心臓に与える機能を持っている。

問21 あなたは、見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を出来ると思いますか。（○は1つ）

（※）一般的な心肺蘇生法では、倒れている人の意識や呼吸がない場合、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸（人工呼吸はできる場合のみ）を実施することとなっています。

＜図表7－1＞胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか



見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を出来ると思うか聞いたところ、「できる」（26.9%）が2割台半ばとなっている。一方、「できない」（71.2%）は7割を超えて高くなっている。（図表7－1）

【地域別】

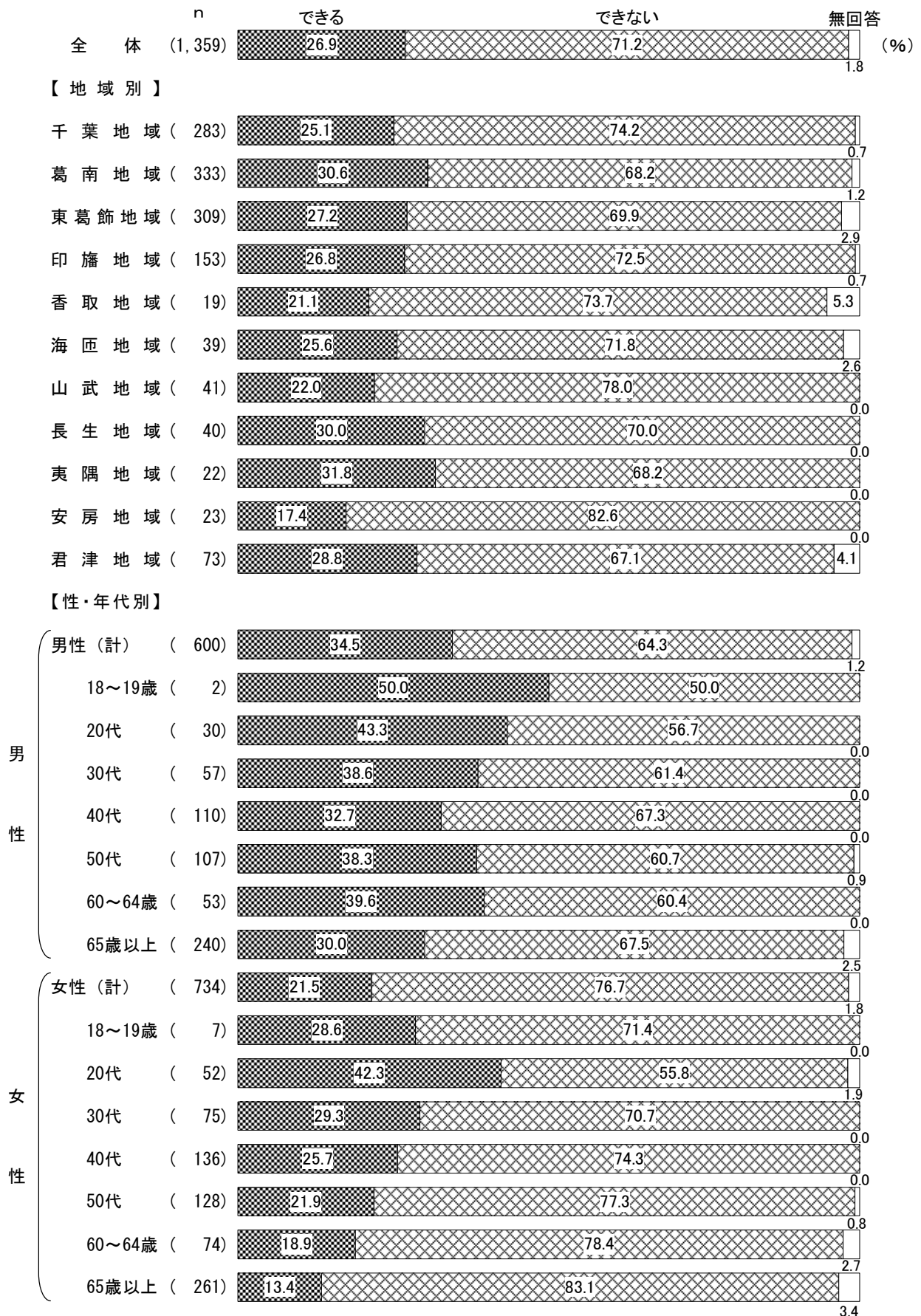
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表7－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は男性の20代（43.3%）と女性の20代（42.3%）が4割を超え、男性の30代（38.6%）、男性の50代（38.3%）、男性の60～64歳（39.6%）が約4割で高くなっている。

一方、「できない」は女性の65歳以上（83.1%）が8割を超えて高くなっている。（図表7－2）

＜図表7－2＞胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



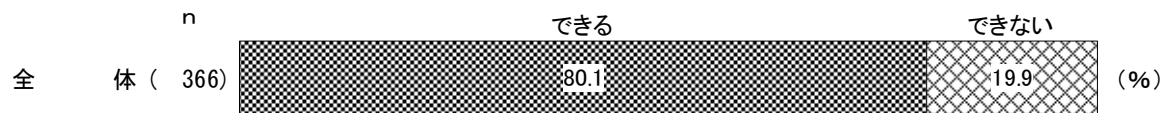
（１－１）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか

◇「できる」が8割

（問21で「できる」とお答えの方に）

問21－１ あなたは、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできると思いますか。（○は1つ）

＜図表 7－3＞異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか



見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を「できる」と回答した366人を対象に、異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできると思うか聞いたところ、「できる」（80.1％）が8割で高くなっている。

一方、「できない」（19.9％）は約2割となっている。（図表 7－3）

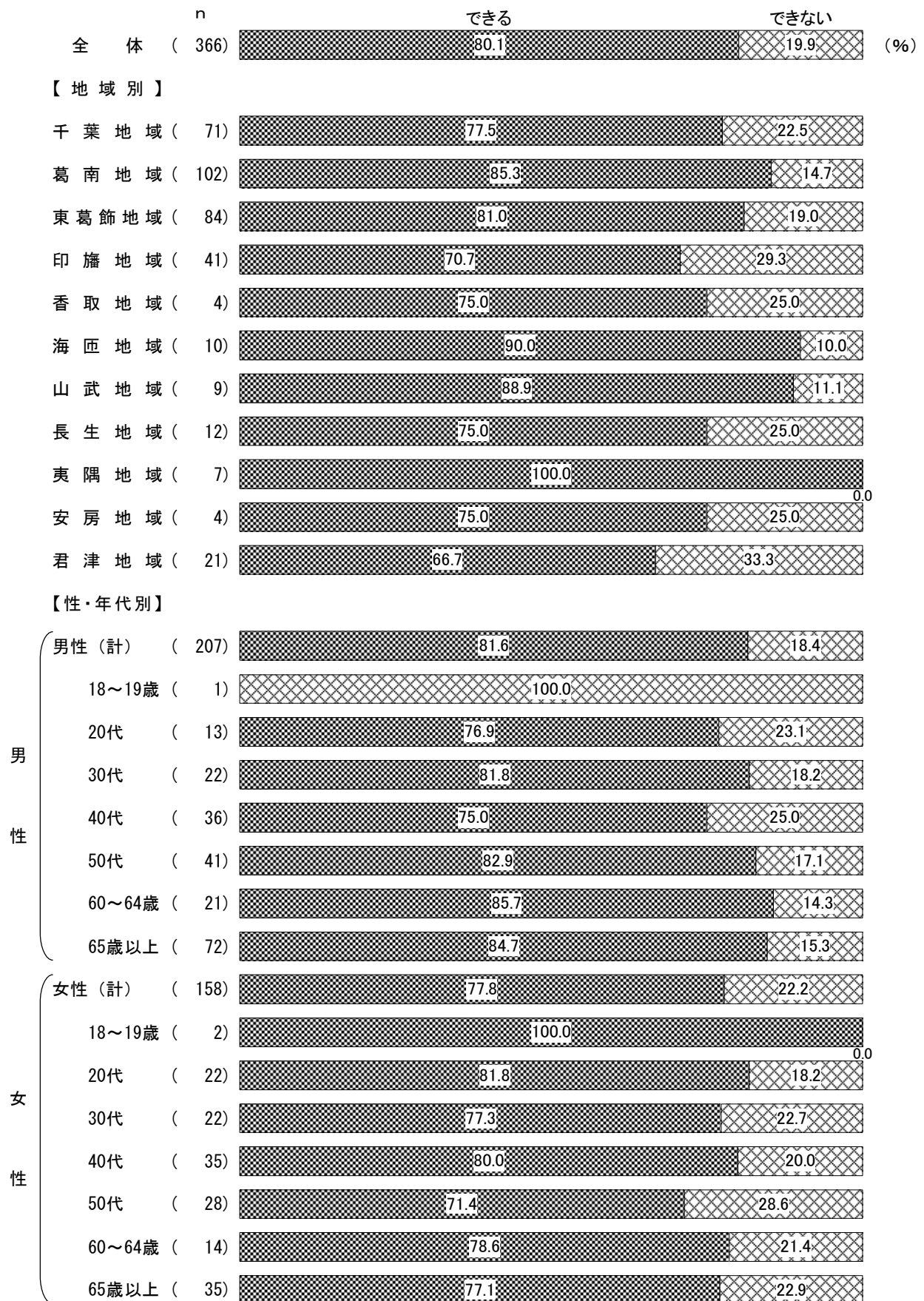
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－4）

<図表7-4>異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



（１－２）胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

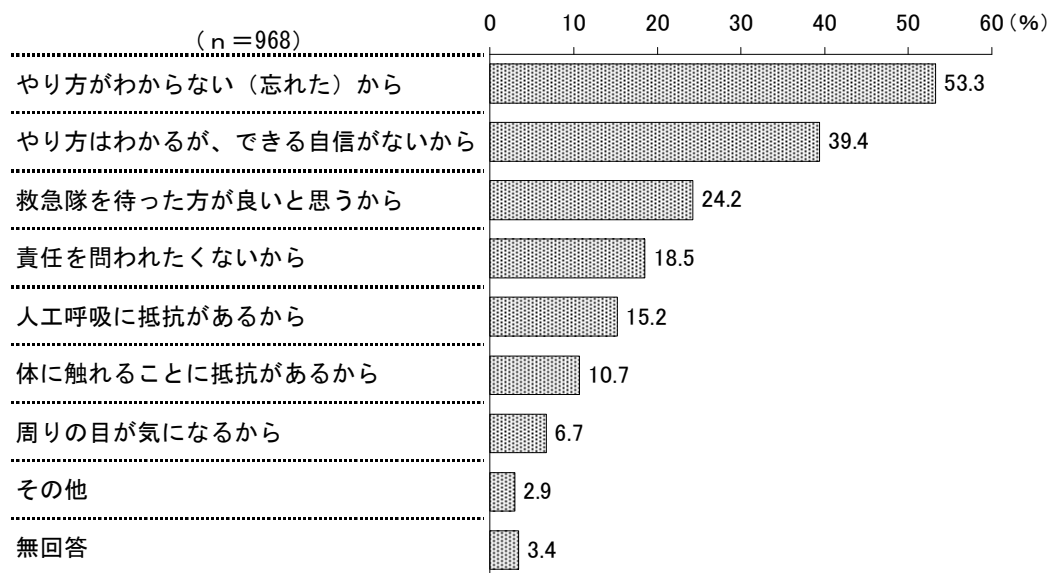
◇「やり方がわからない（忘れた）から」が５割を超える

（問21で「できない」とお答えの方に）

問21－２ 胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。

（○はいくつでも）

＜図表 7－5＞胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）



見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸が「できない」と回答した968人を対象に、その理由を聞いたところ、「やり方がわからない（忘れた）から」（53.3%）が５割を超えて最も高く、以下、「やり方はわかるが、できる自信がないから」（39.4%）、「救急隊を待った方が良いと思うから」（24.2%）、「責任を問われたくないから」（18.5%）が続く。（図表 7－5）

【地域別】

地域別にみると、「人工呼吸に抵抗があるから」は“山武地域”（28.1%）が約３割で高くなっている。（図表 7－6）

【性・年代別】

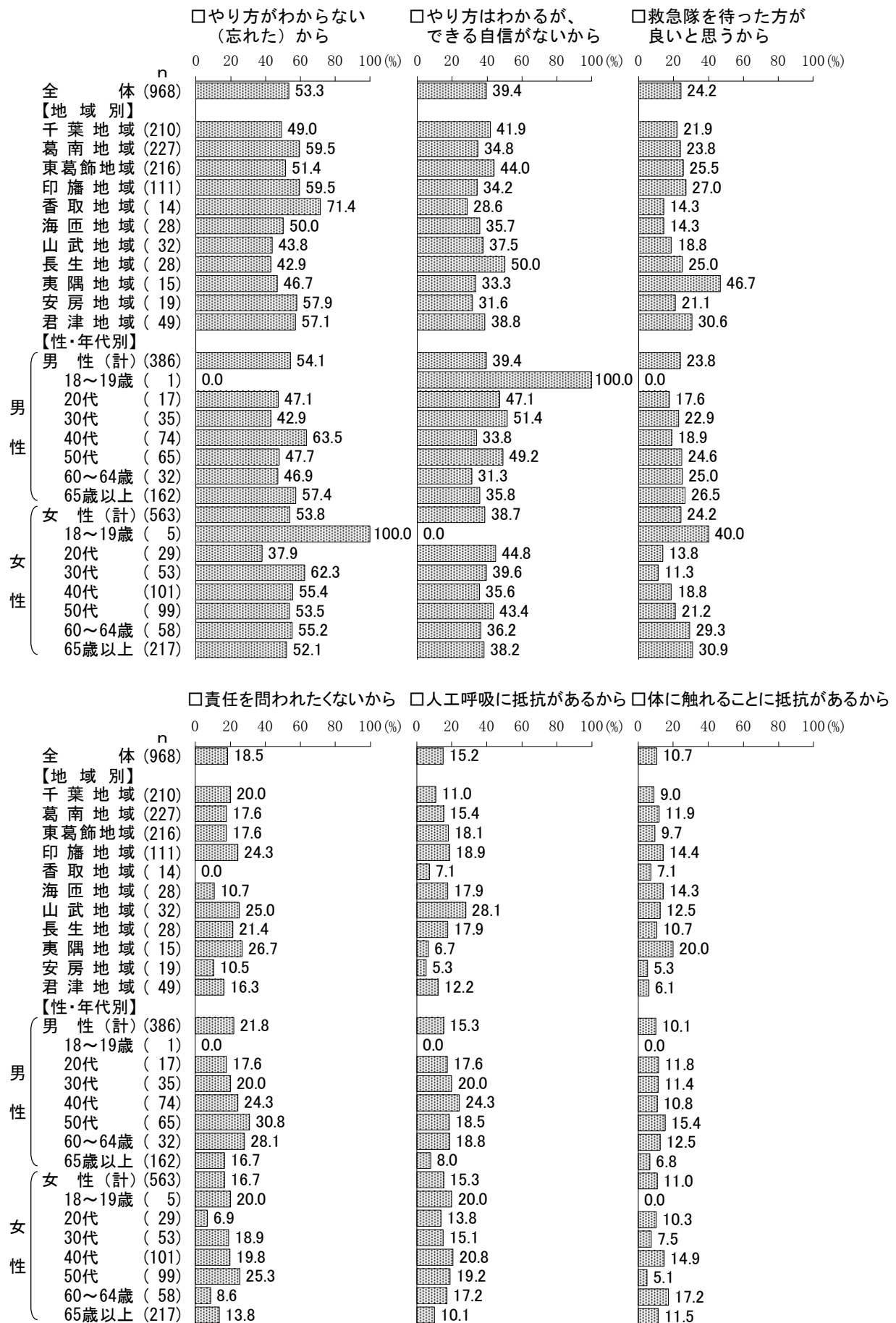
性・年代別にみると、「救急隊を待った方が良いと思うから」は女性の65歳以上（30.9%）が３割で高くなっている。

「責任を問われたくないから」は男性の50代（30.8%）が３割で高くなっている。

「人工呼吸に抵抗があるから」は男性の40代（24.3%）が２割台半ばで高くなっている。

（図表 7－6）

＜図表7－6＞胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



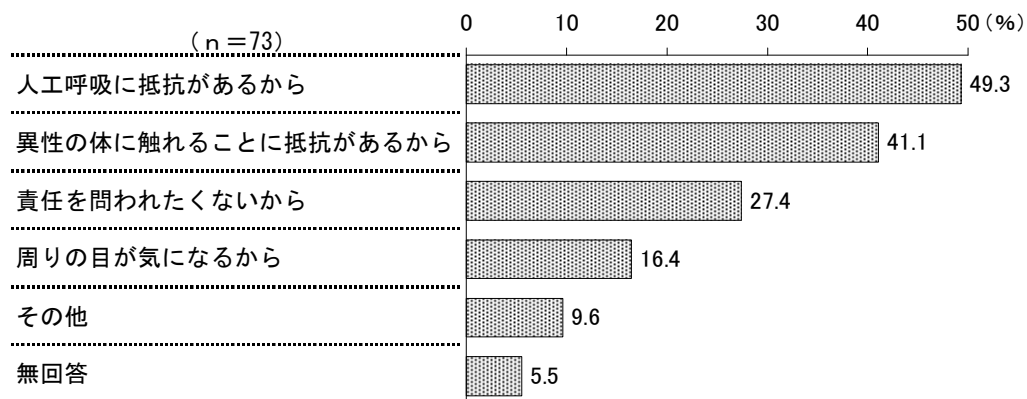
（１－３）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

◇「人工呼吸に抵抗があるから」が約５割

（問21－１で「できない」とお答えの方に）

問21－３ 異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 7－7＞異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）



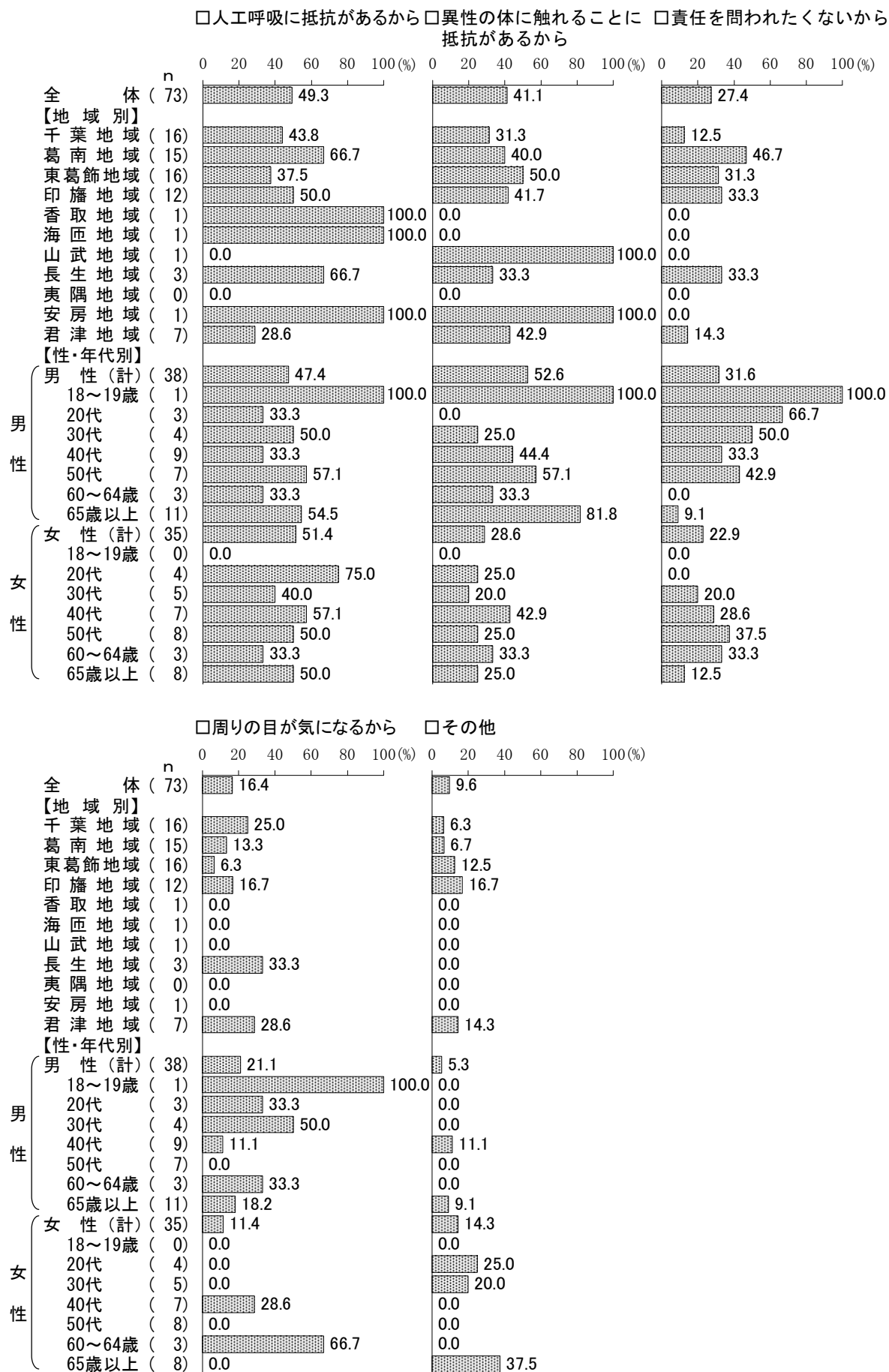
異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸が「できない」と回答した73人を対象に、その理由を聞いたところ、「人工呼吸に抵抗があるから」（49.3%）が約５割で最も高く、以下、「異性の体に触れることに抵抗があるから」（41.1%）、「責任を問われたくないから」（27.4%）、「周りの目が気になるから」（16.4%）が続く。（図表 7－7）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）

（図表 7－8）

＜図表7－8＞異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別



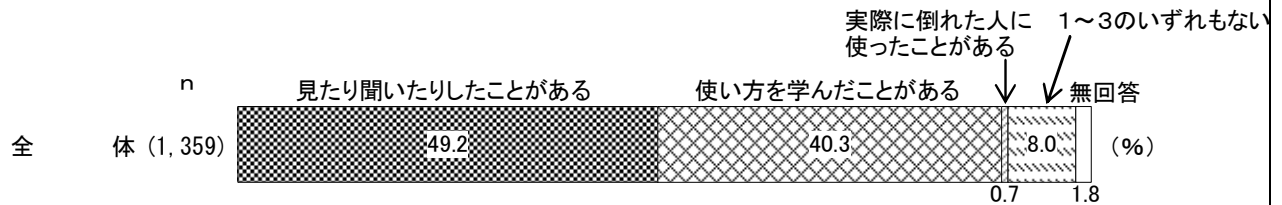
（２）ＡＥＤの認知度・利用経験

◇「見たり聞いたりしたことがある」が約５割

問22 ＡＥＤ（自動体外式除細動器）という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。

（○は１つ）

＜図表 7－9＞ＡＥＤの認知度・利用経験



（※）「１～３のいずれもない」における、１～３とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指す。

ＡＥＤ（自動体外式除細動器）という機器について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（４９．２％）が約５割、「使い方を学んだことがある」（４０．３％）が４割となっている。

一方、「１～３のいずれもない」（８．０％）は１割未満となっている。（図表 7－9）

【地域別】

地域別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は“印旛地域”（５８．２％）が約６割で高くなっている。

一方、「１～３のいずれもない」は“安房地域”（２１．７％）が２割を超えて高くなっている。

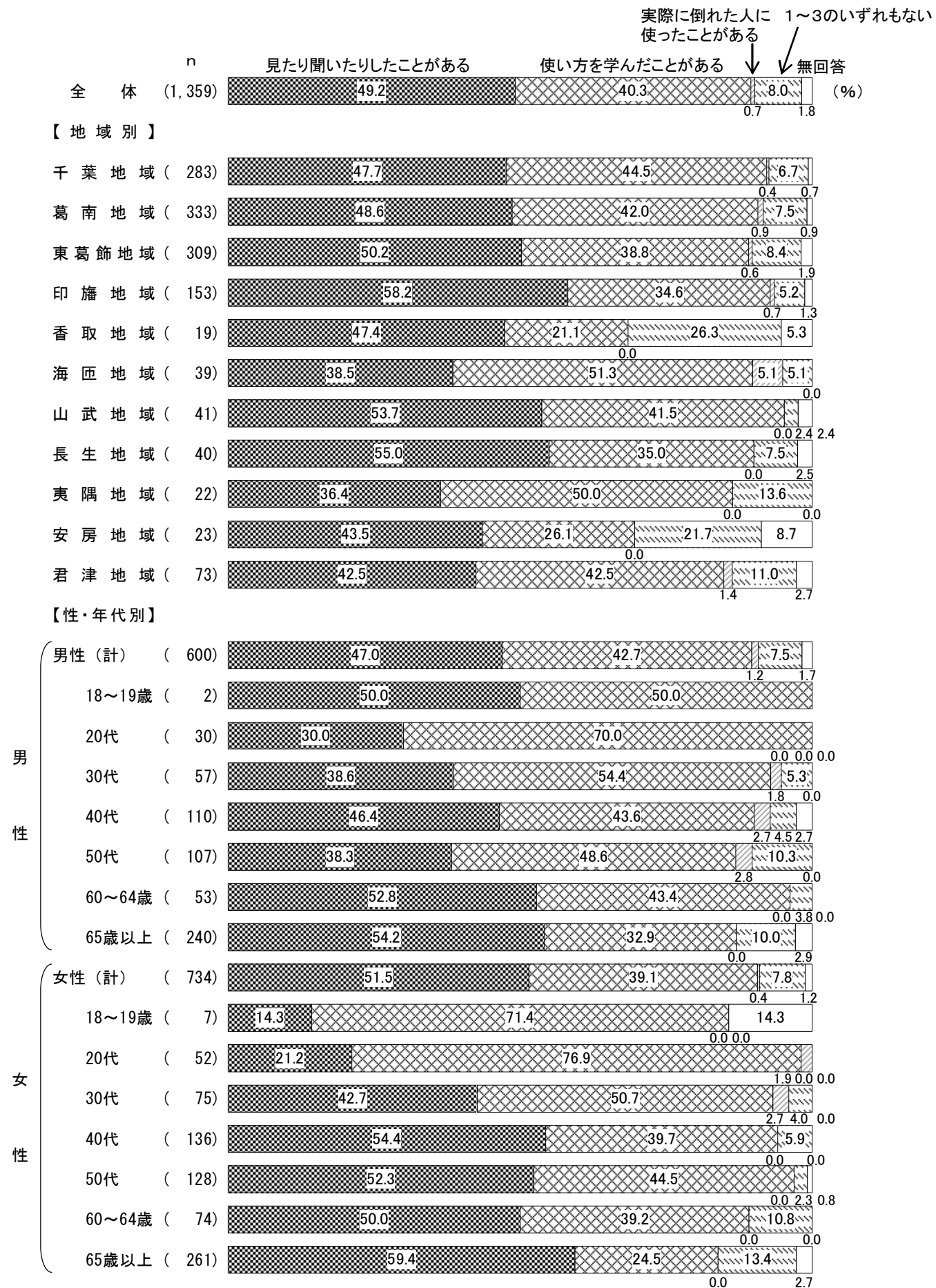
（図表 7－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は女性の６５歳以上（５９．４％）が約６割で高くなっている。

「使い方を学んだことがある」は女性の２０代（７６．９％）が７割台半ば、男性の２０代（７０．０％）が７割、男性の３０代（５４．４％）が５割台半ばで高くなっている。（図表 7－10）

<図表7-10> AEDの認知度・利用経験／地域別、性・年代別

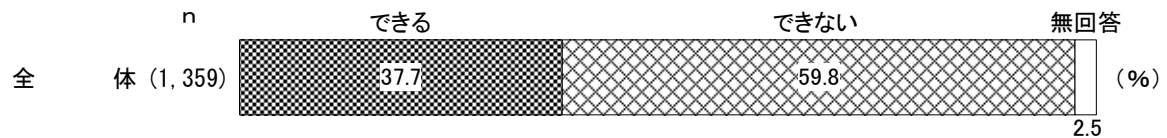


（３）ＡＥＤを使用できるか

◇「できる」が約４割

問23 もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にＡＥＤがあれば、あなたはその人にＡＥＤを使用することができますか。（○は１つ）

＜図表 7－11＞ＡＥＤを使用できるか



見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にＡＥＤがあれば、その人にＡＥＤを使用することができると思うか聞いたところ、「できる」（37.7％）が約４割となっている。

一方、「できない」（59.8％）は約６割で高くなっている。（図表 7－11）

【地域別】

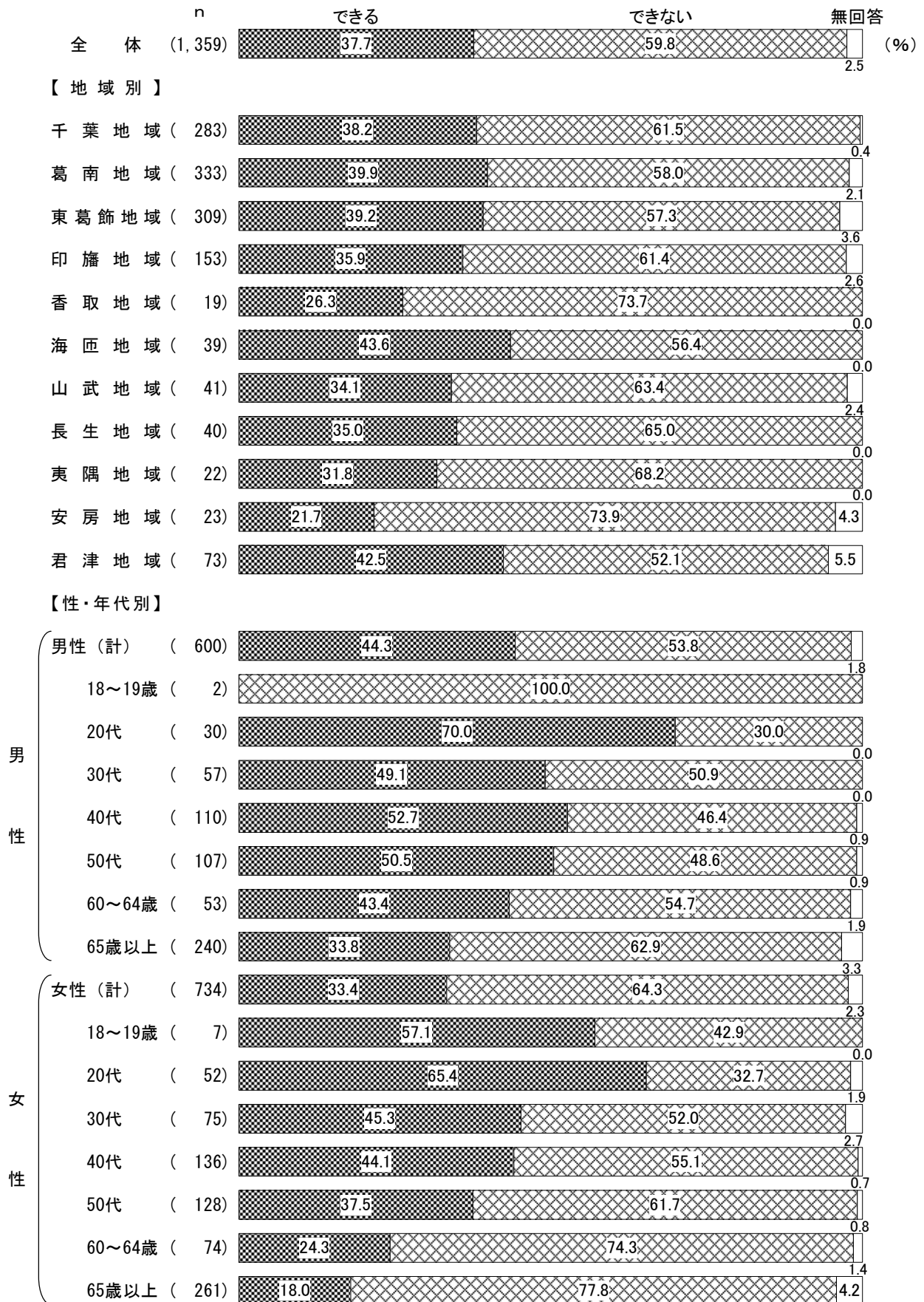
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は男性の20代（70.0％）が７割、女性の20代（65.4％）が６割台半ば、男性の40代（52.7％）が５割を超え、男性の50代（50.5％）が５割で高くなっている。

一方、「できない」は女性の65歳以上（77.8％）が約８割、女性の60～64歳（74.3％）が７割台半ばで高くなっている。（図表 7－12）

＜図表7-12＞AEDを使用できるか／地域別、性・年代別



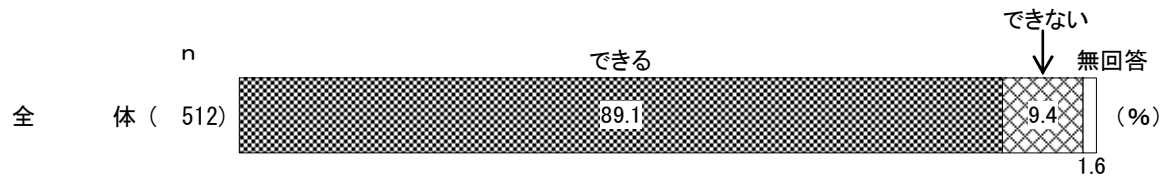
（３－１）異性に対してAEDを使用できるか

◇「できる」が約９割

（問23で「できる」とお答えの方に）

問23－１ あなたは、異性に対してAEDを使用することができますか。（○は１つ）

＜図表 7－13＞異性に対してAEDを使用できるか



見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、その人にAEDを使用することが「できる」と回答した512人を対象に、異性に対してAEDを使用することができると思うか聞いたところ、「できる」（89.1%）が約9割で高くなっている。

一方、「できない」（9.4%）は1割未満となっている。（図表 7－13）

【地域別】

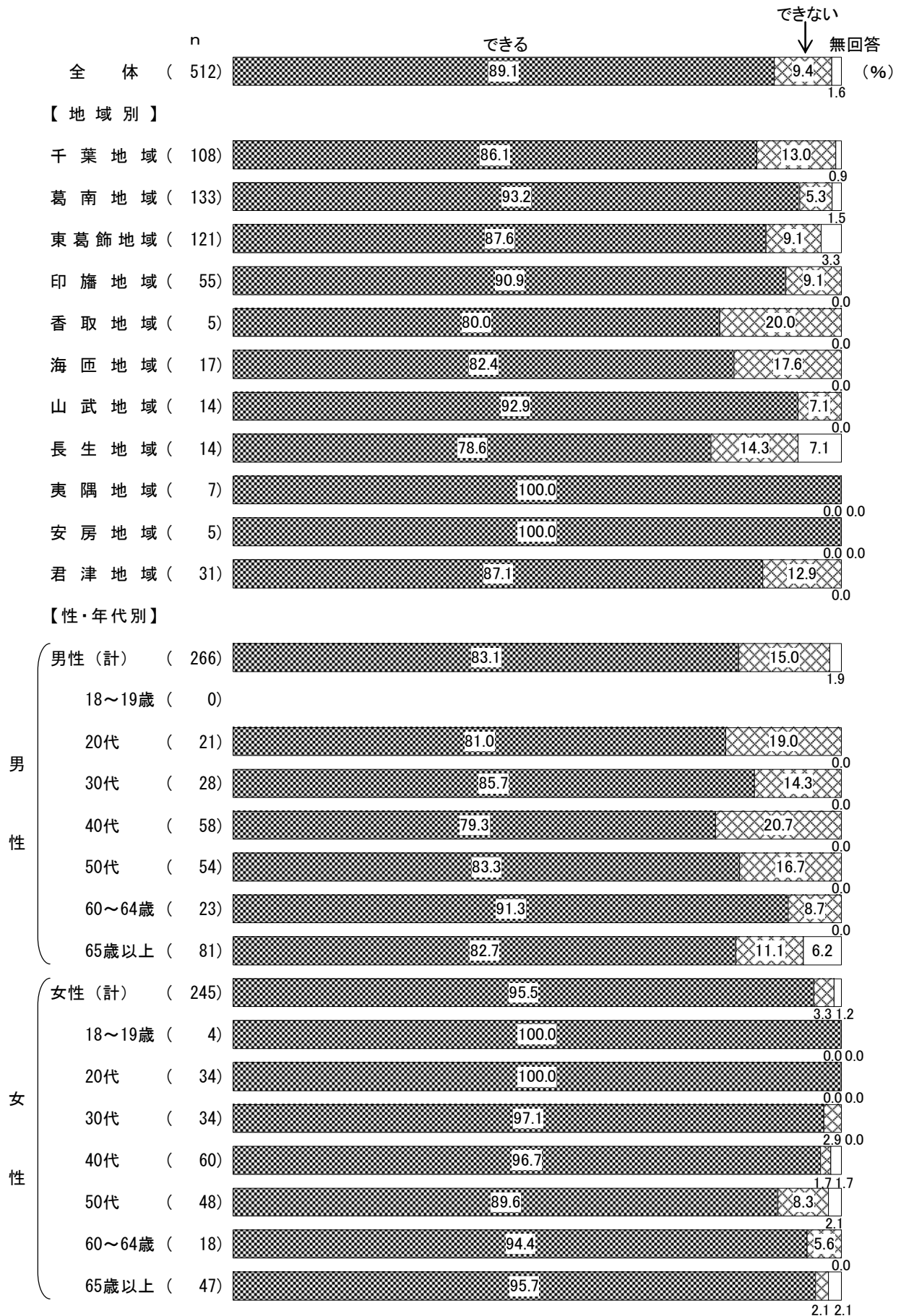
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の20代（100.0%）が10割で高くなっている。

一方、「できない」は男性の40代（20.7%）が2割で高くなっている。（図表 7－14）

＜図表7-14＞異性に対してAEDを使用できるか／地域別、性・年代別



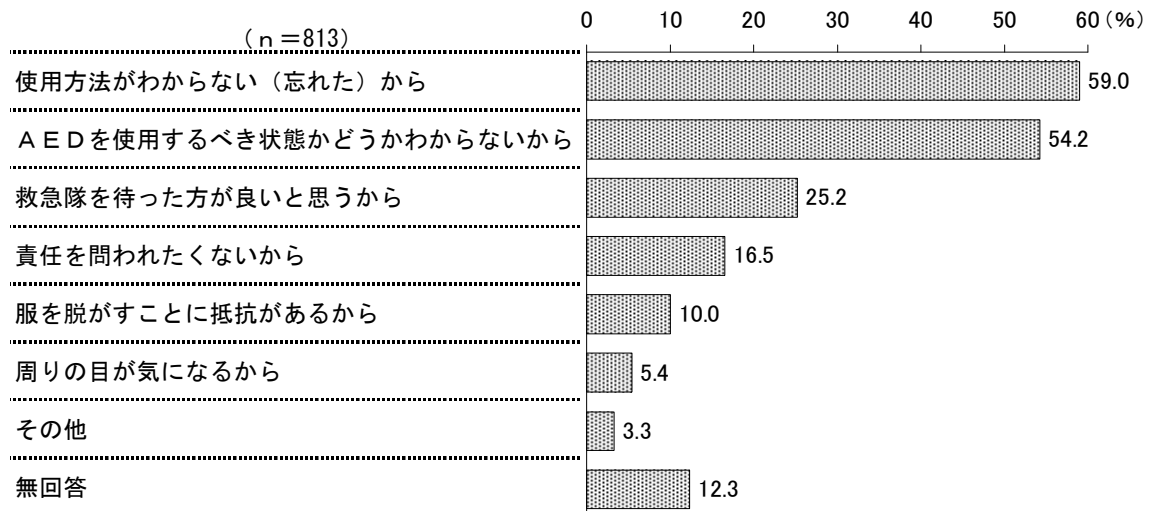
（３－２）ＡＥＤを使用できないと思う理由

◇「使用方法がわからない（忘れた）から」が約６割

（問23で「できない」とお答えの方に）

問23－２ ＡＥＤを使用できないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 7－15＞ＡＥＤを使用できないと思う理由（複数回答）



見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その人にＡＥＤを使用することが「できない」と回答した813人を対象に、その理由を聞いたところ、「使用方法がわからない（忘れた）から」（59.0％）が約６割で最も高く、以下、「ＡＥＤを使用すべき状態かどうかわからないから」（54.2％）、「救急隊を待った方が良くと思うから」（25.2％）、「責任を問われたくないから」（16.5％）が続く。

（図表 7－15）

【地域別】

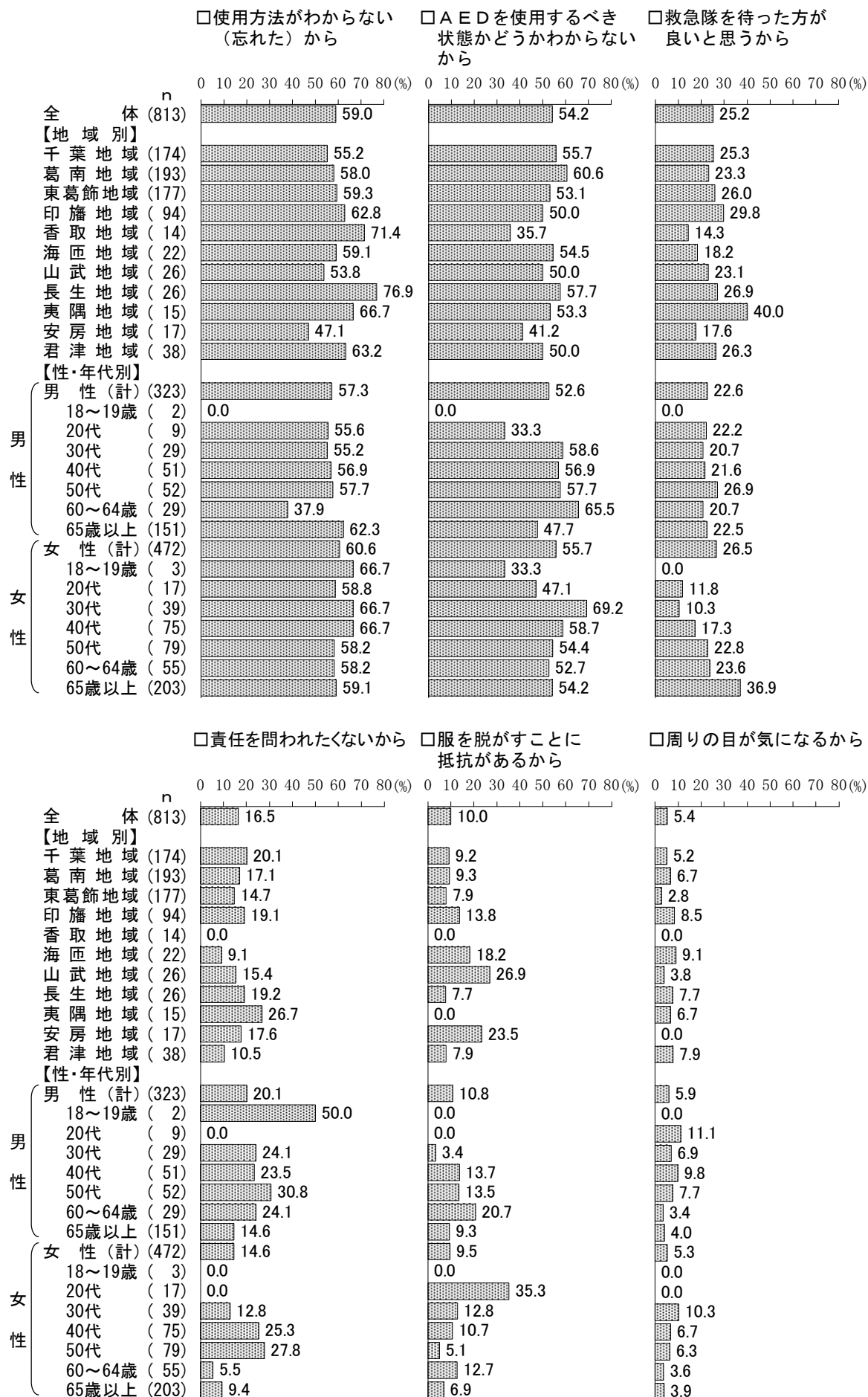
地域別にみると、「服を脱がすことに抵抗があるから」は“山武地域”（26.9％）が２割台半ばで高くなっている。（図表 7－16）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「救急隊を待った方が良くと思うから」は女性の65歳以上（36.9％）が３割台半ばで高くなっている。

「責任を問われたくないから」は男性の50代（30.8％）が３割、女性の50代（27.8％）が約３割、女性の40代（25.3％）が２割台半ばで高くなっている。（図表 7－16）

＜図表7-16＞AEDを使用できないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



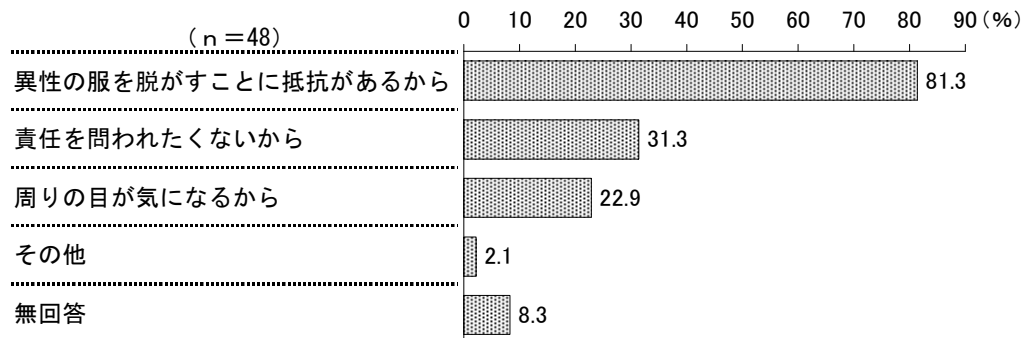
（３－３）異性に対してAEDを使用できないと思う理由

◇「異性の服を脱がすことに抵抗があるから」が8割を超える

（問23－１で「できない」とお答えの方に）

問23－３ 異性に対してAEDを使用できないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 7－17＞異性に対してAEDを使用できないと思う理由（複数回答）



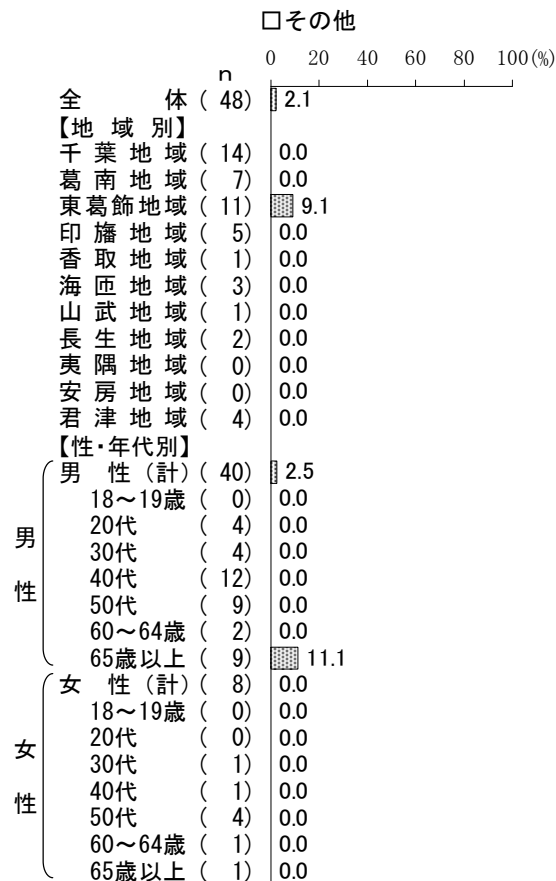
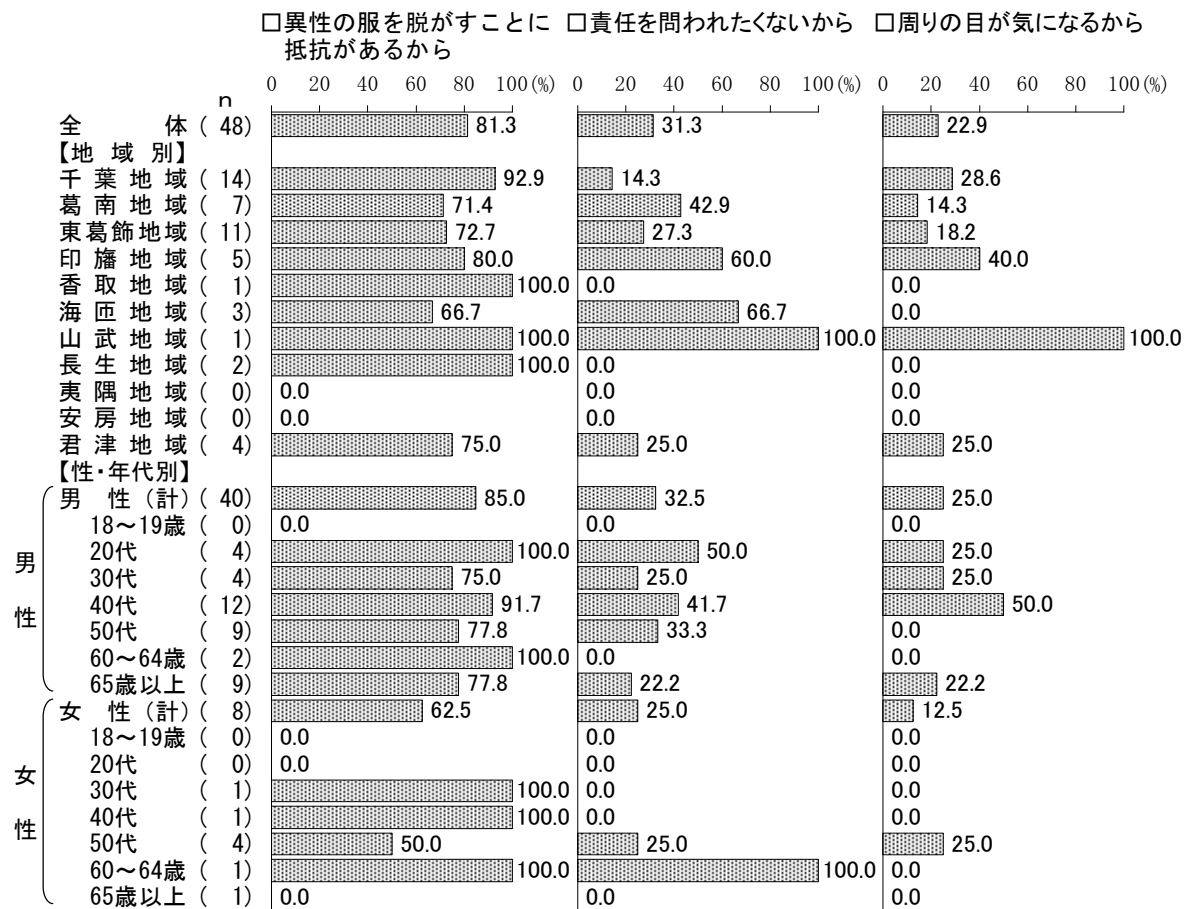
異性に対してAEDを使用することが「できない」と回答した48人を対象に、その理由を聞いたところ、「異性の服を脱がすことに抵抗があるから」（81.3%）が8割を超えて最も高く、以下、「責任を問われたくないから」（31.3%）、「周りの目が気になるから」（22.9%）が続く。（図表 7－17）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）

（図表 7－18）

＜図表7-18＞異性に対してAEDを使用できないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別

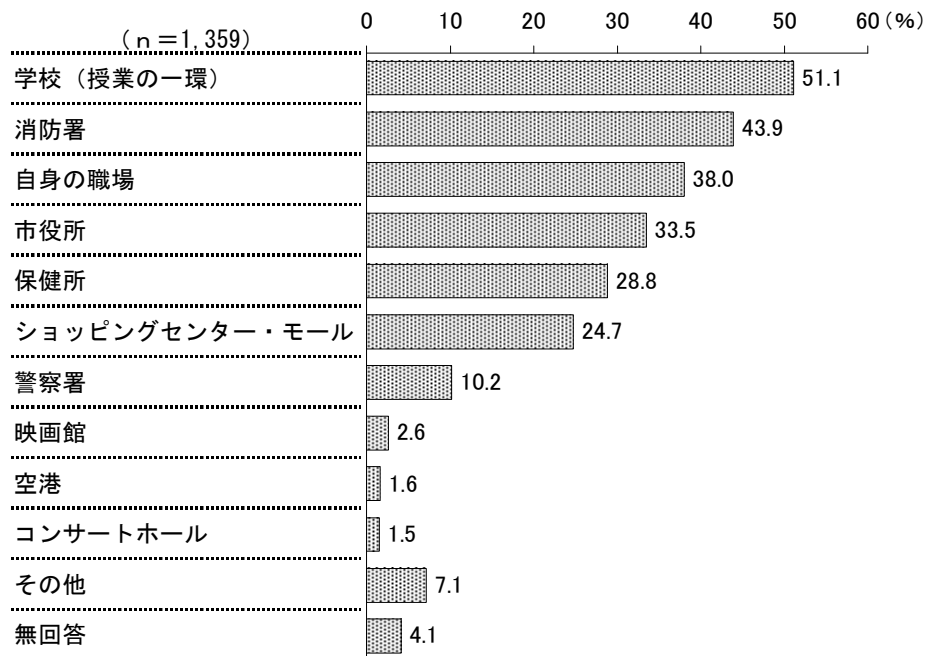


（４）応急手当の講習を希望する場所

◇「学校（授業の一環）」が５割を超える

問24 応急手当の講習をどこで受講できると良いですか。（○はいくつでも）

＜図表 7－19＞応急手当の講習を希望する場所（複数回答）



応急手当の講習をどこで受講できると良いか聞いたところ、「学校（授業の一環）」（51.1%）が５割を超えて最も高く、以下、「消防署」（43.9%）、「自身の職場」（38.0%）、「市役所」（33.5%）、「保健所」（28.8%）が続く。（図表 7－19）

【地域別】

地域別にみると、「学校（授業の一環）」は“葛南地域”（59.2%）が約６割で高くなっている。

（図表 7－20）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「学校（授業の一環）」は女性の20代（78.8%）が約８割、女性の40代（71.3%）が７割を超え、女性の30代（62.7%）、女性の50代（62.5%）が６割を超え、男性の40代（60.9%）が６割で高くなっている。

「消防署」は男性の65歳以上（54.6%）が５割台半ばで高くなっている。

「自身の職場」は女性の20代（63.5%）が６割台半ば、男性の60～64歳（60.4%）が６割、男性の30代（59.6%）、男性の50代（58.9%）が約６割、男性の40代（51.8%）と女性の50代（53.1%）が５割を超え、女性の40代（49.3%）が約５割で高くなっている。

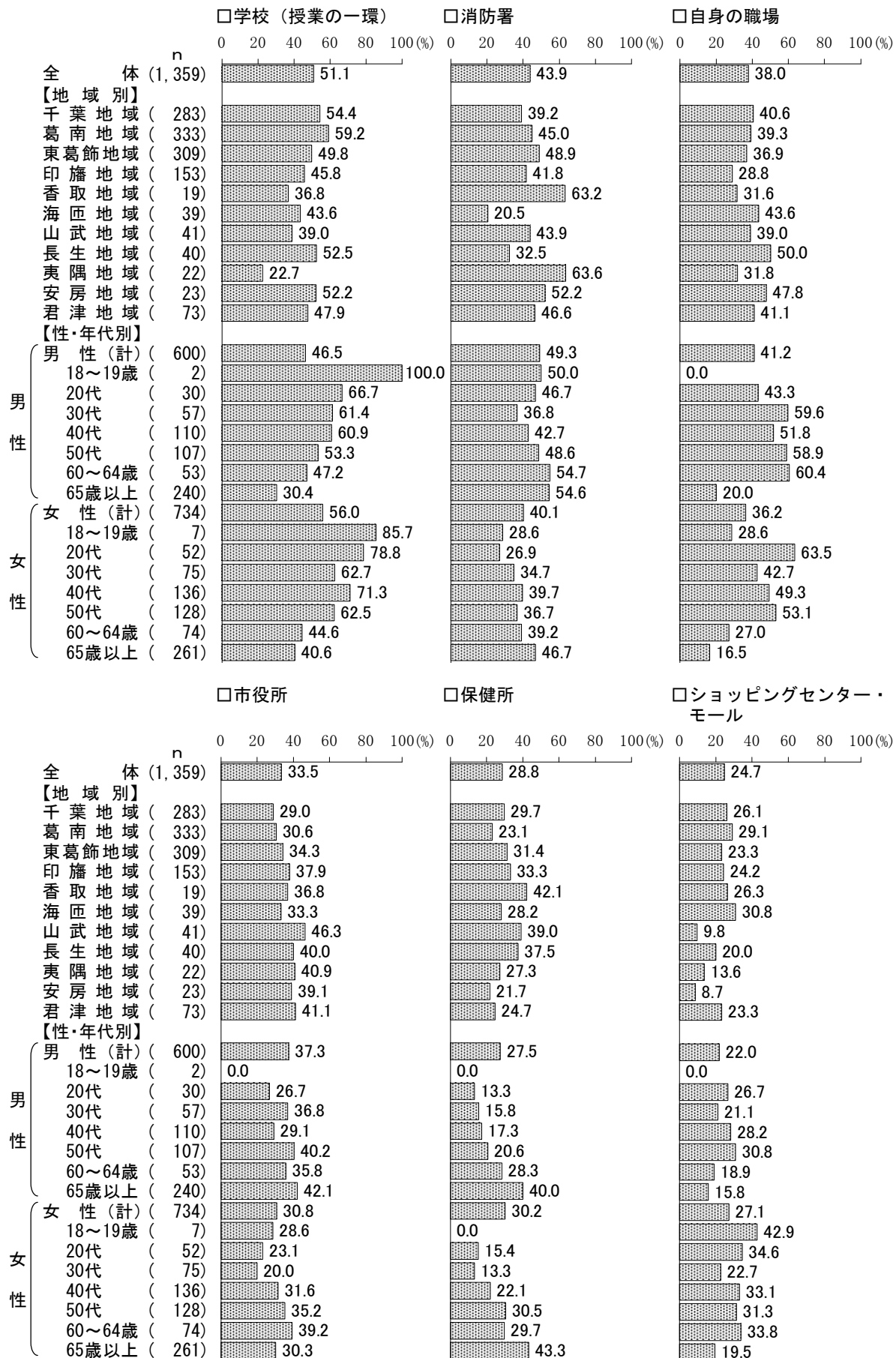
「市役所」は男性の65歳以上（42.1%）が４割を超えて高くなっている。

「保健所」は女性の65歳以上（43.3%）が４割を超え、男性の65歳以上（40.0%）が４割で高くなっている。

「ショッピングセンター・モール」は女性の40代（33.1%）が３割を超えて高くなっている。

（図表 7－20）

＜図表7-20＞応急手当の講習を希望する場所（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



このほかに、「心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について」やここまでの質問（問21～問24）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、169人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について」の自由回答（抜粋）

○AEDや心肺蘇生法は一度学んだことがあっても、忘れてしまっている人が多いと思うので、講習を受けられる場が増えれば良いと思います。（女性、20代、千葉地域）

○学校で心肺蘇生法やAEDを学んでも1回では覚えきれなかったり、不安があるから、1年に1回くらいのペースで授業をしてほしい。（女性、18～19歳、印旛地域）

○運転免許更新時に必須にすれば、使用できる人が増えると思う。（女性、40代、千葉地域）

○AEDはどんな時に使用すべきかの判断は一般人にはなかなかできないと思う。携帯カメラがこれだけ普及しているのだから、救急がカメラをつかって処置を誘導できるとよいのでは。（男性、30代、東葛飾地域）

○学校の文化祭や体育祭など催し物の一環で、保護者込みで実施すると良いと思う。（男性、40代、葛南地域）

○AED設置場所をアプリ、ネットマップにのせてほしい。（男性、40代、海匝地域）

○人工呼吸のカバーがあれば異性でもできると思う。感染症にかかりたくない。（女性、20代、葛南地域）

○AED等の使用事例と成果について、効果PRが少なく、身近に感ずる機会がないと思う。AED先進国はどの様にして市民が活用しているのかを、教えて欲しい。（男性、65歳以上、千葉地域）

○AEDによる有効性はよく耳にします。1人でも多くの人の命が助かるならば、自分がその場にいたならばと思うと、命を助けたいという気持ちでAEDの説明を見ながら頑張れるかな。もし複数人周りに人がいればいっしょに頑張りたいと思います。（女性、65歳以上、千葉地域）

○使用方法がもっと広まるようにSNSなどを利用して広めていくとよいと思う。有名人とか使って。（女性、20代、君津地域）

○今回のアンケートに同封されていたAEDについての用紙が入っていて、勉強になりました。色々なところで知識が得られる機会が増えれば良いと思います。（女性、40代、東葛飾地域）

8 ICT利活用の推進について

（１）「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと

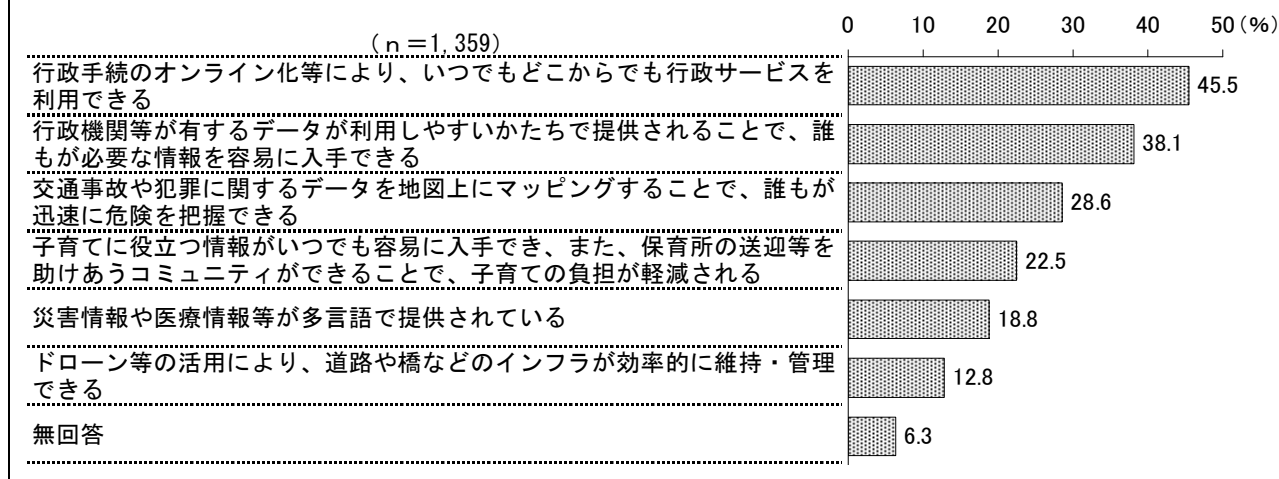
◇「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」が
4割台半ば

県では、人口減少や少子高齢化の進展が予想される中、ICT（情報通信技術）を効果的に活用し、持続的な経済と社会の発展を実現するため、今年９月に「県民の暮らしを豊かにする千葉県ICT利活用戦略」を策定しました。

本戦略は、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」を目指し、「あらゆる人が暮らしやすい社会」「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」「生産性の高い産業に支えられる社会」の３つの観点から、ICTの利活用を進めていくこととしており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問25 あなたは、「あらゆる人が暮らしやすい社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は２つまで）

<図表８－１>「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと（２つまでの複数回答）



「あらゆる人が暮らしやすい社会」の具体例として挙げた６つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」（４５．５％）が４割台半ばで最も高く、以下、「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」（３８．１％）、「交通事故や犯罪に関するデータを地図上にマッピングすることで、誰もが迅速に危険を把握できる」（２８．６％）が続く。（図表８－１）

【地域別】

地域別にみると、「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」は“千葉地域”（４４．９％）が４割台半ばで高くなっている。

（図表８－２）

【性・年代別】

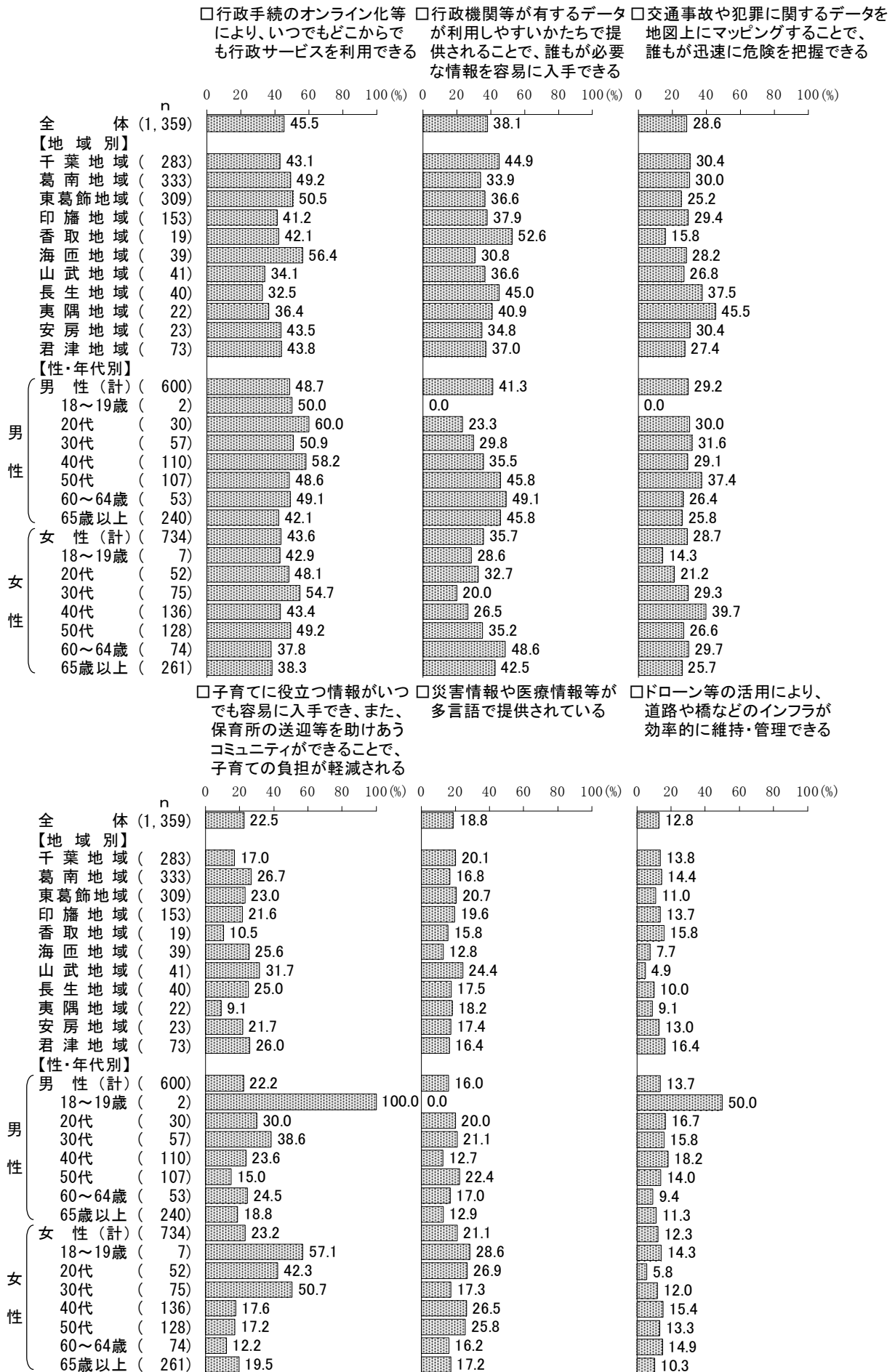
性・年代別にみると、「行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる」は男性の４０代（５８．２％）が約６割で高くなっている。

「行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる」は男性の６５歳以上（４５．８％）が４割台半ばで高くなっている。

「子育てに役立つ情報がいつでも容易に入手でき、また、保育所の送迎等を助けあうコミュニティができることで、子育ての負担が軽減される」は女性の３０代（５０．７％）が５割、女性の２０代（４２．３％）が４割を超え、男性の３０代（３８．６％）が約４割で高くなっている。（図表８－２）

＜図表8－2＞「あらゆる人が暮らしやすい社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別

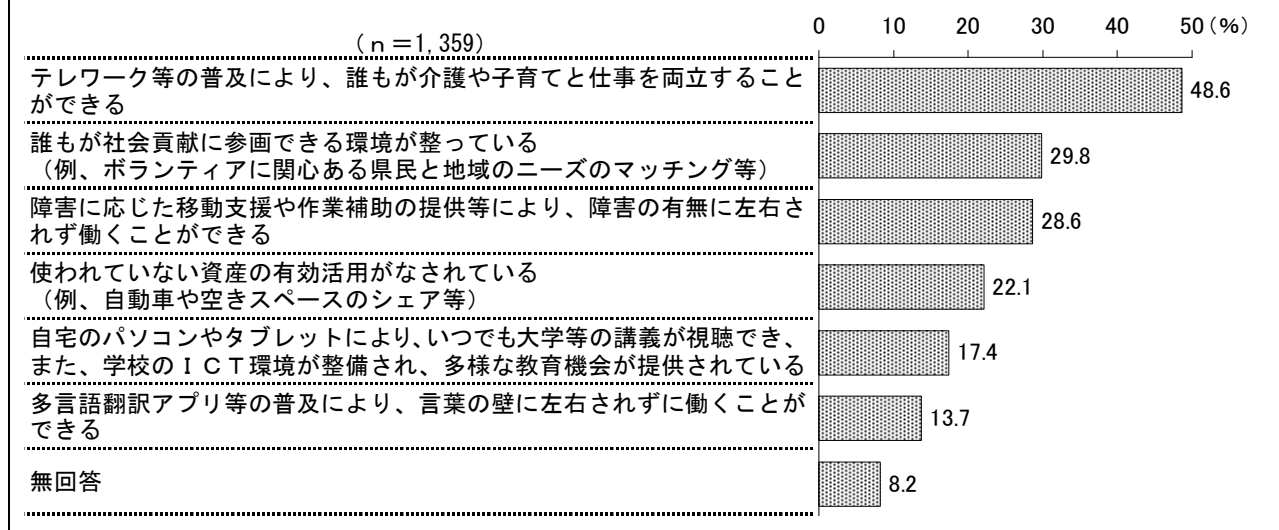


（２）「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと

◇「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」が約５割

問26 あなたは、「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は２つまで）

＜図表８－３＞「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと（２つまでの複数回答）



「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」の具体例として挙げた６つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」(48.6%) が約５割で最も高く、以下、「誰もが社会貢献に参画できる環境が整っている」(29.8%)、「障害に応じた移動支援や作業補助の提供等により、障害の有無に左右されず働くことができる」(28.6%)が続く。(図表８－３)

【地域別】

地域別にみると、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」は“葛南地域”(57.4%)が約６割で高くなっている。(図表８－４)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる」は女性の30代(64.0%)が６割台半ば、女性の40代(59.6%)が約６割で高くなっている。

「誰もが社会貢献に参画できる環境が整っている」は女性の50代(42.2%)が４割を超え、女性の60～64歳(40.5%)が４割で高くなっている。

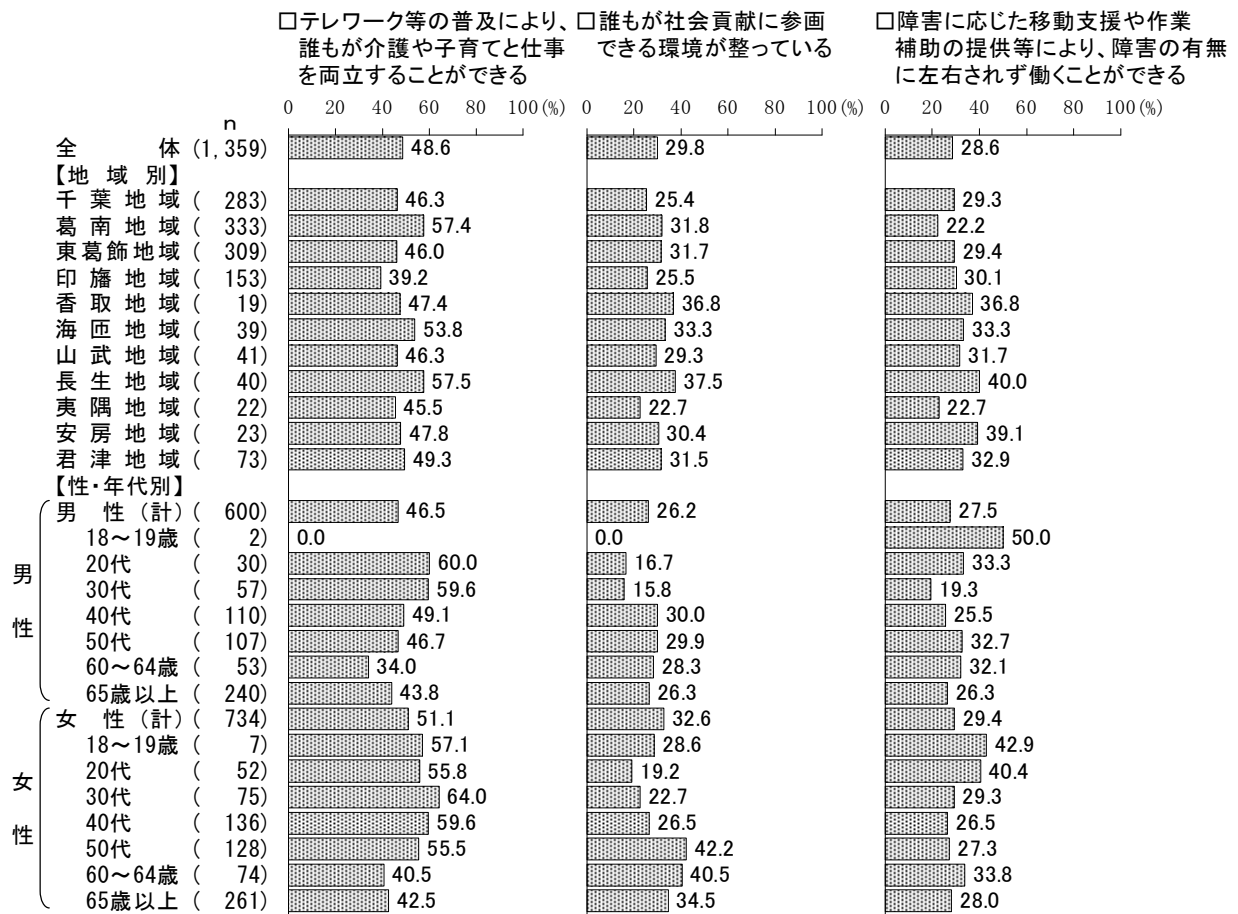
「使われていない資産の有効活用がなされている」は男性の50代(38.3%)が約４割、男性の30代(36.8%)が３割台半ば、男性の40代(30.0%)が３割で高くなっている。

「自宅のパソコンやタブレットにより、いつでも大学等の講義が視聴でき、また、学校のＩＣＴ環境が整備され、多様な教育機会が提供されている」は男性の30代(28.1%)が約３割で高くなっている。

「多言語翻訳アプリ等の普及により、言葉の壁に左右されず働くことができる」は女性の20代(26.9%)が２割台半ば、男性の50代(20.6%)が２割で高くなっている。(図表８－４)

＜図表 8－4＞「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）

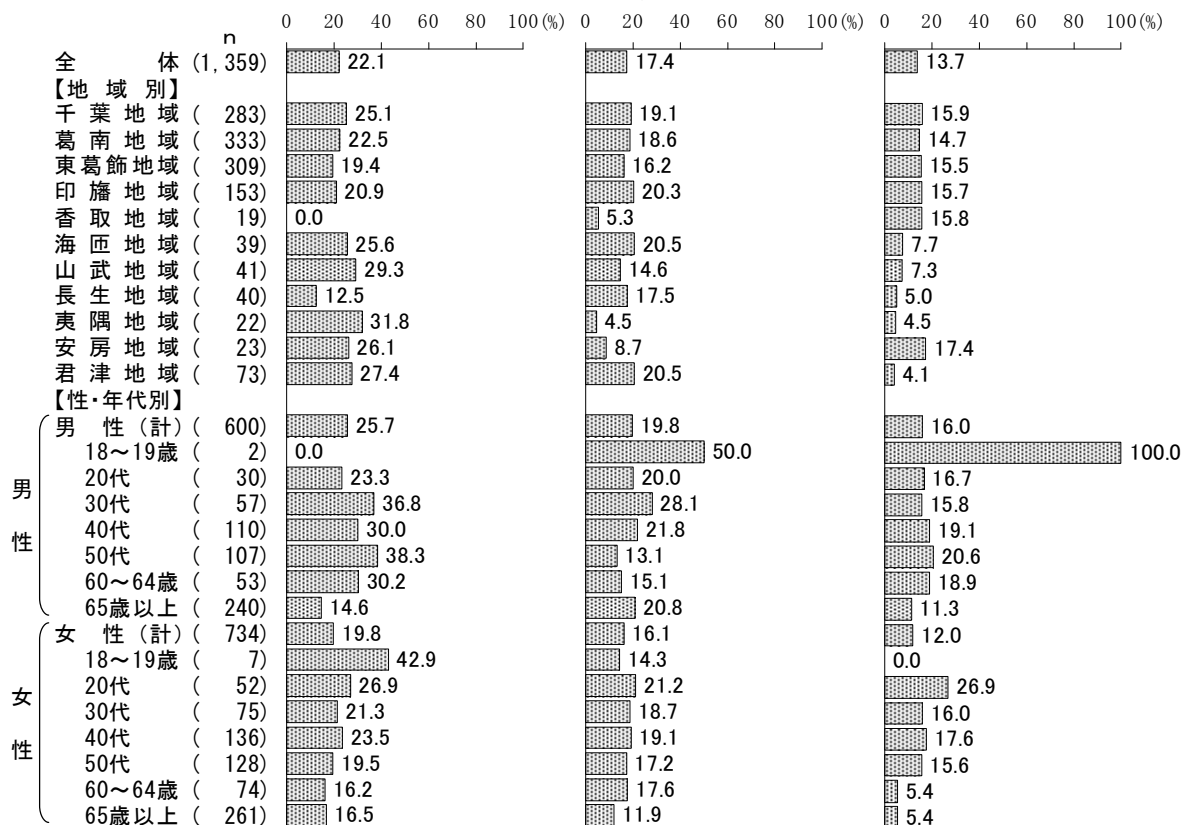
／地域別、性・年代別



☐使われていない資産の有効活用がなされている

□ 自宅のパソコンやタブレットにより、いつでも大学等の講義が視聴でき、また、学校のICT環境が整備され、多様な教育機会が提供されている

□多言語翻訳アプリ等の普及により、言葉の壁に左右されずに働くことができる

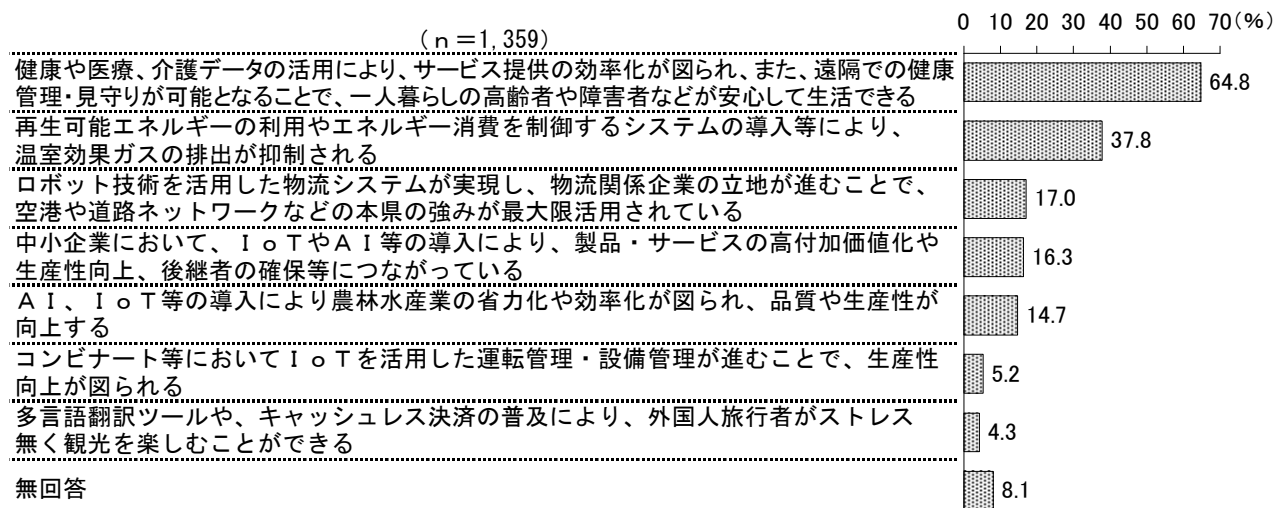


（３）「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと

◇「健康や医療、介護データの活用により、サービス提供の効率化が図られ、また、遠隔での健康管理・見守りが可能となることで、一人暮らしの高齢者や障害者などが安心して生活できる」が6割台半ば

問27 あなたは、「生産性の高い産業に支えられる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。（○は2つまで）

＜図表８－５＞「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと（２つまでの複数回答）



（※）ＩｏＴ：インターネット・オブ・シングス(Internet of Things)の略。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

（※）ＡＩ：人工知能(Artificial Intelligence)の略。人間の知能をコンピューター上で人工的に構築し、これまで人間が脳内で行ってきた作業を再現する仕組み。

「生産性の高い産業に支えられる社会」の具体例として挙げた７つの項目のうち、特にどれが重要だと思うか聞いたところ、「健康や医療、介護データの活用により、サービス提供の効率化が図られ、また、遠隔での健康管理・見守りが可能となることで、一人暮らしの高齢者や障害者などが安心して生活できる」(64.8%) が6割台半ばで最も高く、以下、「再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費を制御するシステムの導入等により、温室効果ガスの排出が抑制される」(37.8%)、「ロボット技術を活用した物流システムが実現し、物流関係企業の立地が進むことで、空港や道路ネットワークなどの本県の強みが最大限活用されている」(17.0%)が続く。(図表８－５)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表８－６)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費を制御するシステムの導入等により、温室効果ガスの排出が抑制される」は女性の50代(47.7%)が約5割、女性の40代(46.3%)が4割台半ばで高くなっている。

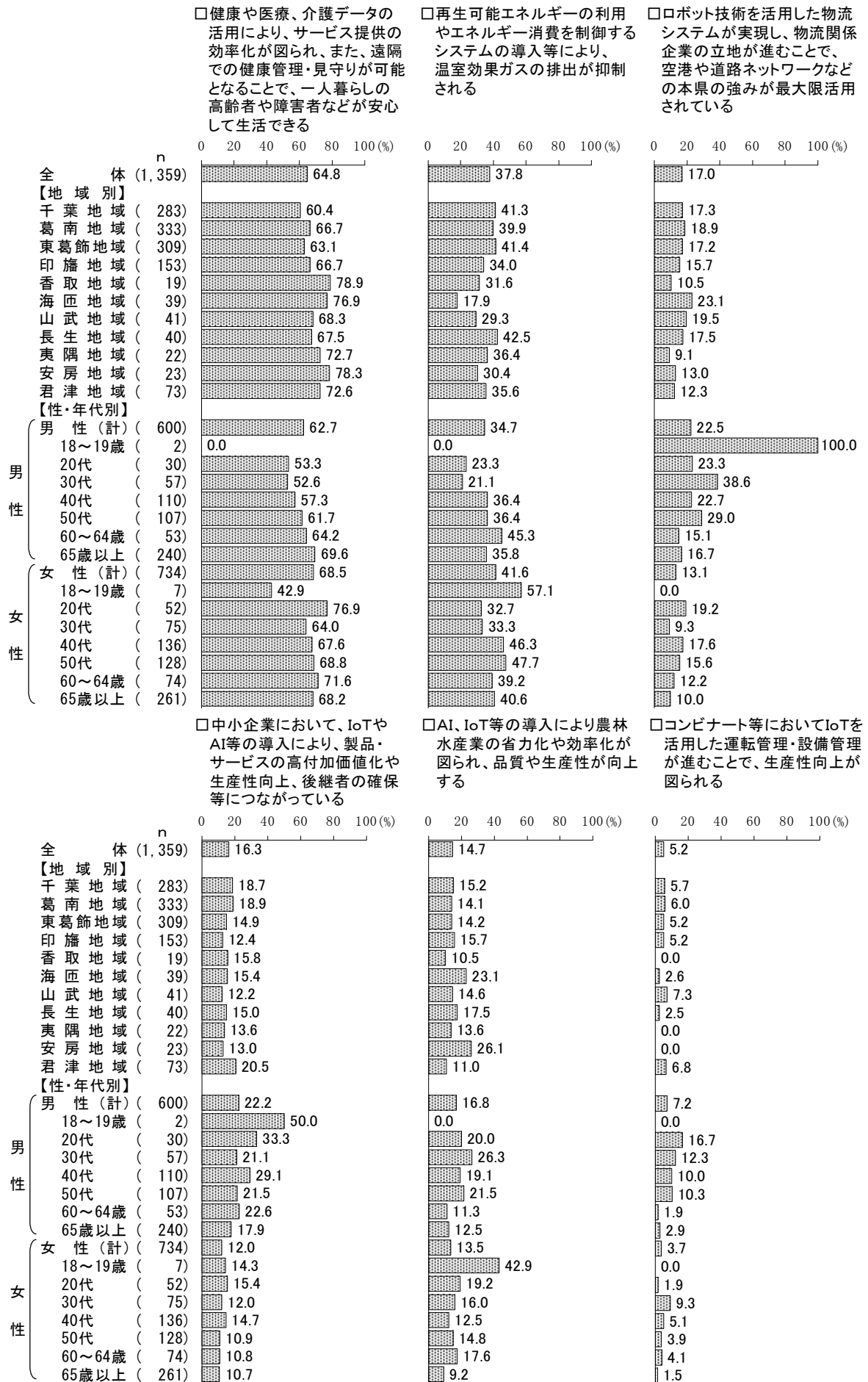
「ロボット技術を活用した物流システムが実現し、物流関係企業の立地が進むことで、空港や道路ネットワークなどの本県の強みが最大限活用されている」は男性の30代(38.6%)が約4割、男性の50代(29.0%)が約3割で高くなっている。

「中小企業において、ＩｏＴやＡＩ等の導入により、製品・サービスの高付加価値化や生産性向上、後継者の確保等につながっている」は男性の20代(33.3%)が3割を超え、男性の40代(29.1%)が約3割で高くなっている。

「ＡＩ、ＩｏＴ等の導入により農林水産業の省力化や効率化が図られ、品質や生産性が向上する」は男性の30代(26.3%)が2割台半ば、男性の50代(21.5%)が2割を超えて高くなっている。

(図表８－６)

＜図表8－6＞「生産性の高い産業に支えられる社会」について重要なこと（2つまでの複数回答）
／地域別、性・年代別（上位6項目）

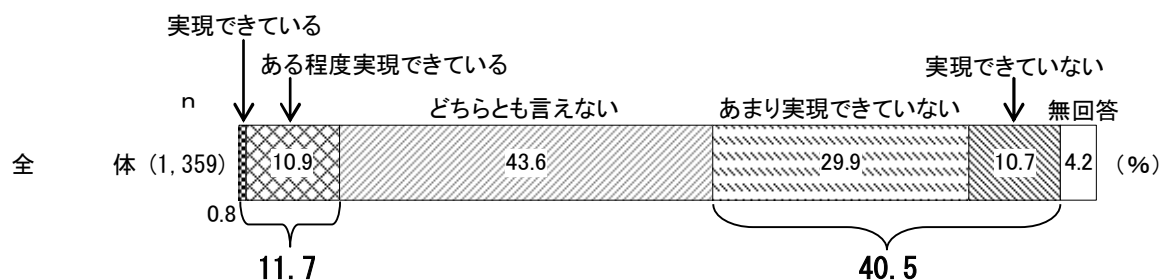


（４）「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度

◇『実現できている（計）』が1割を超える

問28 あなたは、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」がどの程度、実現できていると思いますか。（○は1つ）

＜図表８－７＞「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度



「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」がどの程度実現できていると思うか聞いたところ、「実現できている」（0.8%）と「ある程度実現できている」（10.9%）を合わせた『実現できている（計）』（11.7%）が1割を超えている。

一方、「どちらとも言えない」（43.6%）は4割台半ばとなっており、「あまり実現できていない」（29.9%）と「実現できていない」（10.7%）を合わせた『実現できていない（計）』（40.5%）は4割となっている。（図表８－７）

【地域別】

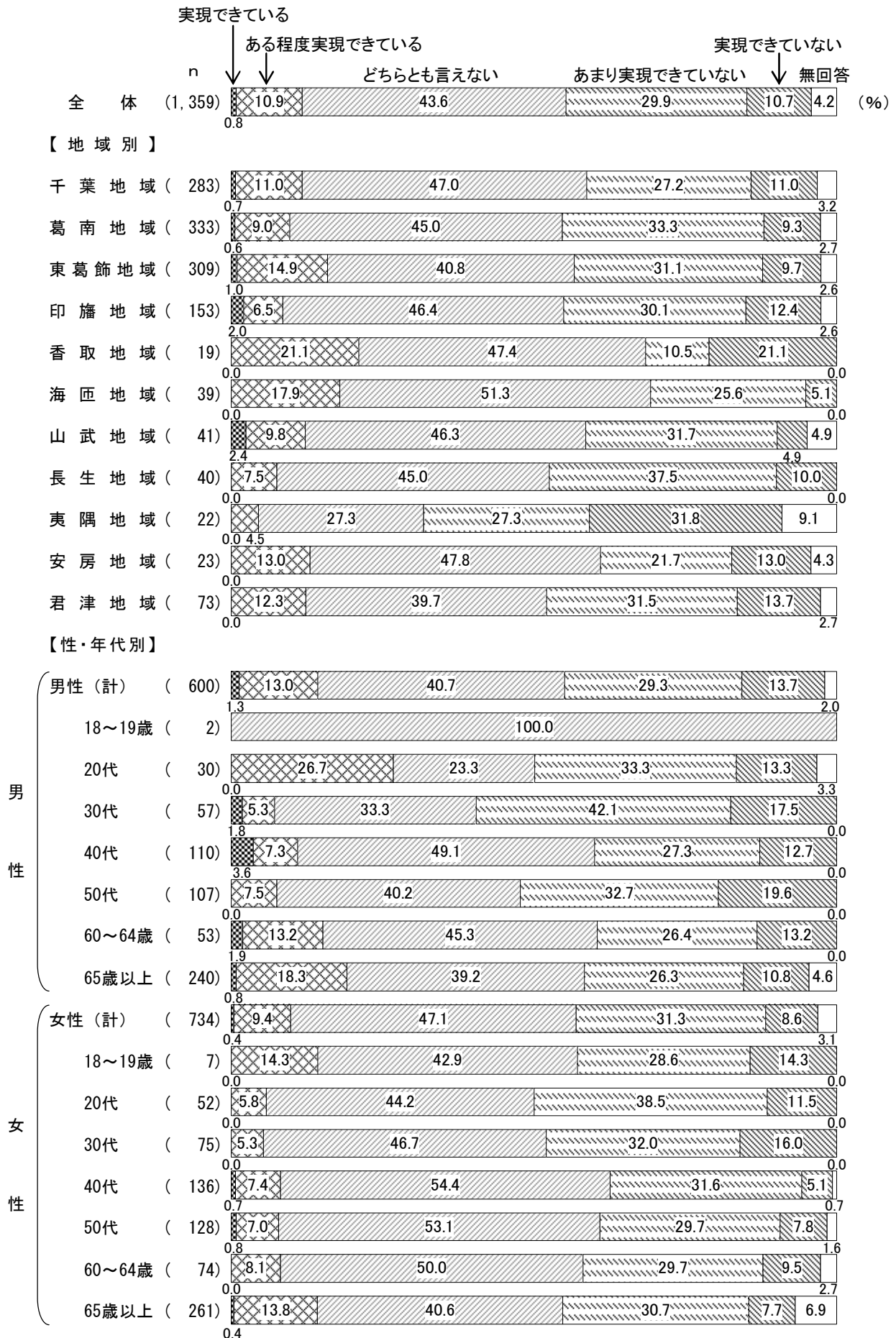
地域別にみると、「実現できていない」は“夷隅地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。
（図表８－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある程度実現できている」は男性の20代（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。

一方、「あまり実現できていない」は男性の30代（42.1%）が4割を超えて高くなっている。
（図表８－８）

＜図表８－８＞「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」の実現度／地域別、性・年代別



このほかに、「ICT利活用の推進について」やここまでの質問（問25～問28）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、126人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「ICT利活用の推進について」の自由回答（抜粋）

- ICTを理解できない一定層の人々は取り残されるのではないかと。何でもAIにやらせたり、セルフレジでやらされたりすることで、人とのつながりは希薄になり、雇用も減るのでは。ICTを利活用するのであれば、犯罪防止につながる使い方をしてほしい。昨今多いいせつ事件が減るような活用法を考えてほしい。（女性、40代、葛南地域）

- ロボット技術が福祉のすみずみまで活かされてほしい。（女性、65歳以上、葛南地域）

- お年寄りインターネットはよくわからないと言う人が多いので、みんながわかりやすい様な形での情報も発してほしいと思う。（女性、65歳以上、君津地域）

- 技術が進歩して様々な場所でコンピューターが使われていて、頭の古い人間はついていけない事が多々ある。パソコンやスマートフォン、タブレット等、高齢者でも使える様に学べる機会が地域で多くあるといい。わからない人にやさしい社会であってほしい。（女性、50代、安房地域）

- 各種災害発生時、インフラへの損害・ダメージ等の情報が容易に入手できるようになると便利だと思う。（男性、40代、山武地域）

- AIなどの高度な技術よりも、手続きのオンライン化、自治体同士の情報連携など市民が日常的に利用するサービスの効率化に取り組んでください。（女性、30代、東葛飾地域）

- 技術の発達により、人と機械が共存できる社会を望んでいます。（男性、20代、千葉地域）

- 孤立しがちな生活に生きがいを見出すことが重要。自分で選び主体的に取り組むこと、誰かの助けや安心に貢献できていると実感できることが生きがいであり幸福である。そのような実例を挙げて具体的に紹介していってもらいたい。（男性、65歳以上、香取地域）

- ICTをインフラとして整備しても、自己実現（生産性の向上や社会貢献）は、やはり一人一人の心がけではないでしょうか。ただICTにより本人が意識せずとも健康管理等が出来たら素晴らしいですね。（男性、50代、印旛地域）

9 自由回答

問 このほかにも、県へのご意見があればご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、288人から延べ328件の回答が寄せられた。
記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形（合計26項目）で整理した。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。

また、紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目に関しては、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

【自由回答の項目順位】

順 位	項 目	件 数
第1位	災害から県民を守る	113
第2位	県政全般に関する要望	58
第3位	県政の情報発信について	20
第4位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	12
〃	高齢者の福祉を充実する	12
〃	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	12
第7位	道路を整備する	11
第8位	犯罪防止対策をすすめる	8
〃	交通事故から県民を守る	8
第10位	施策実現や地域活性化のためのICTの利活用をすすめる	7
第11位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	6
〃	医療サービス体制を整備する	6
〃	雇用の場を広げる	6
第14位	学校教育を充実する	4
第15位	市民活動団体やボランティアへの活動支援を充実する	3
〃	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	3
第17位	省資源やリサイクルをすすめる	2
〃	廃棄物対策をすすめる	2
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	2
〃	観光を振興する	2
〃	公園・緑地を整備する	2
第22位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	1
〃	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	1
〃	下水道を整備する	1
〃	住宅対策を充実する	1
〃	芸術・文化活動を振興する	1
	その他	24
	その他 うち、国政への要望	(2)
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	(10)
	合 計（再掲分を含む 延べ数）	328

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■災害から県民を守る

- 台風被害、災害被害への取り組み、県の対応がこんなにも遅く、不安と心配にかられた。
千葉県でも千葉市内の都市部はテレビのニュースで放送されるが、房総が少ないのも不安にかられた。
（女性、40代、安房地域）
- 先日の台風で防災無線が使われアナウンスが流れていたようですが、大雨の音もあってかなり聞こえにくかったです。平常時は夕方アナウンスで聞きとれていることが確認できると思いますが、実際の災害時は平常時とは違い、周囲の音が普段とは違うので、そういった場合でもしっかり聞きとれる状況を求めます。特に高齢の方は全く聞き取れないほどだと思います。
（女性、30代、東葛飾地域）
- 台風15号や19号の際にも感じましたが、交通機関が運休する情報が遅く、無理に出勤・登校する人がいたのではないかと。難しいとは思いますが、他県との協力や会社、学校への指導など災害時に安全を確保できるようにしていただきたいです。
（女性、20代、葛南地域）
- 台風などで停電が続き厳しい状況に置かれた。防災に対する対策がさらに必要。また、避難所で体育館にブルーシートを敷くのでは高齢者の体調が不安なので、パーテーションや簡易ベッドなどの設備を拡充してほしい。避難時、女性が食事や人の世話にかり出され、プライバシーがなく疲労した。女性室をつくるなどの配慮が必要。知らない男性の隣で眠ることはできない。
（女性、50代、印旛地域）
- 今秋の台風時の知事の行動が問題視されています。県民ファーストで迅速な対応をしてほしいと思います。
（女性、60～64歳、千葉地域）
- 茂原市を流れる一宮川の氾濫により床下浸水しました。川は泥が入り込み年々浅くなっています。川の清掃をお願いしたいです。二度と水害が起らないようにしていただきたいです。
（女性、65歳以上、長生地域）
- 台風の後、道路が寸断されていたり、信号機が停電していたりして出かける時、情報が得られず困った。一元的に管理して情報発信をしてほしい。
（女性、50代、印旛地域）
- 県知事の災害時の行動は到底納得できるものではない。いまだに元の生活に戻れていない方もいます。足を運んで自分の目で確かめて欲しいものです。
（男性、60～64歳、葛南地域）

○発電機を眠らせておくことのないように。これこそ想像力の欠如だと思います。

（女性、50代、東葛飾地域）

○9月、10月の災害では、まだ復旧が終わっていません。予算の関係もあると思いますが、復旧対策は、国・県・市等の行政機関が一体となって速やかな対応が望めます。

（男性、50代、君津地域）

○台風などのいざという時に森田知事には県民一人一人に見える形で、リーダーシップを発揮して活躍して欲しかった。

（男性、40代、東葛飾地域）

○県南地区は台風や大雨で多大な被害を受け、今でも苦労している方々が多くいます。地球温暖化で、今後も大きな災害が予想されます。ライフラインが早く復旧するシステムや対策をする必要が急務です。指揮命令系統がスムーズに、的確に行うことを期待します。全国からたくさんのボランティアの方々が援助していただきました。さらに自衛官や電力会社の皆さんも昼夜をまたがりの活躍に感謝です。

（男性、60～64歳、君津地域）

■県政全般に関する要望

○無駄な支出を抑え、真に必要な支出を優先する。手続きの見直し。（男性、50代、千葉地域）

○公共の書類や手続きが今だに県民が分かりにくいと思うことを理解しようとしなから、いつまでも県民が行政を頼りにする事が出来ないということをわかってほしい。県民の苦しくても強制的に払わなくてはならない税金が、あなた方の高い給料になっていることを改めて考えて欲しい。

（男性、30代、東葛飾地域）

○今県民は何が必要か、どうしたら満足してもらえるか、職員の一人ひとり想像力を働かせて、仕事にあたっていただきたいです。

（女性、50代、東葛飾地域）

○よりよい千葉県を目指し、他県に負けない魅力を持った唯一無二の存在になれるよう頑張っていきましょう。

（男性、20代、千葉地域）

■県政の情報発信について

○チーバくんのT w i t t e rを楽しみにしています。これからも続けてくださると嬉しいです。

（女性、18～19歳、葛南地域）

○新聞をとっておらず、広報を目にする機会がないため、政策を知る機会がありません。SNSを積極的に使った政策のPRを求めます。

（女性、30代、東葛飾地域）

○市政は身近であり、自ら情報を取りに行くが、県政ははるかに遠い。特に知事が何をやっているのか、まったく見えず、存在感が無い。千葉の為に何をやっているのか、身近に見える形で情報発信して欲しい。千葉を一つにする為には必要な事だと思う。

（男性、60～64歳、千葉地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○駅のホームドアの設置など交通の安全性を高めてもらいたい。（女性、20代、東葛飾地域）

○千葉の田舎の方では車がないと生活できない環境のため80歳すぎても免許を返す人が少ない。バスも1時間に1本、バス停まで歩いて30分以上かかる地域なので、返納するのは難しい状況です。車がなくても生活できる設備を整えて欲しい。（女性、30代、葛南地域）

○千葉ニュータウンは交通が不便です。値段も高い。表面的には整っても幸福感につながらない。

（女性、65歳以上、印旛地域）

■高齢者の福祉を充実する

○お年寄り、大人、青年、子どものコミュニティが出来る場を増やす。ひとり暮らし高齢者の引きこもりをなくす。

（女性、65歳以上、印旛地域）

○地方の生活環境への対応、高齢者がふえている中で、民生委員の活動への充実を図るべきと思う。地域での見回り、相談員を兼ねてるとしますので、周知すべきと感じております。

（男性、65歳以上、香取地域）

○老後ひとりで暮らすにあたり、いろいろな情報を得ていきたいが、どうやってその内容を調べたり、相談したらいいのかよくわからない事がある。窓口はどこにあるとかの一覧があると便利だなと思いました。

（女性、40代、千葉地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○子育て支援策など少子化に対する取り組みが重要です。大切な子どもを安全に安心して育てられる環境を整える事が最優先課題です。児童福祉の充実、教育委員会の充実を早急に取り組んでいただきたい。野田の事件は二度とあってはならない。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○保育園の待機児童をなんとかして欲しい。

（女性、30代、葛南地域）

○千葉県を子育てにやさしい県にすることで、ぜひ活性化させてもらいたいです。

（女性、20代、葛南地域）

■道路を整備する

○千葉県は船橋、習志野、市川など道路の混雑が激しい。渋滞ばかりで出かけたくても躊躇する。
(男性、50代、葛南地域)

○先日の台風の影響で、道が通行止めになっていたり、くずれて通れない。渋滞たくさん不便な所が多い。道の整備をお願いしたい。3月に予算調整のために工事をするだけでなく。都市部だけでなく、田舎の整備も切実にお願いします。
(女性、30代、印旛地域)

■犯罪防止対策をすすめる

○犯罪早期解決のため、今後出来るだけ防犯カメラを付けて欲しい。
(女性、65歳以上、印旛地域)

○電話d e 詐欺の被害者がなくなりますよう、今後の取組に期待しております。私達も周りの1人暮らしの方、銀行ATMなど、お年寄りの方々に目を配り、決して詐欺の被害者を出してはならないという意識を強く持って行動していきたいと思います。
(女性、50代、葛南地域)

■交通事故から県民を守る

○交通ルール、特に自転車の安全意識が低く危険。ながら運転など車だけでなく自転車にも指導する必要があるのでは。
(女性、40代、東葛飾地域)

○交通事故による死亡者数が少しでも減るよう、対策を考えて欲しい。
(女性、40代、葛南地域)

■施策実現や地域活性化のためのICTの利活用をすすめる

○インターネットが進む社会で、まったく使う事のできない人達も多くいると思う。そのような人達への配慮が必要だと思います。
(男性、60～64歳、海匝地域)

○医療機関を受診時に保険証の内容に変更があった場合など、分かりにくい。また、手続き中だと手元にないので、受診しにくい。保険証ではなくマイナンバーを入力すれば、その人がどのような保険証の状態なのかわかるシステムにしてほしい。また、それを、本人が確認できるようになるといい。マイナンバーカードを出せば、医療機関を受診できる。このような使い方はどうでしょうか。
(女性、40代、千葉地域)

問 また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、152人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

○この様なアンケートより、台風災害に関する県政の対応処置等のアンケートをやるべきだと思う。
(男性、60～64歳、君津地域)

○この調査を無駄にせず県民の意見をくみ取って頂きたいと思います。少しでもより良い社会・住みやすい千葉県になっていく事を願います。
(女性、50代、葛南地域)

○インターネット回答の方が手間やコストもかからないかとも思ったのですが、回答者の偏りも出るので、インターネット、調査票それぞれあってよいと思います。
(男性、30代、海匝地域)

○県民の意見を取り入れるのはいい事だと思う。ただ、ちょっとアンケートの数が多い。
(女性、40代、葛南地域)

○結果が、あくまで客観的に評価されることを望みます。意図的に政策に都合の良いようなデータ解釈とならないように。
(女性、60～64歳、印旛地域)

○世論調査の集計結果が、実際、県政に反映された例があったら、ホームページで示してほしいです。
(女性、65歳以上、千葉地域)

○設問多すぎです。一年一度でなく、インターネットからは県民がいつでも意見を寄せることが出来るようにすべきと思います。
(男性、50代、印旛地域)

○世論調査はもっと質問をシンプルにしないと回答がしづらい。
(女性、65歳以上、印旛地域)

○世代ごとに調査するのも良いと思います。子育て世代、介護世代など世代によって意見が違うので幅広く意見を聞いた方が良と思います。
(女性、40代、葛南地域)

○手厳しい意見にこそ目を向けて、改善してほしい。
(男性、30代、君津地域)

（付）調査票および単純集計結果

ちば

第59回 千葉県政に関する世論調査

ご記入にあたってのお願い

- 1 宛名のご本人様がお答えくださるようお願いいたします。
なお、**名前や住所など個人情報の記入は一切必要ありません。**
- 2 ご回答は、この調査票に黒か青のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- 3 （１）回答は、原則としてあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
質問の中に、（○は１つ）、（○は３つまで）、（○はいくつでも）などと表示していますので、そちらに合わせて○をつけてください。
（２）質問によって回答していただく方が限られる場合がありますので、
ことわり書きや矢印にしたがってください。特にことわりのない場合は、
全ての方に回答していただく質問になります。
（３）お答えが選択肢の中になく、「その他」を選んだ場合は、（ ）内
にその内容を具体的に記入してください。
- 4 （１）ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
12月5日（木）までに郵便ポストに投函してください。
返信用封筒に名前や住所を書いたり、切手を貼る必要はありません。
※調査票は、折り目に合わせて三つ折でお願いします。
（２）インターネットで回答される場合は、別添の「インターネット回答
操作案内」をご覧ください。回答には、右下に貼られた「申請者ID」
「パスワード」が必要になります。
なお、セキュリティ保護のため、回答入力ページへ移動後、**60分で
接続が切断（タイムアウト）**しますので、案内に記載の**回答一時保存**を
お願いいたします。
（３）**「申請者ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人を特定
するものではありません。**
- 5 回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記まで
お問い合わせください。

【問い合わせ先】

千葉県 総合企画部

報道広報課広聴室

〒260-8667

千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-223-2469

FAX 043-227-3613

アドレス kouchou@mz.pref.chiba.lg.jp

ネット回答者用

「申請者ID」

「パスワード」の

記載シール添付場所

【電話d e詐欺に関する県民の意識について】

未だ被害が多発しており、深刻な状況にある「電話d e詐欺」の被害を防止するために、県警や県では様々な広報媒体を使って県民の皆さまに「電話d e詐欺」に関する情報を提供しています。

今後、より効果的な広報啓発活動を実施するため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問1 県では、「振り込め詐欺」をはじめとする「特殊詐欺」に代え、「電話d e詐欺」の名称を用いています。あなたは、この名称を知っていますか。n=1,359（○は1つ）

62.8	知っている	34.0	知らない	3.2	無回答
------	-------	------	------	-----	-----

問2 電話d e詐欺のうち、あなたの知っている手口はどれですか。

n=1,359（○はいくつでも）

95.8	オレオレ詐欺
78.8	還付金等詐欺
70.4	架空請求詐欺
16.7	融資保証金詐欺
1.0	ない
2.2	無回答

→ 3 ページ問3へ

→（問2で「1」～「4」とお答えの方に）

問2-1 知っている手口に遭った場合に、あなたがとっている、またはとろうと考えている対策はありますか。n=1,315（○はいくつでも）

59.8	自身も家族も不審な電話があった際は、必ず誰かに相談するようにしている
10.6	不審な電話があった際の対応について、家族で取り決めている（連絡手段や合言葉など）
39.3	普段から留守番電話にしている
9.4	迷惑電話防止機器を設置している
56.3	自身も家族も知らない番号からの電話には出ない、不審な電話はすぐ切るようにしている
21.5	家族で普段からコミュニケーションをとって、家族の声やうそを見分けられるようにしている
4.1	その他（具体的に
5.2	対策をとっていない
0.6	無回答

（問2-1で「8」とお答えの方に）

→ 問2-2 あなたが、対策をとっていない理由は何ですか。n=68（○は1つ）

29.4	自身も家族も被害に遭うとは思わない
7.4	自身も家族も被害に遭うかもしれないが興味がない、または手口や対策に関する情報を得るのが面倒である
50.0	被害に遭ったことがなく対策を考えていなかったが、今後は対策をしようと考えている
13.2	その他（具体的に

→ P3の問2-3へ

（問2-1で「1」～「7」とお答えの方に）

問2-3 あなたは、どのような媒体で電話d e詐欺の手口を知りましたか。

n = 1, 239（〇はいくつでも）

- 17.8 千葉県警察・千葉県・市区町村からの直接指導（訪問、防犯講話、チラシの配布など）
- 33.1 千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌
- 9.2 千葉県警察・千葉県・市区町村などのメール配信
- 5.6 電話d e詐欺・悪質商法被害抑止コールセンター（千葉県警察）からの電話
- 22.4 市区町村の防災無線
- 40.5 ポスターなどの掲示物
- 8.2 ホームページ（インターネット）
- 83.4 新聞、テレビ、ラジオ
- 24.2 金融機関・コンビニのATM画面
- 5.6 銀行、郵便局などの金融機関職員からの助言（声掛け）
- 0.6 コンビニ・スーパーなどの店員からの助言（声掛け）
- 1.9 金融機関職員、コンビニ・スーパーなどの店員以外の一般人からの助言（声掛け）
- 19.0 家族、知人からの助言（声掛け）
- 4.0 その他（具体的に
- 1.8 無回答

問3 あなたは、自身やご家族が被害に遭わないため、これらの詐欺の手口や対策に関する情報を、今後どのような媒体で得たいと思いますか。n = 1, 359（〇はいくつでも）

- 20.8 千葉県警察・千葉県・市区町村からの直接指導（訪問、防犯講話、チラシの配布など）
- 39.3 千葉県警察・千葉県・市区町村などの広報誌
- 12.7 千葉県警察・千葉県・市区町村などのメール配信
- 4.6 電話d e詐欺・悪質商法被害抑止コールセンター（千葉県警察）からの電話
- 24.4 市区町村の防災無線
- 41.1 ポスターなどの掲示物
- 17.7 ホームページ（インターネット）
- 80.6 新聞、テレビ、ラジオ
- 28.7 金融機関・コンビニのATM画面
- 20.2 銀行、郵便局などの金融機関職員からの助言（声掛け）
- 8.5 コンビニ・スーパーなどの店員からの助言（声掛け）
- 6.6 金融機関職員、コンビニ・スーパーなどの店員以外の一般人からの助言（声掛け）
- 26.3 家族、知人からの助言（声掛け）
- 2.2 その他（具体的に
- 1.5 無回答



（すべての方に）

このほかに、「電話d e 詐欺に関する県民の意識について」やここまでの質問（問1～問3）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【消費生活について】

悪質事業者による押し売りや、化粧品による健康被害など消費者トラブルが後を絶たない中、県では相談窓口の整備や、消費者に商品事故に関する情報や契約トラブルへの対処法を伝える消費者教育の推進などに取り組んでいます。

今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問4 あなたは、消費者トラブルにあった時、市町村の窓口など「安心して相談できるところ」があると思いますか。 n=1,359（○は1つ）

56.8	あると思う	41.2	ないと思う	2.0	無回答
------	-------	------	-------	-----	-----

問5 あなたは、消費者トラブルにあった時に、地域や身近なところで、家族や知人など「いつでも相談できる人」がいると思いますか。 n=1,359（○は1つ）

76.7	いると思う	22.1	いないと思う	1.1	無回答
------	-------	------	--------	-----	-----

問6 あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している県の消費者センターや市町村の消費生活センターを知っていますか。

n=1,359（○は1つ）

16.3	名前も業務内容も知っている
46.9	名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない
35.8	名前も業務内容も知らない
1.0	無回答

問7 あなたは、点検商法や架空請求などの悪質商法が減ってきたと思いますか。

n=1,359（○は1つ）

1.2	減ってきたと思う
6.6	どちらかといえば減ってきたと思う
34.8	変わらないと思う
19.3	どちらかといえば増えてきたと思う
16.3	増えてきたと思う
21.4	わからない
0.4	無回答

問 8 あなたは、学校や地域、職場などにおいて、消費者トラブルを回避したり、
トラブル発生時に適切な判断や行動ができる能力を育む教育（消費者教育）の
機会が提供されていると思いますか。 n = 1, 359（○は1つ）

- 3.0 提供されていると思う
- 12.7 どちらかといえば提供されていると思う
- 27.2 どちらともいえない
- 36.6 あまり提供されていないと思う
- 19.3 提供されていないと思う
- 1.3 無回答

問 9 あなたは、普段の生活の中で、生活必需品（食品、トイレットペーパー等の
生活雑貨・衣料品など）の安定的な供給体制（消費者がいつでも購入できること）
や安全性に不安を感じることがありますか。 n = 1, 359（○は1つ）

- 3.9 不安を感じる
- 11.3 どちらかといえば不安を感じる
- 16.3 どちらともいえない
- 27.4 どちらかといえば不安を感じない
- 38.2 不安を感じない
- 2.2 わからない
- 0.7 無回答

問 10 あなたは、消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質
商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どうお感じですか。
n = 1, 359（○は1つ）

- 1.0 大変満足している
- 21.3 まあ満足している
- 43.1 どちらともいえない
- 14.1 やや不満である
- 3.8 大変不満である
- 15.9 わからない
- 0.8 無回答

（すべての方に）

このほかに、「消費生活について」やここまでの質問（問4～問10）について、
ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【医療について】

県では、平成30年4月に策定した千葉県保健医療計画に基づき、県民の皆さま一人ひとりが地域で安心して生活することができる、総合的な保健医療供給体制の確立を推進しています。

今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 11 あなたは千葉県内の医療についてどう感じですか。 n=1,359（○は1つ）

2.3 非常に満足している	29.5 やや不満である	14.2 わからない
45.5 まあ満足している	6.0 非常に不満である	2.4 無回答

→（問11で「3」、「4」とお答えの方に）

問 11-1 あなたは、どのような点に不満を感じていますか。 n=483（○は3つまで）

- 15.3 自宅の近くに医療機関がない
- 26.7 初診の際にどの医療機関（診療科）を受診したらいいのかわからない
- 71.8 診療までの待ち時間が長い
- 22.8 症状や治療に関する医療機関からの説明が足りない
- 9.9 他の医療機関への紹介や転院、退院に関する医療機関からの説明が足りない
- 7.2 診療所や病院から他の医療機関への紹介がスムーズに行われない
- 5.0 退院後の介護施設や在宅医療への移行がスムーズに行われない
- 35.0 夜間・休日の診療体制が十分ではない
- 8.1 在宅医療（訪問診療や訪問看護など）の提供体制が十分ではない
- 14.9 長期療養のための入院施設等が足りない
- 8.3 その他（具体的に

問 12 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。

n=1,359（○は3つまで）

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 32.9 がん医療 | 34.1 在宅（訪問）医療 |
| 18.9 循環器（心臓病・脳卒中）医療 | 24.3 地域単位の医療 |
| 32.5 救急救命医療 | （その地域で完結する医療全般） |
| 6.9 精神科（救急）医療 | 6.8 特になし |
| 19.0 小児科（救急）医療 | 2.1 その他 |
| 10.8 産科・周産期医療 | （具体的に |
| 33.9 老年医療 | 2.7 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「医療について」やここまでの質問（問11～問12）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【人生の最終段階における医療や療養への希望について】

県では、人生の最終段階（治る見込みがない病気にかかった場合など）における医療や療養について、患者の方々の意思を尊重した医療の推進や啓発を図るための施策を検討しており、今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 13 あなたは、人生の最終段階において、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死期が迫っていると告げられた場合、治療によって生活の質が下がるとしても、とにかく延命を最優先することを目的とした治療（以下「延命治療」と言う。）を望みますか。このような場合を想定してお答えください。

n = 1,359（○は1つ）

1.8 延命治療を望む	→ 自由記述へ
5.8 どちらかといえば延命治療を望む	
37.8 どちらかといえば延命治療を望まない	→ 自由記述へ
43.8 延命治療を望まない	
8.6 わからない	→ 自由記述へ
2.1 無回答	

→（問 13 で「3」、「4」とお答えの方に）

問 13-1 延命治療を望まない場合、具体的にはどのような医療・ケア方法を望みますか。

n = 1,109（○は1つ）

58.5 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点を置く方法
26.0 延命治療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法
13.1 本人の意思に基づき医学的な方法で生命を短縮させるような方法
0.6 その他（具体的に
1.4 わからない
0.4 無回答

（すべての方に）

このほかに、「人生の最終段階における医療や療養への希望について」やここまでの質問（問 13）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。



【食品ロスについて】

まだ食べられるにも関わらず廃棄される「食品ロス」が、全国で年間 600 万トン以上発生しており、食品ロスを削減する取組を進めていくことが重要な課題となっています。

「食品ロス」削減に向けた今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 14 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。

n=1,359（○は1つ）

- 46.0 よく知っている
- 45.5 ある程度知っている
- 6.5 あまり知らない
- 1.3 全く知らない
- 0.7 無回答

問 15 あなたは、「食品ロス」の削減に取り組んでいますか。

n=1,359（○は1つ）

- 17.8 取り組んでいる
 - 64.1 どちらかといえば取り組んでいる
 - 11.7 どちらかといえば取り組んでいない
 - 5.1 取り組んでいない
 - 1.3 無回答
- 問 16 へ

（問 15 で「1」、「2」とお答えの方に）

問15-1 普段の生活の中で、どのような取組を行っていますか。n=1,113（○はいくつでも）

- 66.2 食べきれる量を購入・調理する
- 52.9 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認する
- 60.3 冷凍保存を活用する
- 57.1 残さず食べる
- 65.0 賞味期限切れでもすぐに捨てずに自分で判断する
- 2.0 その他（具体的に
- 0.9 無回答

（問 15 で「1」、「2」とお答えの方に）

問15-2 外食や宴会で、食品ロスの削減に取り組んでいますか。n=1,113（○はいくつでも）

- 79.1 食べきれる量を注文している
- 37.6 苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらっている
- 15.3 宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている
- 26.9 お店に了解を得て残った料理を持ち帰っている
- 2.3 その他（具体的に
- 7.2 無回答

問 16 あなたは、千葉県が食べ残しの削減に向けて推進している「ちば食べきりエコスタイル」を知っていますか。

n=1,359（○は1つ）

- 4.5 知っている → 9 ページ問 16-1 へ
- 92.3 知らない → 9 ページ自由記述へ
- 3.2 無回答

（問 16 で「1」とお答えの方に）

問 16-1 あなたは、どのような方法で「ちば食べきリエコスタイル」を知りましたか。
n=61（〇はいくつでも）

- | | |
|------|-----------------------|
| 70.5 | ちば県民だより |
| 14.8 | 千葉県の配布するリーフレット・パンフレット |
| 44.3 | 市区町村の広報誌等 |
| 11.5 | 店のポスターやステッカーなどの掲示物 |
| 8.2 | ホームページ（インターネット） |
| 4.9 | その他（具体的に |
| 3.3 | 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「食品ロスについて」やここまでの質問（問 14～問 16）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【食育について】

県では、心身の健康の増進と豊かな人間形成のため、県民一人ひとりが食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができるよう、子どもから高齢者まで各世代に応じた施策や生産者との交流、食文化の伝承など食育の推進に取り組んでいます。

今後の食育推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 17 あなたは、「食育」に関心がありますか。 n=1,359（〇は1つ）

- | | |
|------|---------------|
| 25.2 | 関心がある |
| 42.9 | どちらかといえば関心がある |
| 16.3 | どちらかといえば関心がない |
| 4.3 | 関心がない |
| 8.3 | わからない |
| 2.9 | 無回答 |
- 10 ページ問 18 へ

（問 17 で「1」、「2」とお答えの方に）

問17-1 あなたが、「食育」に関心を持ったきっかけは何ですか。 n=926（〇はいくつでも）

- | | | | |
|------|----------------------|------|---------------|
| 43.6 | 家庭で日頃から親に教わっていたこと | 6.7 | 農林漁業体験 |
| 14.8 | 学校で習ったこと | 8.0 | 食に関するイベントへの参加 |
| 19.5 | 結婚したこと | 5.8 | 講演会、セミナーへの参加 |
| 51.3 | 親になったこと | 11.2 | その他 |
| 8.1 | 子どもが学校等で学習したことに影響されて | | （具体的に |
| 28.2 | 食に関する事件 | 1.2 | 無回答 |

問 18 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があると思いますか。

n=1,359（○は1つ）

8.0 十分あると思う	29.4 あまりないと思う
56.5 ある程度あると思う	4.1 全くないと思う
	2.0 無回答

問 19 あなた又はあなたの家族の中で、農林漁業に関する体験（※）に参加したことのある方はいますか。

n=1,359（○は1つ）

49.4 いる	45.3 いない	4.1 わからない	1.3 無回答
---------	----------	-----------	---------

（※）農林漁業に関する体験例：いちご狩りなどの収穫体験、農作業体験、学童農園での栽培や調理実習、学校での体験活動、市民農園での栽培体験、道の駅や交流施設などの体験活動、農林漁村に宿泊し交流する教育旅行など

問 20 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っていますか。

n=1,359（○は1つ）

53.5 知っている	44.4 知らない	自由記述へ	2.1 無回答
------------	-----------	-------	---------

→（問 20 で「1」とお答えの方に）

問 20-1 あなたは、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えていますか。

n=727（○は1つ）

65.9 伝えている	33.6 伝えていない	0.6 無回答
------------	-------------	---------

（すべての方に）

このほかに、「食育について」やここまでの質問（問 17～問 20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について】

県では、誰もが自発的かつ積極的にAED（自動体外式除細動器）（※）を用いた心肺蘇生法を実施できる環境づくりを基本理念とし、AED等の普及啓発に取り組んでいます。

今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

（※）傷病者の胸に貼ったパッドから自動的に心臓の状態を判断し、心室細動等の不整脈があったと判断された場合は、電気ショックを心臓に与える機能を持っている。

問 21 あなたは、見知らぬ人が目の前で突然倒れ、その人の意識がなかった場合、その人に胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を出来ると思いますか。n = 1,359（○は1つ）

26.9 できる → 問 21-1 へ 71.2 できない → 問 21-2 へ 1.8 無回答

（※）一般的な心肺蘇生法では、倒れている人の意識や呼吸がない場合、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸（人工呼吸はできる場合のみ）を実施することとなっています。

（問 21 で「1」とお答えの方に）

問 21-1 あなたは、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできると思いますか。n = 366（○は1つ）

80.1 できる → 問 22 へ 19.9 できない → 問 21-3 へ

（問 21 で「2」とお答えの方に）

問 21-2 胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。n = 968（○はいくつでも）

- 53.3 やり方がわからない（忘れた）から
- 39.4 やり方はわかるが、できる自信がないから
- 24.2 救急隊を待った方が良くと思うから
- 18.5 責任を問われたくないから
- 15.2 人工呼吸に抵抗があるから
- 10.7 体に触れることに抵抗があるから
- 6.7 周りの目が気になるから
- 2.9 その他（ ）
- 3.4 無回答

（問 21-1 で「2」とお答えの方に）

問 21-3 異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。n = 73（○はいくつでも）

- 49.3 人工呼吸に抵抗があるから
- 41.1 異性の体に触れることに抵抗があるから
- 27.4 責任を問われたくないから
- 16.4 周りの目が気になるから
- 9.6 その他（ ）
- 5.5 無回答

問 22 A E D（自動体外式除細動器）という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。n = 1,359（○は1つ）

- 49.2 見たり聞いたりしたことがある
- 40.3 使い方を学んだことがある
- 0.7 実際に倒れた人に使ったことがある
- 8.0 1～3のいずれもない
- 1.8 無回答

問 23 もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にA E Dがあれば、あなたはその人にA E Dを使用することができると思いますか。n = 1,359（○は1つ）

37.7 できる → 12ページ問23-1へ 59.8 できない → 12ページ問23-2へ
2.5 無回答

（問 23 で「1」とお答えの方に）

問 23-1 あなたは、異性に対してAEDを使用することができますと思いますか。

n=512（○は1つ）

89.1	できる	→問24へ	9.4	できない	→問23-3へ	1.6	無回答
------	-----	-------	-----	------	---------	-----	-----

（問 23 で「2」とお答えの方に）

問 23-2 AEDを使用できないと思う理由は何ですか。 n=813（○はいくつでも）

59.0	使用方法がわからない（忘れた）から
54.2	AEDを使用すべき状態かどうかわからないから
25.2	救急隊を待った方が良くと思うから
10.0	服を脱がすことに抵抗があるから
16.5	責任を問われたくないから
5.4	周りの目が気になるから
3.3	その他（ ）
12.3	無回答

（問 23-1 で「2」とお答えの方に）

問 23-3 異性に対してAEDを使用できないと思う理由は何ですか。

n=48（○はいくつでも）

81.3	異性の服を脱がすことに抵抗があるから
31.3	責任を問われたくないから
22.9	周りの目が気になるから
2.1	その他（ ）
8.3	無回答

問 24 応急手当の講習をどこで受講できると良いですか。n=1,359（○はいくつでも）

43.9	消防署	51.1	学校（授業の一環）	2.6	映画館
33.5	市役所	38.0	自身の職場	1.5	コンサートホール
28.8	保健所	1.6	空港	7.1	その他（ ）
10.2	警察署	24.7	ショッピングセンター・モール	4.1	無回答

（すべての方に）

このほかに、「心肺蘇生法及びAED（自動体外式除細動器）について」やここまでの質問（問 21～問 24）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。



【ＩＣＴ利活用の推進について】

県では、人口減少や少子高齢化の進展が予想される中、ＩＣＴ（情報通信技術）を効果的に活用し、持続的な経済と社会の発展を実現するため、今年９月に「県民の暮らしを豊かにする千葉県ＩＣＴ利活用戦略」を策定しました。

本戦略は、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」を目指し、「あらゆる人が暮らしやすい社会」「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」「生産性の高い産業に支えられる社会」の３つの観点から、ＩＣＴの利活用を進めていくこととしており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 25 あなたは、「あらゆる人が暮らしやすい社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。 n=1,359 (○は2つまで)

- 45.5 行政手続のオンライン化等により、いつでもどこからでも行政サービスを利用できる
- 38.1 行政機関等が有するデータが利用しやすいかたちで提供されることで、誰もが必要な情報を容易に入手できる
- 12.8 ドローン等の活用により、道路や橋などのインフラが効率的に維持・管理できる
- 28.6 交通事故や犯罪に関するデータを地図上にマッピングすることで、誰もが迅速に危険を把握できる
- 18.8 災害情報や医療情報等が多言語で提供されている
- 22.5 子育てに役立つ情報がいつでも容易に入手でき、また、保育所の送迎等を助けあうコミュニティができることで、子育ての負担が軽減される
- 6.3 無回答

問 26 あなたは、「誰もがどこでも能力を発揮できる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。 n=1,359 (○は2つまで)

- 48.6 テレワーク等の普及により、誰もが介護や子育てと仕事を両立することができる
- 13.7 多言語翻訳アプリ等の普及により、言葉の壁に左右されずに働くことができる
- 28.6 障害に応じた移動支援や作業補助の提供等により、障害の有無に左右されず働くことができる
- 17.4 自宅のパソコンやタブレットにより、いつでも大学等の講義が視聴でき、また、学校のＩＣＴ環境が整備され、多様な教育機会が提供されている
- 22.1 使われていない資産の有効活用がなされている（例、自動車や空きスペースのシェア等）
- 29.8 誰もが社会貢献に参画できる環境が整っている（例、ボランティアに関心ある県民と地域のニーズのマッチング等）
- 8.2 無回答



問 27 あなたは、「生産性の高い産業に支えられる社会」の具体例として挙げた以下の項目のうち、特にどれが重要だと思いますか。 n=1,359 (○は2つまで)

- | | |
|------|---|
| 16.3 | 中小企業において、I o TやA I等の導入により、製品・サービスの高付加価値化や生産性向上、後継者の確保等につながっている |
| 5.2 | コンビナート等においてI o Tを活用した運転管理・設備管理が進むことで、生産性向上が図られる |
| 17.0 | ロボット技術を活用した物流システムが実現し、物流関係企業の立地が進むことで、空港や道路ネットワークなどの本県の強みが最大限活用されている |
| 64.8 | 健康や医療、介護データの活用により、サービス提供の効率化が図られ、また、遠隔での健康管理・見守りが可能となることで、一人暮らしの高齢者や障害者などが安心して生活できる |
| 14.7 | A I、I o T等の導入により農林水産業の省力化や効率化が図られ、品質や生産性が向上する |
| 4.3 | 多言語翻訳ツールや、キャッシュレス決済の普及により、外国人旅行者がストレス無く観光を楽しむことができる |
| 37.8 | 再生可能エネルギーの利用やエネルギー消費を制御するシステムの導入等により、温室効果ガスの排出が抑制される |
| 8.1 | 無回答 |

(※) I o T:インターネット・オブ・シングス (Internet of Things) の略。

様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

(※) A I : 人工知能 (Artificial Intelligence) の略。人間の知能をコンピューター上で人工的に構築し、これまで人間が脳内で行ってきた作業を再現する仕組み。

問 28 あなたは、「県民の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会」がどの程度、実現できていると思いますか。 n=1,359 (○は1つ)

- | | |
|------|-------------|
| 0.8 | 実現できている |
| 10.9 | ある程度実現できている |
| 43.6 | どちらとも言えない |
| 29.9 | あまり実現できていない |
| 10.7 | 実現できていない |
| 4.2 | 無回答 |

(すべての方に)

このほかに、「ICT利活用の推進について」やここまでの質問（問 25～問 28）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n = 1, 359（○は1つ）

44.2	男性	54.0	女性	0.1	その他	1.8	無回答
------	----	------	----	-----	-----	-----	-----

F 2 あなたは満何歳ですか。 n = 1, 359（○は1つ）

0.7	18～19歳	18.1	40～49歳	37.1	65歳以上
6.0	20～29歳	17.3	50～59歳	1.8	無回答
9.7	30～39歳	9.3	60～64歳		

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n = 1, 359（○は1つ）

8.1	自営業者	2.3	学生	1.9	無回答
41.7	勤め人	19.1	無職		
22.7	主婦・主夫	4.1	その他（	）	

F 4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。 n = 1, 359（○は1つ）

15.7	千葉市	3.5	佐倉市	0.7	匝瑳市	0.6	勝浦市
5.1	市原市	1.0	四街道市	0.7	東金市	0.4	いすみ市
10.3	船橋市	1.3	八街市	1.0	山武市	0.6	夷隅郡大多喜町
7.1	市川市	1.2	印西市	0.4	大網白里市	0.0	夷隅郡御宿町
2.0	習志野市	1.0	白井市	0.6	山武郡九十九里町	0.4	館山市
2.2	八千代市	1.5	富里市	0.0	山武郡芝山町	0.5	鴨川市
2.9	浦安市	0.3	印旛郡酒々井町	0.4	山武郡横芝光町	0.7	南房総市
6.8	松戸市	0.0	印旛郡栄町	2.1	茂原市	0.0	安房郡鋸南町
2.7	野田市	1.0	香取市	0.0	長生郡一宮町	2.2	木更津市
6.3	柏市	0.4	香取郡神崎町	0.0	長生郡睦沢町	1.4	君津市
2.6	流山市	0.0	香取郡多古町	0.4	長生郡長生村	0.6	富津市
2.4	我孫子市	0.0	香取郡東庄町	0.0	長生郡白子町	1.2	袖ヶ浦市
1.8	鎌ヶ谷市	1.1	銚子市	0.0	長生郡長柄町	1.8	無回答
1.5	成田市	1.0	旭市	0.4	長生郡長南町		

以上で質問はすべて終わりです。
このほかにも、県へのご意見があればご自由にお書きください。

また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。
ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、12月5日（木）
までに、ポストにご投函ください。
なお、返信用封筒への名前や住所の記入、切手は不要です。



チーバくん

令和元年度

(第59回)

県 政 に 関 す る 世 論 調 査

令和2年5月発行

(令和元年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町1番1号

(広聴室) 電話 043-223-2469
